

2021 年 12 月

食料安全保障月報

(第 6 号)



令和 3 年 12 月 27 日

農林水産省

食料安全保障月報について

1 意義

我が国は食料の大半を海外に依存していることから、主食や飼料原料となる主要穀物(コメ、小麦、とうもろこし)及び大豆を中心に、その安定供給に向けて、世界の需給や価格動向を把握し、情報提供する目的で作成しています。

2 対象者

本月報は、2021年6月まで発行していた海外食料需給レポートに食料安全保障の観点から注目している事項を適宜追加する形で、国民のみなさま、特に、原料の大半を海外に依存する食品加工業者及び飼料製造業者等の方々に対し、安定的に原料調達を行う上での判断材料を提供する観点で作成しています。

3 重点記載事項

我が国が主に輸入している国や代替供給が可能な国、それに加えて我が国と輸入が競合する国に関し、国際相場や需給に影響を与える情報（生育状況や国内需要、貿易動向、価格、関連政策等）について重点的に記載しています。

4 公表頻度

月1回、月末を目処に公表します。

2021 年 12 月食料安全保障月報（第 6 号）

目 次

概要編

I	2021 年 12 月の主な動き	1
II	2021 年 12 月の穀物等の国際価格の動向	3
III	2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント	3
IV	2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント	3
V	今月の注目情報 史上最高の穀物生産となった中国	4

（資料）

1	穀物等の国際価格の動向	7
2	穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移	8
3	穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、品目別）	9
4	加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の状況	11
5	FAO 食料価格指数の推移	15
6	食品小売価格の動向	16

品目別需給編

I	穀物	
1	小麦	1
	＜米国＞	10 月の月間輸出量はここ 30 年で最低水準
	＜カナダ＞	USDA の生産量予測は前月から上方修正され 21.7 百万トン
	＜豪州＞	2021/22 年度の実産量は 34.0 百万トンと史上最高の豊作見込み
	＜EU＞	2022/23 年度の冬小麦はバルカン半島南部等の一部を除き越冬期
	＜中国＞	天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し
	＜ロシア＞	生産量は前月に比べ 1.0 百万トン上方修正。品質は良好
2	とうもろこし	8
	＜米国＞	収穫面積増、単収増で生産量史上第 2 位、輸出減の見通し
	＜ブラジル＞	収穫面積増、単収増で生産量史上最高の見通し
	＜アルゼンチン＞	収穫面積増、単収増で生産量史上最高、輸出税は継続
	＜中国＞	生産量下方修正も史上最高、消費量も史上最高の見通し
3	コメ	13
	＜米国＞	輸量・輸入量ともに下方修正されるも価格は高値で推移
	＜インド＞	2020/21 年度の輸量が 20.2 百万トンに上方修正
	＜中国＞	中国全土でコメの収穫が終了
	＜タイ＞	洪水の発生により生産量が下方修正
	＜ベトナム＞	インドからの碎米輸入は食品加工用のほか飼料用やビール用

Ⅱ 油糧種子

大豆・・ 19

＜米国＞ 生産量は史上第2位、輸出減の見通し

＜ブラジル＞収穫面積増で生産量は史上最高の見通し

＜アルゼンチン＞単収増で増産見通し、輸出税は継続

＜中国＞ 収穫面積・単収下方修正で減産見通し、輸入量は史上最高の1億トン

＜カナダ＞ 収穫面積・単収上方修正も、西部での高温乾燥の影響で減産見通し

特別編「ブラジルの農業とコロナ感染拡大の影響」

※ 農林水産政策研究所 研究成果報告会

「ロシア、ブラジル・アルゼンチン、オーストラリアーコロナ禍と農業ー(2021年11月30日)」での林 瑞穂 主任研究官(国際領域)の報告を基に作成。

http://www.maff.go.jp/primaff/koho/seminar/2021/attach/pdf/211130_02.pdf

【利用上の注意】

表紙写真：ブラジル中西部マット・グロッソ州の大豆圃場。9月に作付けされ、天候に恵まれ、生育状況は良好。来年1月には収穫予定(12月5日撮影)。

(概要編)

I 2021 年 12 月の主な動き

主要穀物等の需給・相場等について

主要穀物等の 2021/22 年度の作況については、北半球はほぼ確定しつつあるが、これから作付け・収穫が行われる南半球は今後も変動する可能性。

品目別にみると、12 月の米国農務省 (USDA) の需給報告では、小麦については、生産量は豪州等で上方修正され史上最高となるものの、米国やカナダの減産により世界の期末在庫率は前年度を下回っていること等から、国際相場は高い水準で推移しており、今後も注視が必要。

一方、大豆・とうもろこしについては、生産量が消費量を上回ると予想され、相場も史上最高水準にまで迫った 5 月頃と比較すれば一段落した感があるものの、期末在庫は依然としてタイトな状況であり、南半球の状況を中心に引き続き注視していく必要。

FAO (国連食糧農業機関) が公表している食料価格指数については、植物油は 10 月からわずかに下落したものの、穀物、乳製品、砂糖の上昇の影響を受け 4 か月連続で上昇し、最新値 (11 月) は 2011 年 6 月以来の最高水準。

海上運賃については、10 月以降、バルチック海運指数 (穀物輸送に主に使用される外航ばら積み船の運賃指数) は下落傾向が見られるものの、引き続き高い水準で推移。

早期注意段階の継続について

現状において、我が国の食料の安定供給に懸念は生じていないものの、上記の状況を踏まえ、2021 年 7 月から適用を開始した、緊急事態食料安全保障指針に基づく「早期注意段階」については、12 月も引き続き適用。

【参考】早期注意段階について (農林水産省 HP)

<https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/soukichuui.html>



1 豪州の小麦と菜種は史上最高の生産量見通し

2020/21 年度の豪州の冬作物は 2 年連続で降雨に恵まれ、ABARES(豪州農業資源経済科学局)「Crop Report」(2021.11.29)によれば、冬作物の生産量は史上最高の 5,840 万トンの見通し。特に、小麦 3,440 万トン、菜種 570 万トンもそれぞれ史上最高、大麦も 1,330 万トンで史上第 2 位となる見通し。

州別には、西オーストラリア州の冬作物生産量は史上最高の 2,120 万トンで、小麦 1,170 万トン、菜種 280 万トンも史上最高の見通し。ニューサウスウェールズ州も降雨過多で品質低下の懸念はあるものの、冬作物の生産量は史上第 2 位の 1,780 万トン、クイーンズランド州も史上第 2 位となる等、各州とも豊作見通しである。

一方、北米の小麦や菜種等の減産に伴い、豪州への輸入国の買い付けが集中しているが、豪州の輸出港の取扱能力に限界があることから、輸入国から見ると、輸入ロットの確保が困難となり、コストの上昇等の懸念がある。

写真：豪州 南オーストラリア州の
小麦収穫 (11 月 29 日撮影)



2 ブラジルのとうもろこし、大豆の初期生育は降雨により概ね順調

ブラジルにおいては、降雨の少ない南部を除き、北部から中西部にかけての産地に降雨があったことから、とうもろこし、大豆ともに初期生育は概ね順調に進展している。ブラジル食料供給公社 (CONAB) の穀物レポート (2021.12.9) によれば、2021/22 年度の穀物・油糧種子全体の生産量は、干ばつや霜害のあった前年度と比較して 15% 増の史上最高となる 2 億 9,110 万トンが見込まれている。うち大豆は史上最高の 1 億 4,280 万トンの見通し。とうもろこしも夏作は 2,910 万トン、前年度に干ばつや霜害のあった冬作は、前年度から大幅な増産となる 8,810 万トンで合計で史上最高の 1 億 1,720 万トンの見通し。

3 ロシア・ウクライナの輸出規制

ロシアについては、米国農務省 (USDA) の 12 月見通しによれば 2021/22 年度の穀物生産量は 1 億 1,460 万トン、うち、小麦は前年度比 12% 減の 7,550 万トンとなる見通し。なお、冬小麦については前月見通しから生産量が上方修正された。

本年 6 月から小麦、大麦、とうもろこし、9 月からひまわり油に可変輸出関税が導入されており、現在も継続中。中でも小麦の関税額は大幅に上昇し、6 月当初の 28.1 ドル/トンから 12 月 17 日時点で 94.0 ドル/トンまで上昇している。

さらに、ロシア経済発展省は、2022 年 2 月 15 日から 6 月 30 日まで、小麦、とうもろこし、大麦、ライ麦計で 1,100 万トン、うち小麦 800 万トンの輸出枠を導入する予定と発表した。

ウクライナについては、同じく USDA によれば、2021/22 年度の穀物生産量は 8,460 万トン、うち、小麦は前年度比 30% 増の 3,300 万トン、とうもろこしは、干ばつのあった前年度と比較して 32% 増の史上最高となる 4,000 万トンとなる見通し。

なお、小麦については、2021/22 年度の輸出上限数量を 2,530 万トンとすることで、政府と業界との間で合意がされている。

Ⅱ 2021 年 12 月の穀物等の国際価格の動向

小麦は、11月末、280ドル/トン台半ばで推移。12月に入り、旺盛な世界需要から290ドル/トン台半ばまで上昇したものの、USDAの12月需給報告で世界の供給見通しが引き上げられたこと等から270ドル/トン台後半に値を下げた。

その後、米国プレーンズの乾燥天候懸念から値を上げ、12月中旬現在、280ドル/トン台半ばで推移。

とうもろこしは、11月末、220ドル/トン台前半で推移。12月に入り、小麦価格上昇への追随や南米の乾燥懸念等から12月上旬に230ドル/トン前後まで値を上げた。その後、南米の順調な作付け・生育進捗の一方、肥料価格高騰を背景とする米国の2022/23年度の作付けの伸び悩み懸念やラニーニャ現象に伴う南米の今後の乾燥懸念等から、価格はほぼ横ばいで推移し、12月中旬現在、230ドル/トン台前半で推移。

コメは、11月末、410ドル/トン台後半で推移。12月に入り、バーツ安により410ドル/トン台前半まで値を下げた後、12月中旬にかけてバーツ高に転じたことで410ドル/トン台半ばまで値を上げた後、12月中旬現在も410ドル/トン台半ばで推移。なお、輸出業者は、ベトナム産と比較してタイ産米の高い価格競争力から、コメの輸出量が600万トンの目標を達成出来ると楽観視している。

大豆は、11月末、440ドル/トン台後半で推移。12月に入り、小麦価格上昇への追随や南米の乾燥懸念等から12月上旬に460ドル/トン台半ばまで値を上げた。その後、南米の順調な作付け・生育進捗の一方、米国の中国向けを中心とする旺盛な輸出需要やラニーニャ現象に伴う南米の今後の乾燥懸念等から価格は小幅に上下し、12月中旬現在、470ドル/トン台前半で推移。

(注) 小麦、とうもろこし、大豆はシカゴ相場（期近物）、米はタイ国家貿易委員会価格

Ⅲ 2021/22 年度の穀物需給（予測）のポイント

世界の穀物全体の生産量は、前月から430万トン上方修正され 27.9億トン。消費量は、前月から420万トン上方修正され 27.9億トン となり、生産量が消費量を下回る見込み。

また、期末在庫率は前年度を下回り28.5%となる見込み（資料2参照）。

生産量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで上方修正、コメで下方修正され、穀物全体で上方修正され27.9億トンの見込み。

消費量は、前月予測から、小麦、とうもろこしで上方修正、コメで下方修正され、穀物全体で上方修正され27.9億トンの見込み。

貿易量は、前月予測から、小麦、とうもろこし、コメで上方修正され、5.1億トンの見込み。

期末在庫量は、8.0億トンと前月予測から上方修正、期末在庫率は前月からわずかに上方修正された。

(注：数値は12月のUSDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」による)

Ⅳ 2021/22 年度の油糧種子需給（予測）のポイント

油糧種子全体の生産量は前年度を上回り 6.3億トン。消費量は前年度を上回り 6.2億トン となり、生産量が消費量を上回る見込み。

なお、期末在庫率は前年度を上回り、18.3%となる見込み。

(注：数値は12月のUSDA「Oilseeds: World Markets and Trade」による)

V 今月の注目情報：史上最高の穀物生産となった中国

中国の2021/22年度の食糧（穀物や豆類、イモ類の計）生産量は6億8,000万トンを超え、史上最高を更新する見通し。特にとうもろこしや小麦の生産量は史上最高の見通し。一方、国内需要はアフリカ豚熱（ASF）からの豚肉生産の回復から飼料用需要が増加し、これに伴い、飼料用の小麦やとうもろこしの輸入も増加した。ただ、最近是中国経済の先行きの不透明感や国内在庫の積み上がりから輸入量が前年同月を下回る月もある。最近の中国の状況をまとめた。

1 生産動向

中国国家统计局 12 月 6 日公

表の「2021 年糧食生産量データ」によると、2021 年の食糧（穀物、豆類、イモ類）の合計で前年より 2.0%、1,336 万トン増の 6 億 8,285 万トン（コメはもみベース）となった。7 年連続で 6 億 5,000 万トン以上の生産量を達成した。

うち、穀物は 6 億 3,276 万トン（対前年比 2.6%増）。品目別には、生産量の多い順にとうもろこし 2 億 7,255 万トン（対前年比 4.6%増）、コメ（もみベース）2 億 1,284 万トン（同 0.5%増）、小麦 1 億 3,695 万トン（同 2.0%増）で、とうもろこし、コメ、小麦はともに史上最高となった。

特に、とうもろこしは価格の上昇により農家の作付意欲が増加したことから作付面積が増加、小麦も作付時期の土壌水分が潤沢であったことと、収益性が高かったことから作付面積が増加した。これらのことが増産の要因となっている。

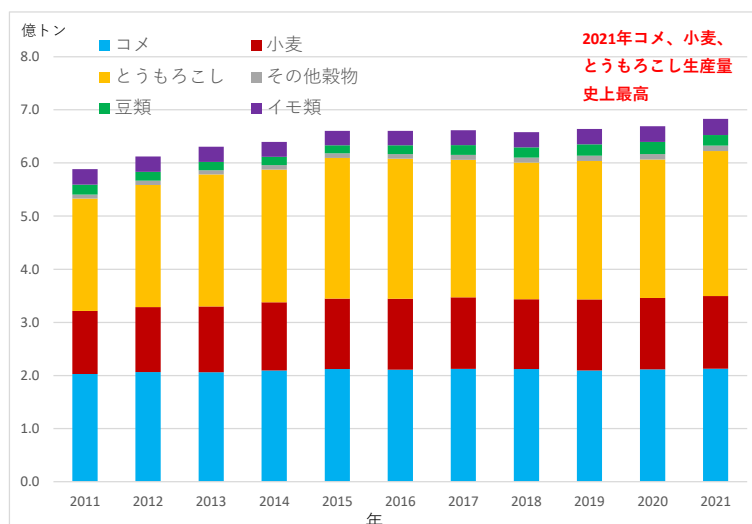
一方、大豆は、とうもろこしと比べ収益性が低かったことから作付面積が減少し、対前年比 16.4%減の 1,640 万トンと生産量も減少した。

地域別の食糧生産量については、東北三省（黒龍江省、吉林省、遼寧省）と内蒙古自治区で大幅に増加（+940 万トン）し、洪水被害のあった河南省の減産（▲280 万トン）をカバーした。

2 国内の需要と輸入の動向

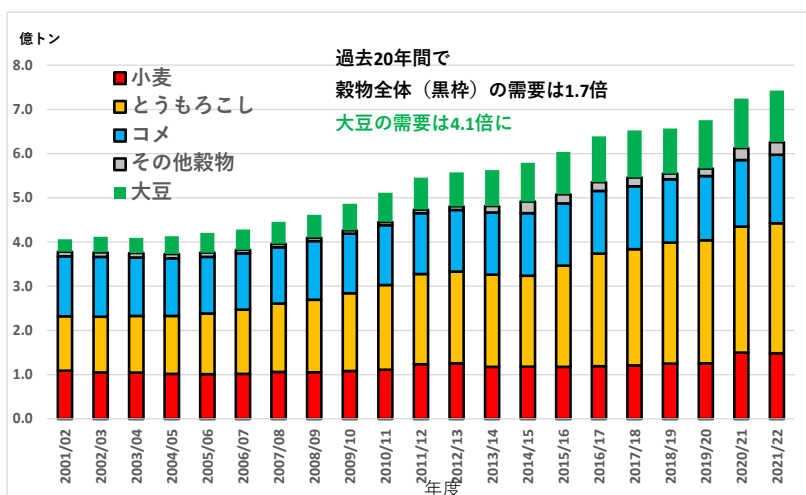
（1）穀物需要は増加

図 1 過去 10 年間の穀物の生産量の推移 2021 年は史上最高



出典：中国国家统计局資料を農林水産省で加工

図 2 過去 20 年の穀物・大豆の需要量の推移



出典：USDA 「PS&D」(2021. 12. 9)を農林水産省で加工

2021/22 年度の穀物需要に関しては、USDA の 12 月見通しによれば、前年度に引き続き、ASF から豚肉生産の飼料向け需要の回復等により増加する見通し。過去 20 年間で 1.7 倍に増加する見通し。

特にとうもろこし、小麦については 2020/21 年度に需要が大きく増加し、とうもろこしは 3% 増加し、価格が高騰したため、代替の小麦需要が 19% 増となった。2021/22 年度も需要量は高水準で継続する見通し。大豆も同様に需要が増加する見通しである。

ASF で落ち込んだ豚肉生産が 2020 年以降回復した際に、レストランなどからの食品残渣などを飼料として給餌していた小規模養豚経営から、とうもろこしや大豆かすなどを配合飼料として給餌する大規模経営に集約されてきた。そのため、ASF 発生以前の水準を超えて、とうもろこしや大豆かすの飼料用需要が増加したことが要因とされている。とうもろこしの需要増により価格が高騰し、小麦の価格を一時上回ったことから、飼料向けの小麦の需要も増加した。

図 3 中国の小麦(鄭州普通小麦)ととうもろこし(生産地)の卸売価格の推移

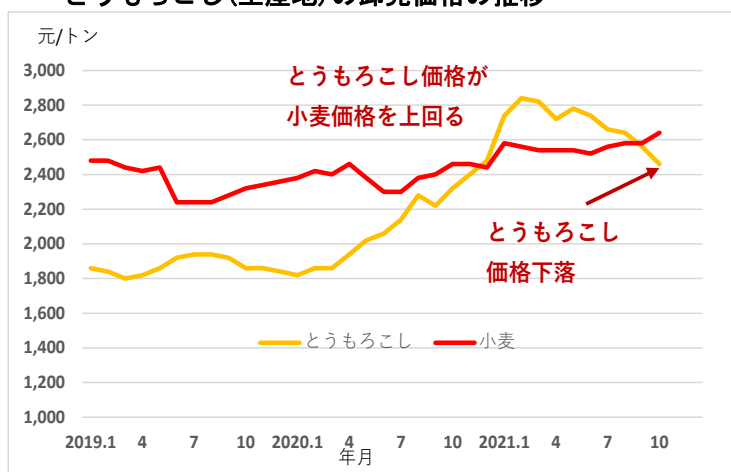
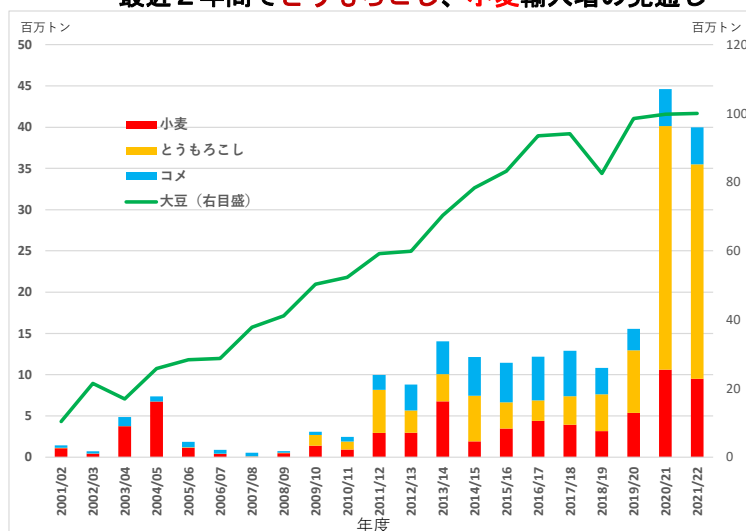


図 4 過去 20 年の穀物の輸入量の推移
最近 2 年間でとうもろこし、小麦輸入増の見通し



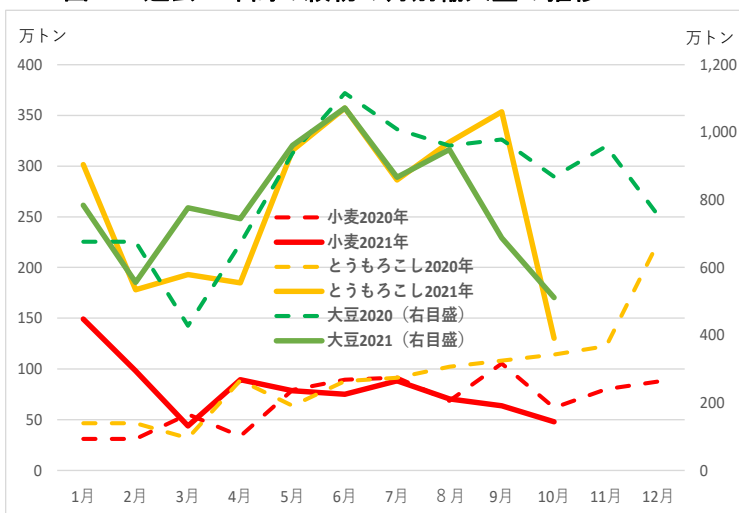
出典：USDA[PS&D] (2021. 12. 9)を農林水産省で加工

(2) 輸入量は増加も伸び悩み。

2020 年に輸入量が 1 億トンを超えた大豆については、海関統計によれば、2021 年 6 月以降、輸入量は前年同月を下回っており、10 月は 511 万トンと前年同月 (869 万トン) を大きく下回っている。1-10 月の累計でも 7,910 万トンと前年同期 (8,322 万トン) を下回っている。

また、2020 年に大幅に増加したとうもろこしや小麦の輸入量は、2021 年の前半もハイペースで続いた。1-10 月の累計では、とうもろこしは 2,624 万トン、小麦は 805 万トンとそれぞれ前年同期

図 5 過去 2 年間の穀物の月別輸入量の推移



出典：中国海関統計を農林水産省で加工

(とうもろこし 781 万トン、小麦 648 万トン) を上回っている。ただし、最近ペースが落ち、10 月のとうもろこし輸入量は前年同月 (114 万トン) を上回るものの、9 月 (353 万トン) より大幅に減少となる 130 万トン。また、10 月の小麦輸入量については、48 万トンと前年同月 (62 万トン) を下回った。

国別にみると、米国産の輸入量は、1-10 月期で比較すると、大豆、とうもろこし、小麦とも増加しており、それぞれ、対前年同期比 1.6 倍、7.5 倍、2.3 倍となっている。2020 年の米中通商協議一次合意以降、中国は米国産の輸入を増加させているが、2021 年も増加傾向が続いている。

コメについても上記作物と比べて規模は小さいが、輸入量が大幅に増加しており、2021 年 1-10 月期の輸入量は 384 万トンで、前年同期比 2.2 倍となり、すでに 2020 年の輸入量の 287 万トンを上回った。なお、内訳はインドやベトナムなどアジア諸国からの輸入がほとんどで、特に最近、インド産が増加している。米国産の輸入量はほとんどない。

3 期末在庫量と今後の見通し

中国政府は穀物の在庫量について公表していないため、USDA の 12 月見通し (4 ページと同じ表現に) によれば、2021/22 年度末の穀物の在庫については、穀物全体で 4 億 7,000 万トン。そのうち、とうもろこしは 2 億 1,000 万トン、小麦は 1 億 4,000 万トン、コメは 1 億 1,000 万トンとなっている。

2020/21、2021/22 年度は増産に加え、とうもろこし等の輸入増により在庫が積み増しされた。

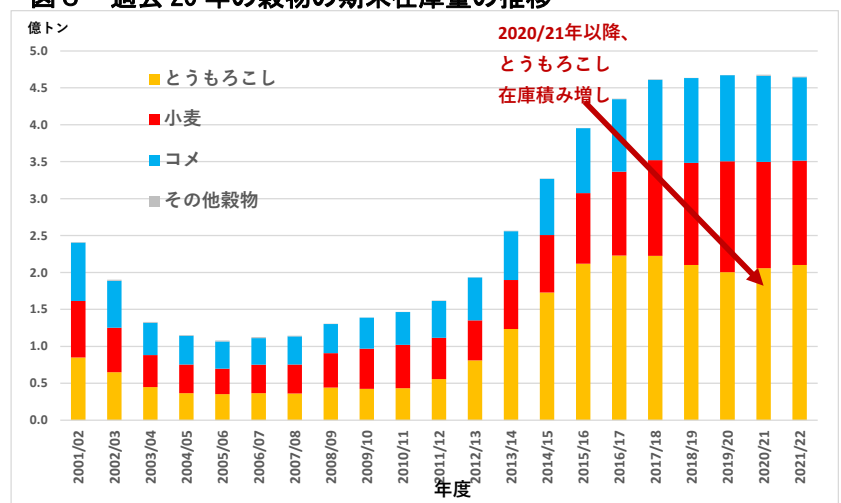
中国の経済成長は、石炭不足による電力需給のひっ迫や、大手不動産企業の経営問題等による影響もあり、減速しているのではないかとの見方もある。一方、来年 1 月以降には春節、北京 2022 冬季オリンピック・パラリンピックが控えている。特に、オリンピックに関しては、中国農業農村部が、開催地 (北京や河北省張家口市) での食料の安定供給を確保する必要があるとしている。

中国の穀物輸入増の要因となっていた豚肉生産に関しても、生産量の回復とともに価格も安定化している一方で、今後は、豚肉の輸入が増えるのではとの見方もある。

このような状況の中、今後の穀物の輸入見通しは不確定であるが、大豆はもちろんのこと、とうもろこし、コメは世界 1 位の輸入国、小麦も世界で上位の輸入国となっている。

中国の上記品目の輸入量は、すべて我が国を大きく上回っていることから、中国の貿易動向により国際相場を通じて我が国が受ける影響も大きいと、引き続き輸入状況を注視する必要がある。

図 6 過去 20 年の穀物の期末在庫量の推移



出典: USDA [PS&D] (2021. 12. 9) を農林水産省で加工

<2022 年当初の中国の主なイベント等>

春節 (旧正月) : 1 月 31 日 ~ 2 月 6 日

冬季オリンピック : 2 月 4 日 ~ 20 日

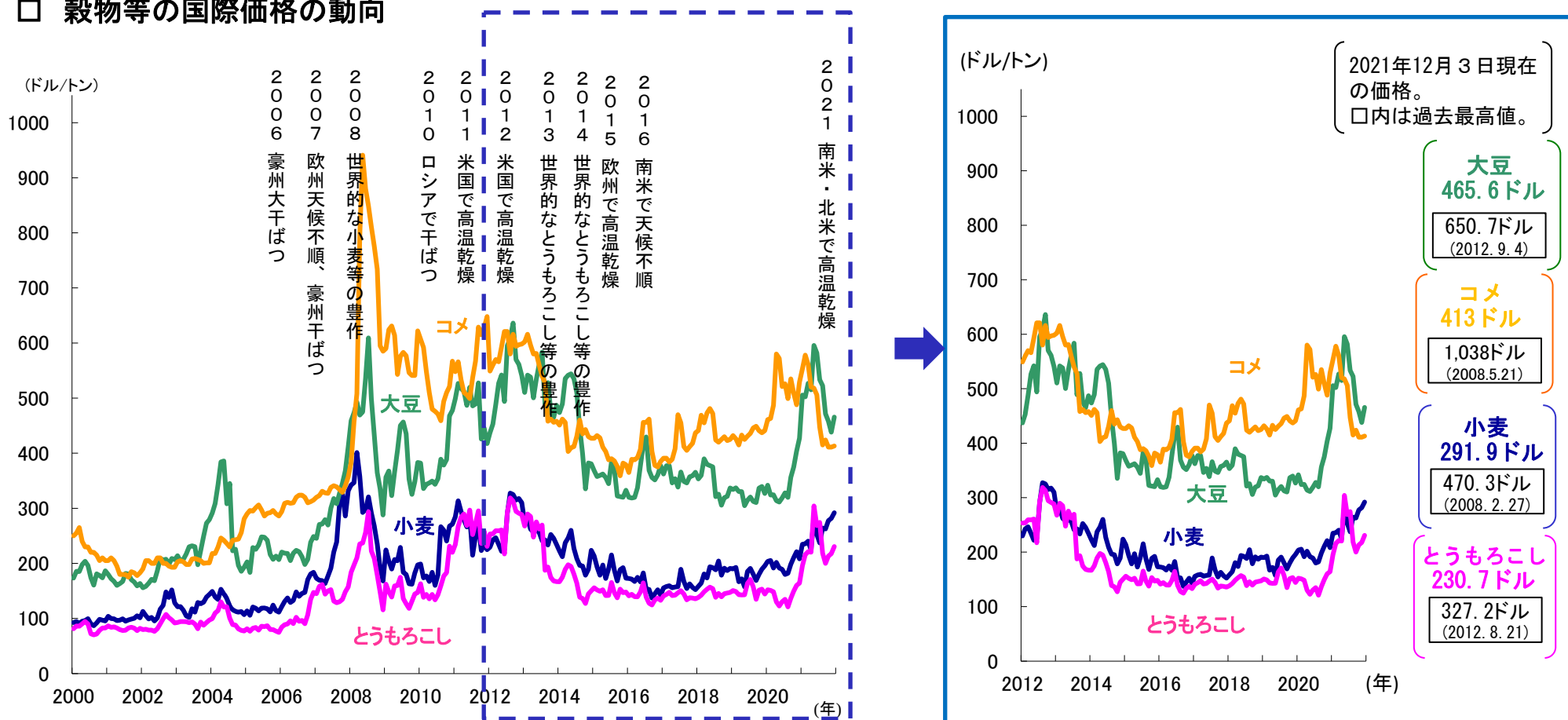
冬季パラリンピック : 3 月 4 日 ~ 13 日

資料 1 穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）

○とうもろこし、大豆が史上最高値を記録した2012年以降、世界的な豊作等から穀物等価格は低下。2017年以降ほぼ横ばいで推移も、2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇。コメは、2013年以降低下も2020年ベトナムの輸出枠設定や2021年初頭のコンテナ不足等で一時的に上昇。2021年2月半ばから海外需要低迷で低下。

○なお、穀物等価格は、新興国の畜産物消費の増加を背景とした堅調な需要やエネルギー向け需要により、2008年以前を上回る水準で推移している。

□ 穀物等の国際価格の動向



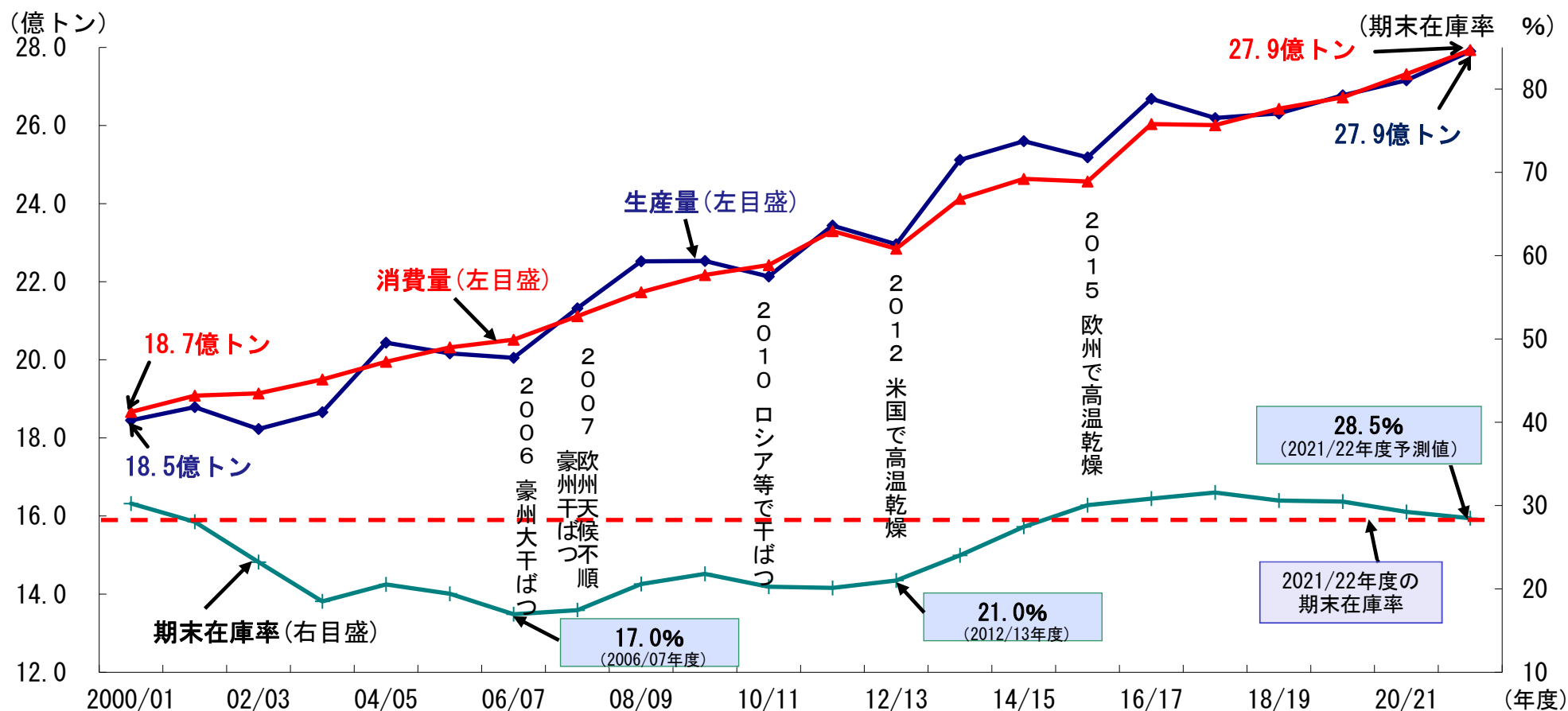
注1：小麦、とうもろこし、大豆は、シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格（セツルメント）である。コメは、タイ国家貿易取引委員会公表による各月第1水曜日のタイうるち精米100%2等のFOB価格である。

注2：過去最高価格については、コメはタイ国家貿易取引委員会の公表する価格の最高価格、コメ以外はシカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

資料2 穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2021/22年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2021/22年度の期末在庫率は、生産量が消費量を下回り、前年度より低下し、28.5%。直近の価格高騰年の2012/13年度(21.0%)を上回る見込み。

□ 穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移

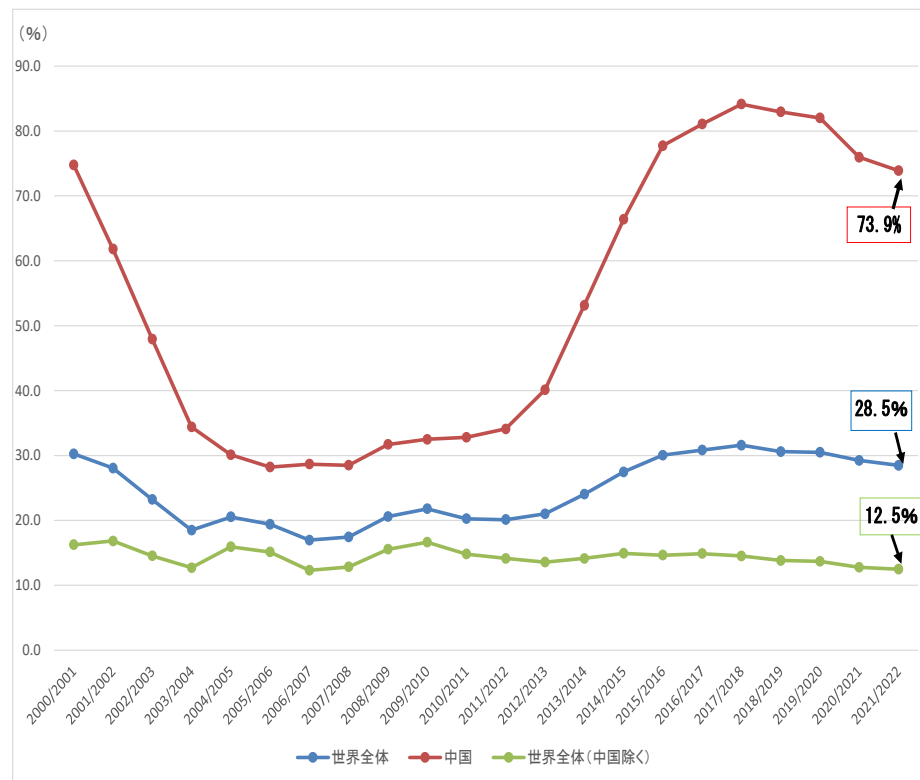


資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (December 2021)、「PS&D」

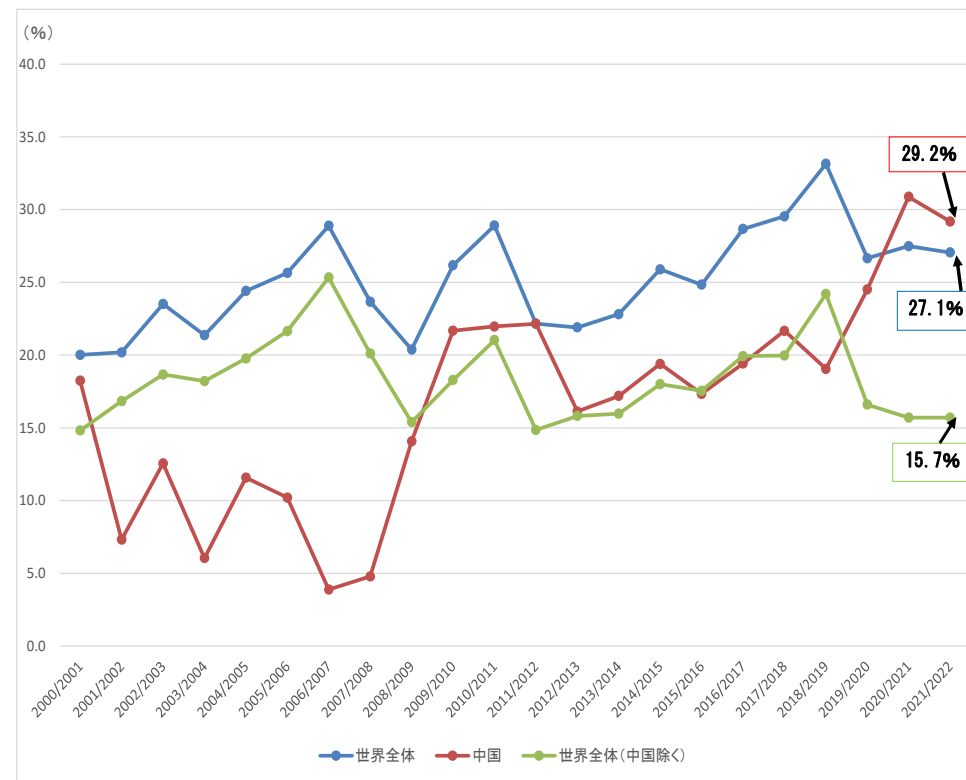
(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。

資料 3-1 穀物等の期末在庫率の推移（穀物全体、大豆）

○ 穀物全体の期末在庫率の推移



○ 大豆の期末在庫率の推移



資料：米国農務省「PS&D」(Decemberr 9, 2021)

注：1) 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等（大豆除く）。

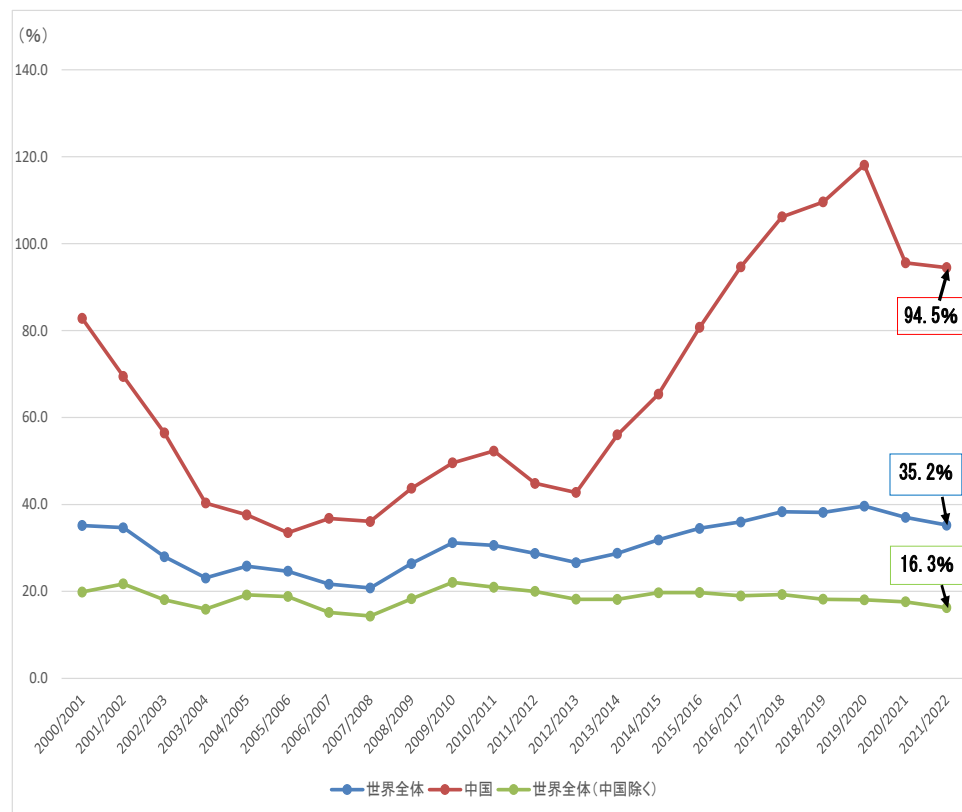
2) 世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / (消費量 + 輸出量 - 輸入量) × 100 ※ただし大豆については、世界の期末在庫率(%) = 期末在庫量 / 消費量 × 100

3) 中国の期末在庫率(%) = 中国の期末在庫量 / (中国の消費量 + 中国の輸出量) × 100

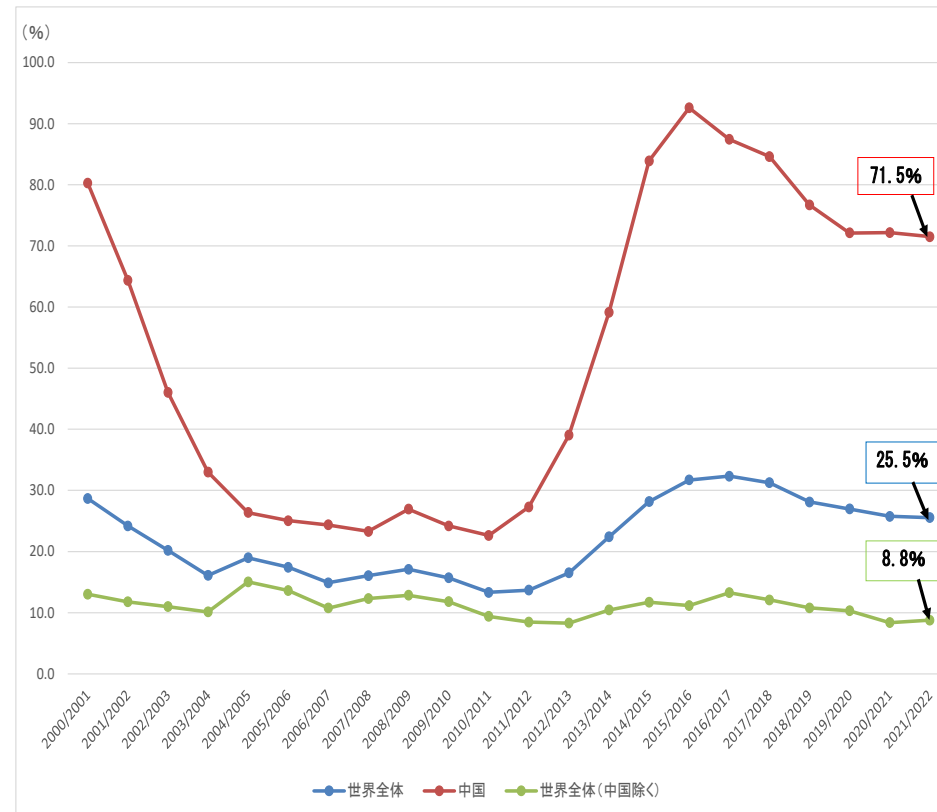
4) 中国除く期末在庫率(%) = 中国除く期末在庫量 / (中国除く消費量 + 中国除く輸出量) × 100

資料 3-2 穀物等の期末在庫率の推移（小麦、とうもろこし）

○ 小麦の期末在庫率の推移



○ とうもろこしの期末在庫率の推移



資料: 米国農務省「PS&D」(December 9, 2021)

注: 1)小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

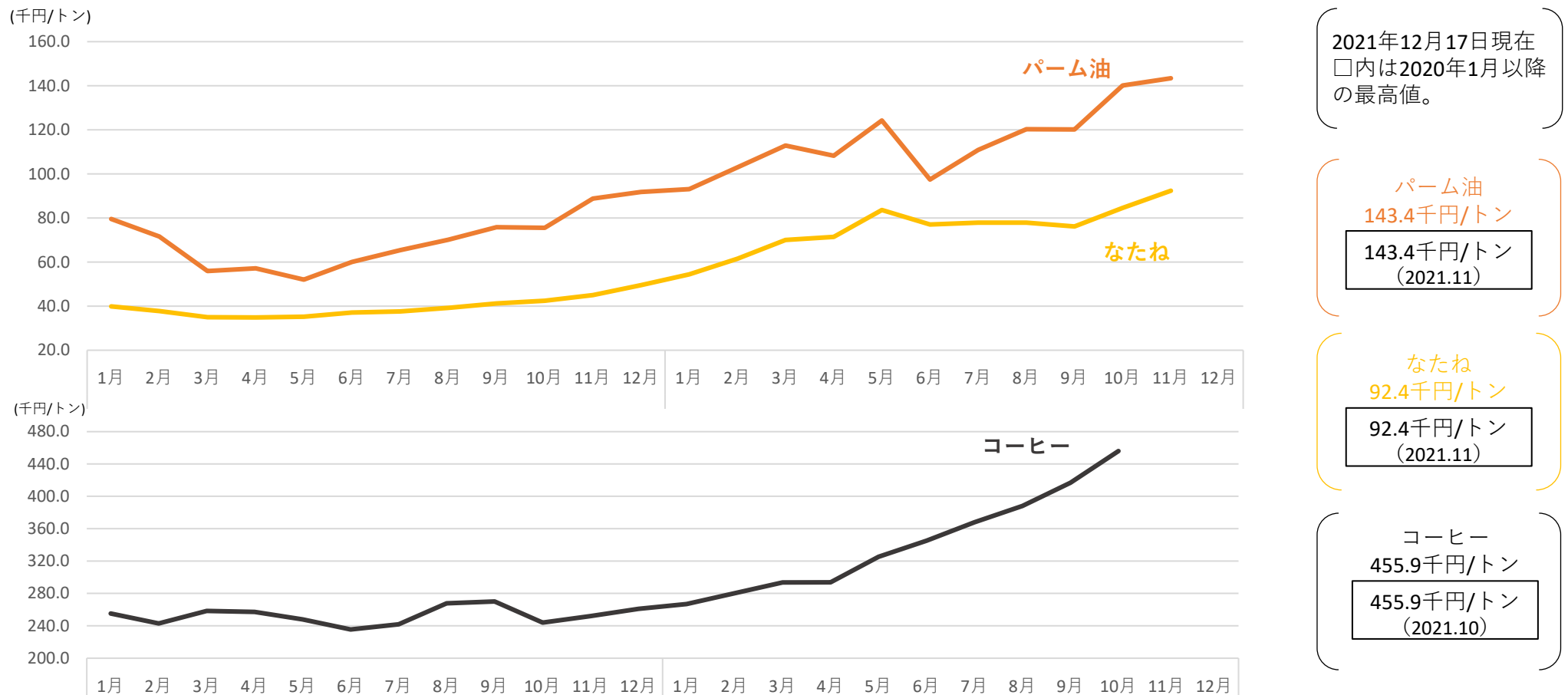
2)世界の期末在庫率(%)=期末在庫量/(消費量+輸出量-輸入量)×100

3)中国の期末在庫率(%)=中国の期末在庫量/(中国の消費量+中国の輸出量)×100

4)中国除く期末在庫率(%)=中国除く期末在庫量/(中国除く消費量+中国除く輸出量)×100

資料４－１ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の動向

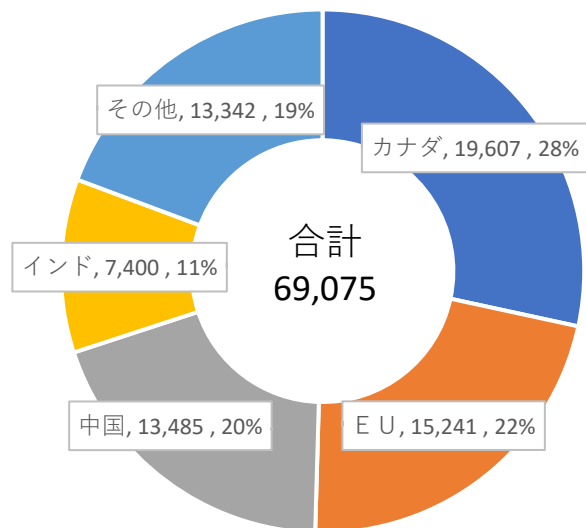
- なたね、パーム油について、需要の面では世界的な人口増加や中国等における所得水準の向上による食用油需要の拡大、エネルギー向け需要の増加などが価格に影響を及ぼしている。
- 供給面では、なたねについて、主産地であるカナダでの高温、乾燥の影響により、減産と品質の低下が見られる。パーム油については、新型コロナウイルスの感染拡大による労働力不足により、主産地であるマレーシアにおいて、収穫作業が進まず、減産傾向となっている。
- コーヒーについて、世界最大の生産国であるブラジルの天候不順や世界的な物流の混乱等供給不足への懸念が強まったこと、需要面ではワクチン接種による経済活動の回復からコーヒー消費量が増加したことが価格に影響を及ぼしている。



資料４－２ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の生産量及び輸入先

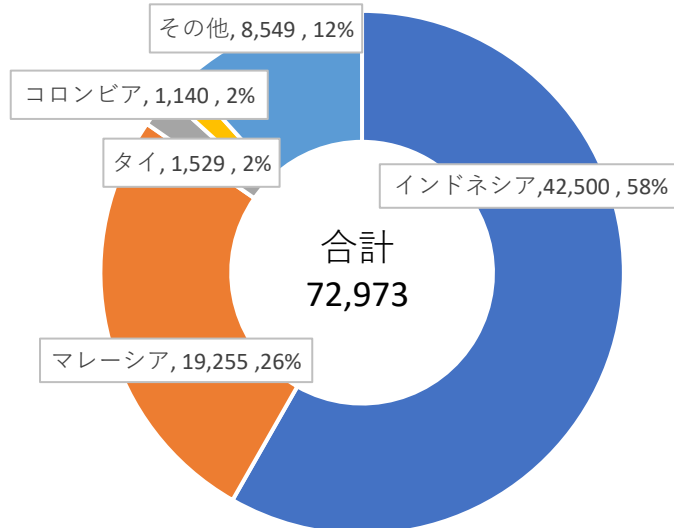
○主要生産国の生産状況

なたね生産量（2019/20）
（単位：千トン）



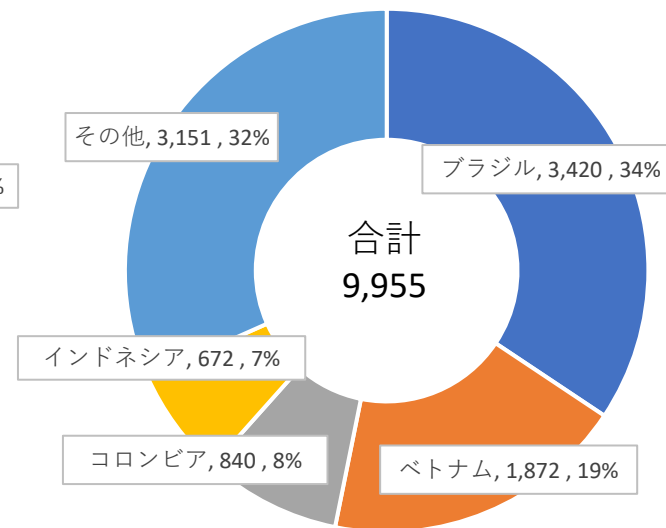
※米国農務省穀物等需給報告

パーム油生産量（2019/20）
（単位：千トン）



※米国農務省穀物等需給報告

コーヒー生産量（2019）
（単位：千トン）



※国際コーヒー機関（ICO）統計資料

○我が国の主な輸入先の状況（単位：千トン（2020年））

なたね	輸入量	割合
カナダ	2,194	97.4%
オーストラリア	59	2.6%
その他	0	0.0%
合計	2,252	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1205）

パーム油	輸入量	割合
マレーシア	447	58.8%
インドネシア	313	41.2%
その他	0	0.0%
合計	761	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：1511）

コーヒー	輸入量	割合
ブラジル	117	29.4%
ベトナム	101	25.2%
コロンビア	61	15.2%
その他	120	30.2%
合計	399	100.0%

※財務省「貿易統計」（HSコード：0901.11-22）

資料４－３ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移①

①なたね

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
なたね	39.9	37.8	35.0	34.9	35.2	37.1	37.6	39.2	41.2	42.5	45.0	49.5	54.4	61.5	70.0	71.4	83.6	77.0	77.8	77.9	76.2	84.5	92.4	
前月比	103.9	94.7	92.6	99.7	100.9	105.4	101.4	104.2	105.1	103.0	106.1	110.0	109.9	113.0	113.9	101.9	117.1	92.2	101.1	100.0	97.8	111.0	109.3	
前年同月比	101.0	94.9	91.6	92.1	98.4	101.8	102.0	109.7	112.6	112.3	119.6	128.9	136.4	162.7	200.1	204.6	237.4	207.6	206.9	198.5	184.9	199.2	205.2	

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 カナダウィニペグなたね定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

②パーム油

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
パーム油	79.5	71.6	55.9	57.1	52.1	60.0	65.4	70.1	75.8	75.5	88.8	91.8	93.1	102.9	112.9	108.2	124.2	97.4	110.8	120.3	120.1	140.1	143.4	
前月比	105.5	90.0	78.2	102.1	91.1	115.3	109.0	107.2	108.1	99.6	117.6	103.4	101.4	110.6	109.7	95.9	114.8	78.4	113.8	108.5	99.9	116.6	102.3	
前年同月比	134.5	115.7	96.0	100.0	98.9	115.0	129.8	129.3	131.9	135.9	134.6	121.7	117.0	143.8	201.8	189.4	238.6	162.3	169.4	171.5	158.4	185.5	161.5	

大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 マレーシアパーム油定期相場の各月の月央値（期近物）から算出

資料４－４ 加工食品の主な輸入原材料（穀物等を除く）の国際価格の推移②

③ コーヒー

単位（千円/トン）

	2020年												2021年											
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
コーヒー	255.2	242.8	258.3	257.1	247.9	235.5	241.8	267.7	270.0	244.0	251.9	260.9	266.8	280.2	293.5	293.7	325.2	345.1	367.9	388.1	416.7	455.9		
前月比	90.9	95.2	106.4	99.5	96.4	95.0	102.7	110.7	100.9	90.4	103.3	103.6	102.3	105.0	104.7	100.1	110.7	106.1	106.6	105.5	107.4	109.4		
前年同月比	104.8	98.3	108.5	111.0	111.4	99.1	98.0	119.0	116.0	105.3	97.4	92.9	104.6	115.4	113.6	114.2	131.2	146.6	152.2	145.0	154.3	186.9		

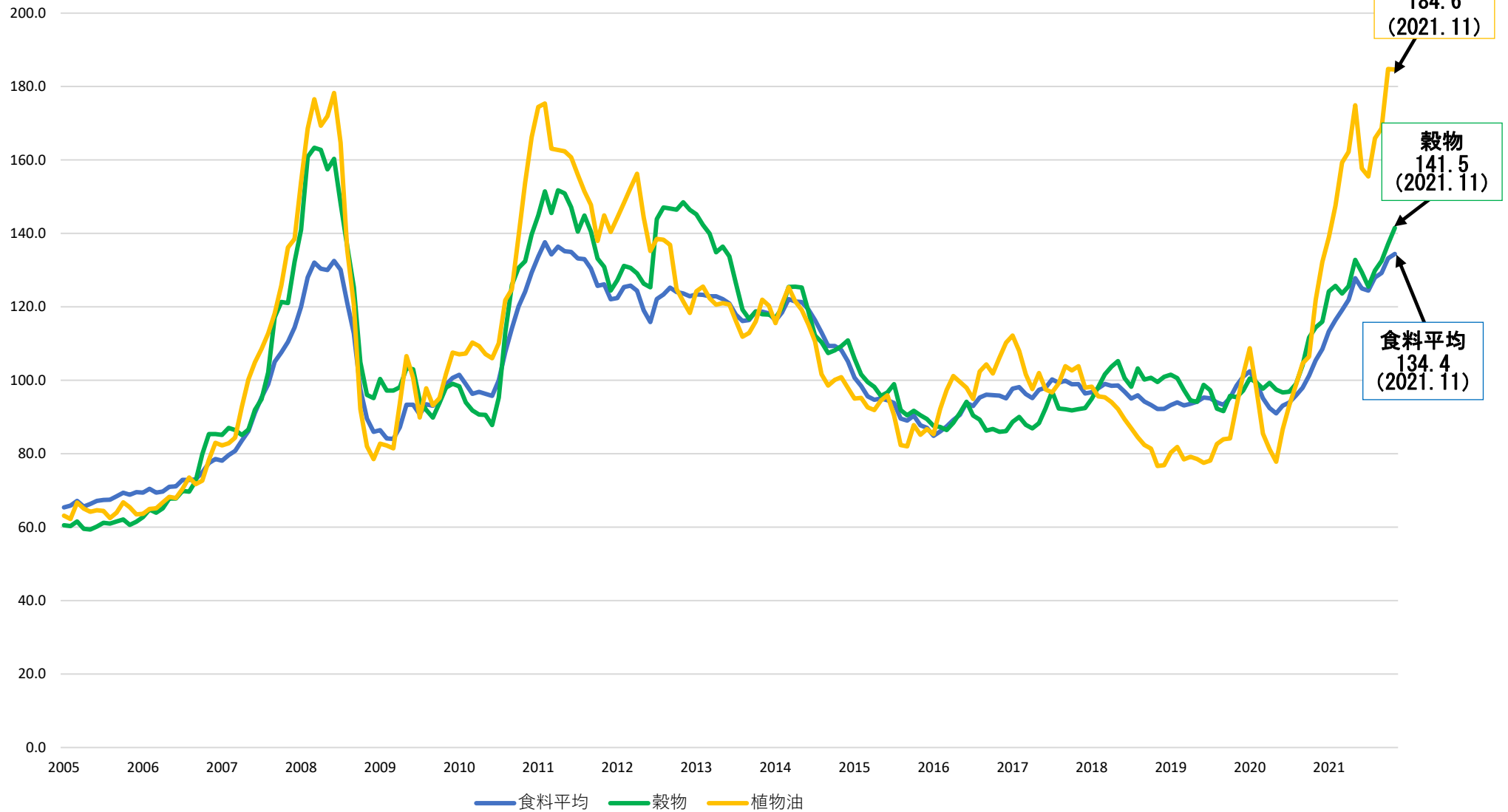
大臣官房新事業・食品産業部食品製造課調べ

注1 国際コーヒー機関（ICO）の複合指標価格月次平均から算出

2 ICO複合指標価格は、米国、ドイツ、フランスの3大市場の現物の成約価格を収集しICOの定める方法で4品種ごとの加重平均値を算出したもの。

資料5 FAO食料価格指数

(2014-16平均=100)



資料: FAO「Food Price Index」(2021.12)より作成

注: 穀物はとうもろこし、小麦、コメ等、植物油は大豆油、菜種油、ひまわり油、パーム油等

資料6 食品小売価格の動向

○ 令和3年11月の国内の加工食品の消費者物価指数は95.9～120.5（前年同月比で－4.3%～20.7%）の範囲内。

消費者物価指数（総務省） （令和3年6月～令和3年11月）

【参考】 食品価格動向調査（農林水産省） （令和3年6月～令和3年12月）

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3						
品目	平均	平均	平均	平均	平均	6月	7月	8月	9月	10月	11月	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.9	99.6	100.2	101.1	100.0	99.0	99.3	99.4	99.3	99.6	99.7	0.3%
即席めん	96.2	95.7	95.3	98.5	100.0	99.0	100.4	100.2	99.6	100.9	101.0	0.9%
豆腐	98.1	98.6	98.8	99.1	100.0	100.8	101.0	100.8	101.6	102.0	102.6	1.7%
食用油 (キャノーラ油)	106.3	102.7	101.5	100.9	100.0	102.3	103.9	107.9	113.9	118.1	120.5	20.7%
みそ	97.1	96.9	97.4	99.1	100.0	98.6	99.5	98.9	100.0	99.2	99.6	-0.2%
マヨネーズ	103.8	102.3	100.8	100.7	100.0	100.0	108.6	110.2	111.2	112.4	112.5	12.3%
チーズ	97.7	97.3	100.9	101.3	100.0	96.5	98.7	100.6	100.6	98.4	95.9	-4.3%
バター	99.0	99.3	99.5	99.9	100.0	99.9	99.9	99.8	99.9	99.9	99.8	-0.5%
生鮮食品を 除く食料	96.1	97.0	97.9	99.0	100.0	100.0	100.1	100.1	100.4	100.7	101.0	1.1%

	H28	H29	H30	H31 (R元)	R2	R3								
品目	平均	平均	平均	平均	平均	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	上昇率 (前月比)	上昇率 (前年 同月比)
食パン	99.0	97.6	97.9	101.3	100.0	98.4	97.8	97.5	98.8	98.6	98.2	98.4	0.2%	-1.1%
即席めん	92.8	92.6	92.4	97.9	100.0	99.6	99.0	99.0	99.0	99.0	99.0	97.8	-1.2%	-1.2%
豆腐	102.2	100.8	100.1	100.9	100.0	100.3	100.3	101.1	105.0	100.7	101.1	100.7	-0.4%	1.3%
食用油 (キャノーラ油)	99.6	97.9	97.9	103.5	100.0	100.1	100.7	106.1	109.0	112.8	115.3	116.3	0.9%	18.1%
みそ	90.3	91.9	96.6	100.4	100.0	99.8	98.1	99.0	102.7	98.4	98.8	97.5	-1.3%	-0.6%
マヨネーズ	99.9	99.1	97.9	103.1	100.0	99.0	104.5	105.9	106.6	106.6	106.6	105.6	-0.9%	7.0%
チーズ	95.5	95.2	98.6	100.9	100.0	93.1	99.5	99.1	103.0	98.6	93.6	92.1	-1.6%	-7.9%
バター	98.2	98.8	99.0	99.5	100.0	99.7	99.5	99.5	99.5	99.9	99.7	99.7	0.0%	-0.2%

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注1: 令和2年の平均値を100とした指数で表記。

注2: 調査は原則、各都道府県10店舗で実施。平成30年9月までは週1回、同年10月以降は月1回実施。

注3: 調査結果は調査期間中の平均値で算出。

注4: 令和2年4～5月、令和3年1～3月、同5～9月については、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の対象都道府県においては調査を中止。そのためそれぞれ前月の値とは接続しない。

(品目別需給編)

1 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比 前月比

- ・イラン等で下方修正も、豪州、ロシア、カナダ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

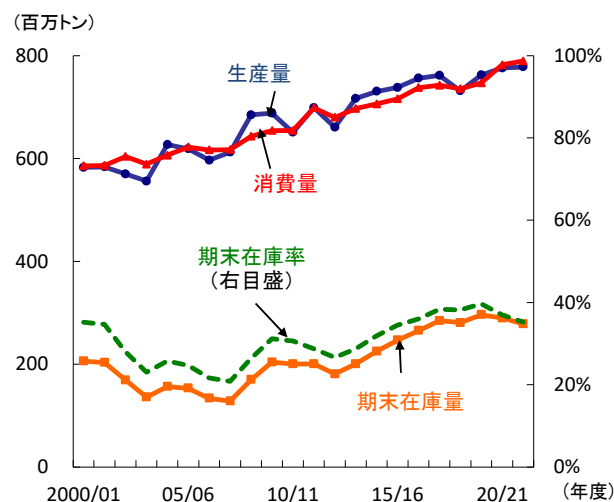
消費量 前年度比 前月比

- ・中国等で下方修正も、ロシア、豪州、EU 等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 前月比

- ・米国等で下方修正も、豪州、EU、インド等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 前月比



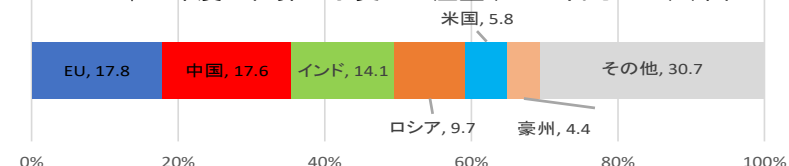
◎世界の小麦需給

(単位：百万トン)

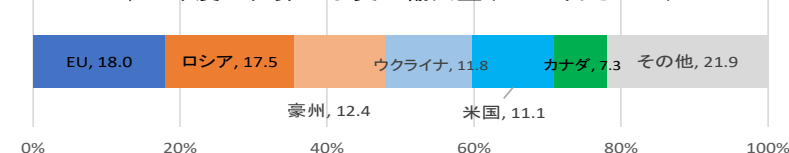
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	762.2	775.9	777.9	2.6	0.3
消 費 量	746.9	782.3	789.4	1.9	0.9
うち飼料用	139.2	157.7	160.6	2.0	1.8
輸 出 量	194.4	201.8	205.5	2.3	1.8
輸 入 量	188.2	194.2	203.0	1.9	4.5
期末在庫量	296.0	289.6	278.2	2.4	▲ 4.0
期末在庫率	39.6%	37.0%	35.2%	0.2	▲ 1.8

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」 (9 December 2021)

○ 2021/22年度の世界の小麦の生産量 (777.9百万トン) (単位：%)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸出量 (205.5百万トン)



○ 2021/22年度の世界の小麦の輸入量 (203.0百万トン)



(2) 国別の小麦の需給動向

< 米国 > 10月の月間輸出量はここ30年で最低水準

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、44.8百万トン（対前年度比9.0%増）の見込み。そのうち、冬小麦、春小麦、デュラム小麦の生産量は、それぞれ34.8百万トン（対前年度比9.0%増）、9.0百万トン（同43.6%減）、1.0百万トン（同46.1%減）である。

同「Crop Progress」(2021.11.22、29)によれば、11月22日時点で2022/21年度の冬小麦の播種は主要18州でほぼ終了したが、降雨により大豆の収穫が遅れたために播種が遅延したSRW(ソフト・レッド・ウインター)産地の米国東部の一部では、他の作物を作付する可能性がある。また、11月28日時点の2022/23年度の冬小麦の発芽進捗率は、92%と5年平均(91%)を上回り、前年度(92%)並となった。作柄評価は、良からやや良の割合が44%と前年度(46%)を下回っている。12月7日現在、冬小麦生産地のおおよそ53%が干ばつ状況下にあり、ワシントン州はほぼ全域が干ばつ状態となっている。一方、プレーンズ中央部のカンザス州は22%。

【貿易情報・その他】USDAによれば、輸出量は、前月予測から0.6百万トン下方修正され、前年度に比べ15.3%減少の22.9百万トンの見込み。品種別には、HRS(ハード・レッド・スプリング)は輸出ペースが遅く、前月に比べ0.3百万トン下方修正の5.6百万トン。背景には、米国プレーンズ北部の干ばつにより生産量が減少したため、高タンパク質小麦の価格高騰がある。また、比較的良好な生産量となったHRW(ハード・レッド・ウインター)は、堅調な国内需要等から価格が高水準であるため、前月に比べ0.3百万トン下方修正の9.5百万トンの見込み。

同「Wheat outlook」(2021.12.13)によれば、供給量の逼迫と価格水準の高さから、10月の輸出量は9月のおおよそ半分と、ここ30年で最低の月間輸出量に落ち込んだ。

米国の輸出は、主要な市場であるラテンアメリカやアジアでは例年並みの輸出量が維持される見込みであるが、アフリカや中東市場の大部分では輸出競争力が低下すると見られる。

11月の輸出先国は、フィリピン(18.3%)、メキシコ(18.1%)、ナイジェリア(10.6%)の順で、中国向けは0.1%であった。2021/22年度の期末在庫量は、前月予測より0.4百万トン上方修正され16.3百万トンとなるものの、2014/15年度以降最小の見込み。

小麦－米国（冬小麦が全体の7割、春小麦は3割）

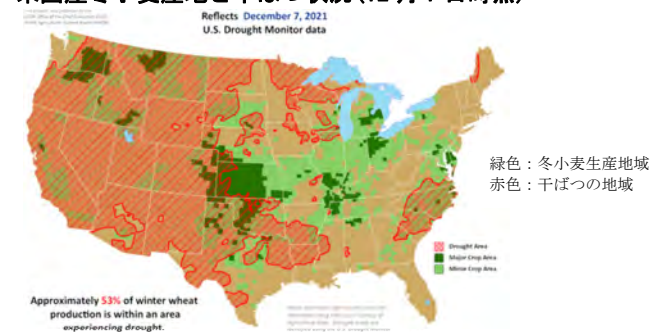
(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	52.6	49.8	44.8	-	▲ 10.0
消費量	30.4	30.5	31.7	-	3.9
うち飼料用	2.6	2.6	3.7	-	41.7
輸 出 量	26.4	27.0	22.9	▲ 0.6	▲ 15.3
輸 入 量	2.8	2.7	3.0	▲ 0.1	9.5
期末在庫量	28.0	23.0	16.3	0.4	▲ 29.2
期末在庫率	49.3%	40.0%	29.9%	1.0	▲ 10.2

(参考)					
収穫面積(百万ha)	15.13	14.89	15.04	-	1.0
単収(t/ha)	3.47	3.34	2.98	-	▲ 10.8

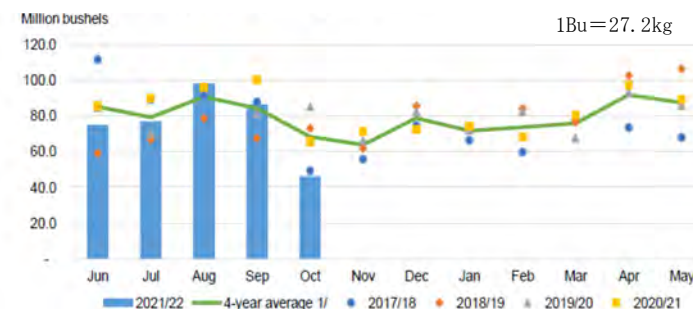
資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

図 米国産冬小麦産地と干ばつ状況(12月7日時点)



資料：USDA「U.S. Agriculture in Drought」(2021.12.7)

図 米国の月別の小麦輸出量(2017/18 から 2021/22)



資料：USDA「Wheat outlook」(2021.12.9)

＜ カナダ ＞ **USDAの生産量予測は前月から上方修正され21.7百万トン**

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測から0.7百万トン上方修正され21.7百万トンとなるものの、前年度に比べ38.5%減少し、2007/08年度以降最低水準。

カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2021」(2021.12.3)によれば、カナダ西部では今春の播種時期に好天に恵まれたものの、生育期間を通じてかなり厳しい高温・乾燥天候となり、記録的な単収減となった。2021/22年度の生産量は、平原三州の生産量減少が大きく影響し、前年度を38.5%下回る21.7百万トンの見込み。平原三州のサスカチュワン州、アルバータ州、マニトバ州の生産量は、それぞれ8.3百万トン(前年度対比48.1%減)、6.3百万トン(同42.9%減)、3.8百万トン(同21.9%減)と前年度を下回る見込み。

カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook For Principal Field Crops」(2021.12.17)によれば、生産量21.7百万トンのうち、前月に比べ、デュラム小麦は下方修正され2.7百万、普通小麦は上方修正され19.0百万トン。カナダ穀物委員会(CGC:Canadian Grain Commission)のサンプル調査の結果、デュラム小麦の調査対象の70%が1等から2等に格付けされ、平均タンパク質含有量は15.7%(前年13.9%)である。また、普通小麦も90%近くが1等から2等に格付けされ、平均タンパク質含有量は14.7%(同13.3%)である。

一方、2022/23年度の冬小麦の播種が開始されており、播種面積は2021/22年度を6.6%下回る0.5百万ヘクタール。農産物市場情報システム(AMIS)「Market Monitor」(2021.12.4)によれば、2022/23年度の冬小麦の69%を生産するオンタリオ州では良好な生育条件に恵まれている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく15.0百万トンの見込みで、2005/06年度以降最低となる見込み。CGCによれば、10月の輸出量は普通小麦が0.9百万トン、デュラム小麦は0.2百万トンの計1.1百万トン。

現地情報によると、カナダ西部ブリティッシュコロンビア州の11月13日から2日間の集中豪雨で生じた洪水や土砂崩れによる物流の状況は、鉄道大手2社のカナディアン・パシフィック・レールウェイ(CP)、カナディアン・ナショナル・レールウェイ(CN)は運行を開始しているが、天候の不安定さに加え、道路の不通区間からの振り替え輸送等もあり、混乱しているとみられる。

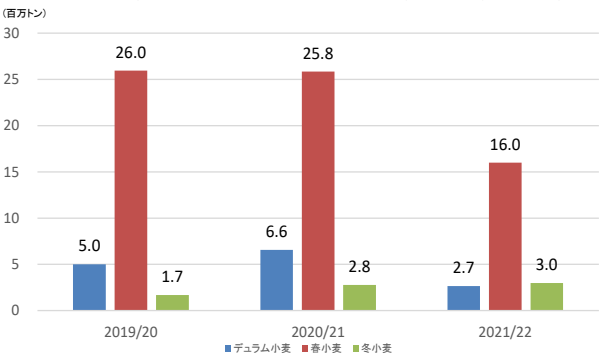
小麦－カナダ（春小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はAAFC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	32.7	35.2	21.7 (21.7)	0.7	▲ 38.5
消費量	9.3	9.1	7.9 (7.9)	-	▲ 13.5
うち飼料用	4.1	4.2	2.8 (3.8)	-	▲ 33.0
輸 出 量	24.6	26.4	15.0 (16.3)	-	▲ 43.2
輸 入 量	0.7	0.6	0.7 (0.3)	-	27.3
期末在庫量	5.5	5.7	5.1 (3.5)	0.7	▲ 9.7
期末在庫率	16.2%	16.0%	22.4% (14.2%)	2.8	6.4
(参考)					
収穫面積(百万ha)	9.66	10.02	9.25 (9.25)	0.75	▲ 7.7
単収(t/ha)	3.38	3.51	2.34 (2.34)	▲ 0.13	▲ 33.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
AAFC「Outlook For Principal Field Crops」(17 December 2021)

図 カナダ産小麦の生産量の推移(デュラム小麦、春小麦、冬小麦)



資料：カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2021」(2021.12.3)をもとに農林水産省で作成

表 カナダ産普通小麦及びデュラム小麦の輸出先国(2021年10月)
〈普通小麦〉 〈デュラム小麦〉

国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)	国名	輸出量 (万トン)	輸出量シェア (%)
ナイジェリア	8.8	10.2	ナイジェリア	5.5	19.2
エクアドル	8.6	10.1	モロッコ	5.0	17.6
ペルー	8.3	9.6	米国	4.0	14.2
日本	8.1	9.4	日本	4.0	14.1
メキシコ	6.0	7.0	イタリア	3.3	11.6
その他	46.1	53.7	その他	6.7	23.4
	85.9	100.0	計	28.5	100.0

注1: Canadian Grain Commissionが認可したエレベーターから輸出された小麦(Licensed)のみのデータ。
注2 普通小麦の：品種はNO.1-3Canada Western Red Spring No.1Canada Western Red Winter
No.2Canada Eastern Red Spring No.2Canada Eastern Oter, デュラムはCanada Western Amber Durum Other
資料: Canadian Grain Commission「Export of Canadian Grain and Wheat Flour」をもとに作成。

< 豪州 > 2021/22 年度の生産量は 34.0 百万トンと史上最高の豊作見込み

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、単収の上昇により前月予測から 2.5 百万トン上方修正され史上最高の 34.0 百万トンとなり、豪州は 2 年続けての豊作の見込み。単収は 2.60 トン/ヘクタールと史上最高である 2012/17 年度の 2.61 トン/ヘクタールにほぼ並んでいる。また、収穫面積は、高水準の小麦国際価格と大部分の生産地で生育に良好な状況となったことから、前年度より 1.6%増加の 13.10 百万ヘクタールとなった。

豪州農業資源経済科学局(ABARES)「Australian Crop Report」(2021.11.30)によれば、2021/22 年度の実産量は、2 年連続して過去最高を更新し、34.4 百万トンの見込み。

主要生産州別の生産量は、ニューサウスウェールズ(NSW)州では、生産量は前年度より 7%減少するものの、5 年平均の約 2 倍の 12.2 百万トンとなり、2 年連続の豊作の見込み。同州では、栽培期間中の生育条件は良好で、ほぼ全ての生産地域で降水量は平均以上となった。しかし、11 月に大雨が降り続き、収穫を遅らせ、収穫時の品質を低下させた。また、この降雨で、同州北部及び中央部で洪水が発生したが、被害は限定的で、現時点では州全体の生産量へ大きな影響はないと見られている。今後、ラニーニャ現象による降雨過多により、品質の低下や収穫の遅延、洪水による収穫量の減少の可能性がある。西オーストラリア(WA)州は、前年度より 23%増加の 11.7 百万トンと史上最高の見込み。同州では、9 月の平年を下回る降水量と一部地域での霜害により生産見通しが影響を受けたものの、10 月の適時な降雨により改善した。GIWA(西豪州穀物産業団体)によれば、11 月に収穫が進み、生産量は前月予測より 0.1 百万トン上方修正され 11.9 百万トンと前年度(9.2 百万トン)を上回る見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、2 年続きの豊作から、前月予測から 2.0 百万トン上方修正され史上最高の 25.5 百万トン。

豪州統計局によれば、10 月の輸出先国は、ベトナム(20%)、中国(17%)、インドネシア(13%)の順で、輸出先国の上位はアジア向けとなっている。なお、カナダ、米国の生産量の減少に伴う豪州産穀物への需要集中で港湾能力が追いつかない状況が続いており、輸出コストの上昇にも注視が必要である。

小麦—豪州 (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.5	33.3	34.0 (32.0)	2.5	2.1
消費量	8.0	8.0	8.5 (8.7)	0.5	6.3
うち飼料用	4.5	4.5	5.0 (5.0)	0.5	11.1
輸 出 量	9.1	23.9	25.5 (23.5)	2.0	6.9
輸 入 量	0.9	0.2	0.2 (0.4)	-	-
期末在庫量	2.7	4.3	4.5 (4.4)	1.0	4.6
期末在庫率	15.6%	13.6%	13.3% (13.6%)	2.0	▲ 0.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)※	9.86	12.90	13.10 (13.0)	-	1.6
単収(t/ha)	1.47	2.58	2.60 (2.47)	0.20	0.8

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)

図 直近7年間の小麦生産主要州の小麦生産量の推移

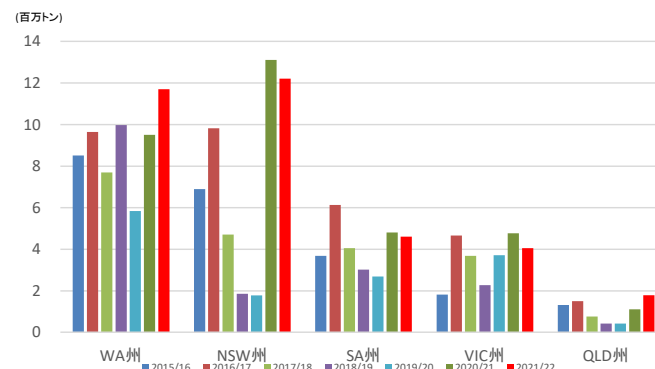
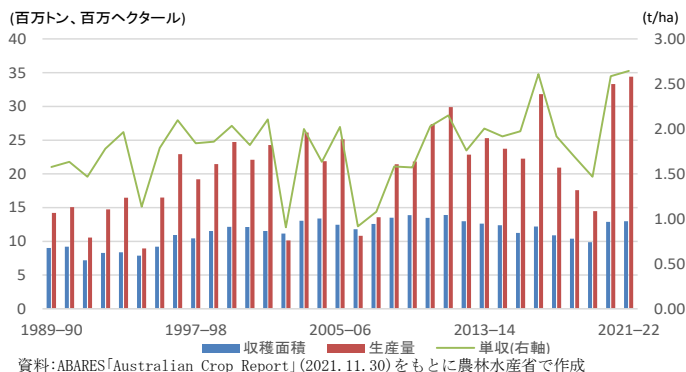


図 豪州産小麦の生産量、収穫面積、単収の推移



< EU > 2022/23 年度の冬小麦はバルカン半島南部等の一部を除き越冬期

【生育・生産状況】EU 委員会「EU Cereals Production Area and Yield」(2021.11.25)によれば、2021/22 年度の EU27 ヶ国の生産量は、前月予測から 0.2 百万トン上方修正され、139.0 百万トン。

このうち、普通小麦は前月に比べ 0.1 百万トン上方修正され、131.5 百万トンとなり、前年度を 10.2%上回る見込み。国別には、スペインで下方修正されたものの、フランス等で上方修正された。一方、デュラム小麦は、前月に比べ 0.1 百万トン上方修正され 7.5 百万トンとなり、前年度を 0.1%上回る見込み。国別には、ギリシャ等で下方修正されたものの、フランス等で上方修正された。

また、英国環境・食料・農村地域省(DEFRA)「First estimates of 2021 UK wheat and barley production」(2021. 10.11)によれば、英国の 2021/22 年度の前年度生産量は、14.0 百万トンの見込み。

この結果、EU27 ヶ国と英国の合計生産量は 153.0 百万トンとなる見込み。

欧州では、11 月中旬に全土で乾燥天候となったものの、下旬の降雨で生育に十分な土壌水分量となった。12 月上旬に、バルカン半島南部、イタリア、スペインを除き、小麦は越冬期を迎えた。

「France Agri Mer」(2021.12.3)によれば、11 月 29 日現在、フランスの 2022/23 年度の播種進捗率は、冬小麦が 99 % (前週 97%、前年度同時期 99%)、デュラム小麦が 88%(同 79%、90%)。また、小麦全体の 92%がすでに発芽し、14%が分けつ期を迎えている。生育状況は、普通小麦がやや良から良が 99%(前週 99%、前年度同時期 96%)、デュラム小麦が 88%(同 79%、同 90%)であった。

【貿易情報・その他】USDA によれば 2021/22 年度の EU の飼料用の消費量は前月に比べ 0.6 百万トン上方修正され 53.1 百万トンの見込み。収穫時の長雨により品質が低下し、飼料用グレードが増加し、飼料大麦の一部を代替した。一方、とうもろこしに比べ価格が高い小麦は、バイオ燃料等の産業用消費は下方修正された。2021/22 年度の輸出量は、豊作と価格競争力の高さから、前月予測から 0.5 百万トン上方修正され、37.7 百万トン。しかし、アルジェリアは製粉用小麦の大半をフランスから輸出していたが、フランス産小麦の品質悪化により、ドイツ等から輸入すると見られる。

EU 委員会によれば、9 月の輸出量は、普通小麦が 4.0 百万トン、デュラム小麦が 0.2 百万トン。輸出先国は、普通小麦がアルジェリア(18.8%)、エジプト(15.7%)、デュラム小麦がチュニジア(18.8%)、モーリタニア(15.8%)の順。普通小麦、デュラム小麦とも 8、9 月は前年を上回った。

小麦－EU (冬小麦を主に栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	154.4	136.6	153.0 (152.0)	0.3	12.0
消費量	122.5	118.2	123.2 (121.0)	0.4	4.2
うち飼料用	53.2	48.5	53.1 (48.8)	0.6	9.6
輸出量	41.4	30.2	37.7 (35.3)	0.5	24.9
輸入量	7.3	8.6	7.2 (7.2)	▲ 0.1	▲ 16.3
期末在庫量	15.6	12.4	11.7 (14.0)	0.2	▲ 5.7
期末在庫率	9.5%	8.3%	7.2% (9.0%)	▲ 0.1	▲ 1.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.16	24.36	25.89 (25.49)	0.09	6.3
単収(t/ha)	5.90	5.61	5.91 (5.96)	0.01	5.4

資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)
表内及び () 内のデータは EU27 ヶ国+英国のデータ

図 EUの普通小麦の輸出量の推移

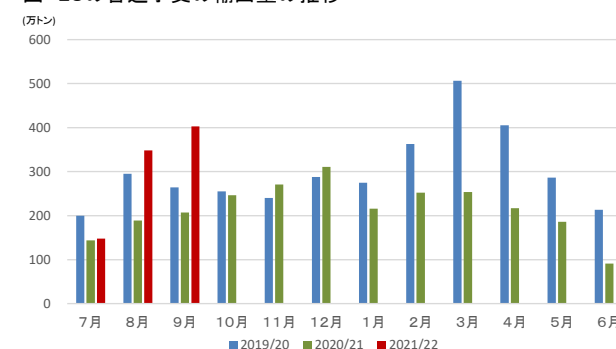
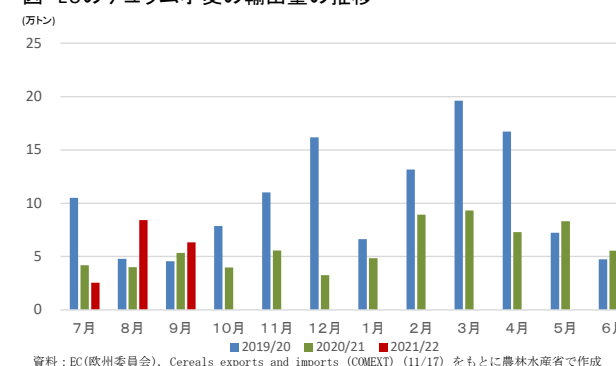


図 EUのデュラム小麦の輸出量の推移



資料: EC(欧州委員会), Cereals exports and imports (COMEXT) (11/17) をもとに農林水産省で作成

＜ 中国 ＞ 天候に恵まれ生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】、中国国家统计局「2021 年糧食生産量データ」(2021.12.6)によれば、2021/22 年度の生産量は、137.0 百万トンと史上最高の見込み。

国家糧油情報センター(2021.12.6)によれば、2022/23 年度の冬小麦は、全国的には三葉期から分げつ期、一部地域では越冬期を迎えている。なお、華東地域の山東省、安徽省等、華北地域の山西省、西北地域の陝西省、青海省では、9 月以降の降雨過多による播種の遅れで、生育が例年より 7 日から 25 日遅れた。このため、分げつ期に達した割合は前年同時期を下回っている。分げつの遅れは、生育に影響が及び、結果として個体が小さく弱くなる可能性があるものの、今後の天候による回復の余地は大きいと見られている。一方、西南地域の四川省等、華中地域の湖北省等の生育状況は例年並みである。

中国中央气象台(2021.12.3)によれば、生育状況は、中国全土の冬小麦の 24%が一類苗(※)、75%が二類苗に格付けされている。前月同期に比べると、一類苗は 3 ポイント上昇し、二類苗は 3 ポイント低下した。なお、前年同時期は、一類苗は 21%、二類苗は 79%であった。
(※一類苗：生育が正常な苗、二類苗：通常の苗よりやや小さく弱っている苗)

【貿易情報・その他】国家糧油情報センターによれば、2021/22 年度の輸入量は前月予測からの変更はなく 8.0 百万トンで、前年度に比べ 23.0%減少する見込み。USDA によれば、2021/22 年度の輸入量は、輸入ペースの鈍化から前月予測から 0.5 百万トン下方修正され、9.5 百万トン。

中国海関統計によれば、2021 年 1 月から 10 月の小麦輸入量は、前年同時期(6.5 百万トン)を 24.2%上回る 8.0 百万トンとなったが、同期間の輸入量は 7 月から減少傾向となっている。また、輸入先国は、米国(32.1%)、カナダ(31.3%)、豪州(24.2%)の順で、この 3 カ国で全体の 87.6%を占めているが、米国は横ばい、カナダ、豪州は低下傾向となっている。

中国農産品供需形勢分析月報(10 月)によれば、10 月の国内小麦価格は、小麦の市場流通量の減少や長期にわたる降雨等で秋の収穫や播種が遅れたこと等から、一時的に小麦の供給が逼迫し小麦価格は上昇した。しかし、今年小麦は豊作で在庫が充分なことや、小麦価格が高いことで加工業者は仕入れを制限していることから、今後の価格上昇の余地は限られると見られる。

小麦－中国（冬小麦を主に栽培）

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	133.6	134.3	137.0	(137.1)	0.1	2.0
消 費 量	126.0	150.0	148.5	(146.5)	▲ 0.5	▲ 1.0
うち飼料用	19.0	40.0	36.0	(33.4)	-	▲ 10.0
輸 出 量	1.1	0.8	0.9	(1.3)	▲ 0.1	18.4
輸 入 量	5.4	10.6	9.5	(10.6)	▲ 0.5	▲ 10.5
期末在庫量	150.0	144.1	141.2	(128.3)	0.2	▲ 2.0
期末在庫率	118.1%	95.6%	94.5%	(86.8%)	0.5	▲ 1.1
(参考)						
収穫面積(百万ha)	23.73	23.38	23.57	(23.8)	▲ 0.23	0.8
単収(t/ha)	5.63	5.74	5.81	(5.76)	0.06	1.2

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)

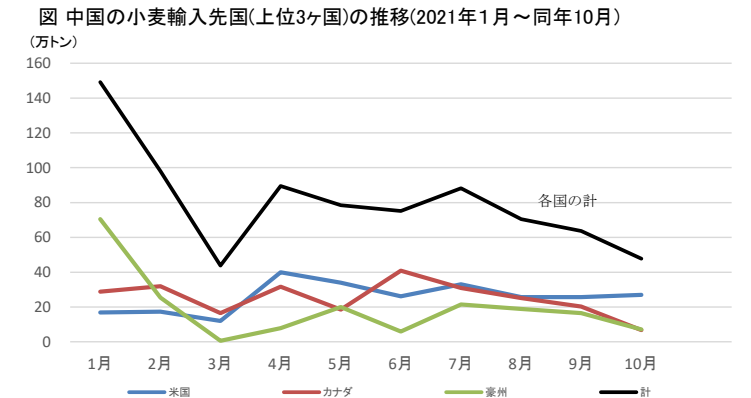


表 中国の小麦輸入先国(2021年10月、2021年1月～2021年10月、2020年1月～2020年10月)

2021年10月			2021年1月～2021年10月			2020年1月～2020年10月		
国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
米国	26.9	56.2	米国	257.9	32.1	カナダ	189.7	29.3
豪州	7.1	14.9	カナダ	251.4	31.3	フランス	178.8	27.6
カナダ	6.7	14.0	豪州	194.6	24.2	米国	114.2	17.6
フランス	5.9	12.4	フランス	71.3	8.9	豪州	108.2	16.7
カザフスタン	1.2	2.4	カザフスタン	18.0	2.2	リトアニア	33.3	5.1
その他	0.0	0.0	その他	6.6	0.8	その他	23.4	3.6
計	47.8	100.0	計	804.5	100	計	647.5	100.0

出典：中国海関統計をもとに農林水産省で作成

< ロシア > 生産量は前月に比べ1.0百万トン上方修正。品質は良好

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量(USDAはクリミア分を含まない)は、前月予測から1.0百万トン上方修正され75.5百万トンとなるが前年度に比べ11.5%減の見込み。

パトロシェフ農相は12月14日、2021/22年度の実産量は約76.0百万トン(重量調整後)となるとの見方を示した。ロシア農業省の速報値によれば、12月14日現在、小麦の収穫面積は27.8百万ヘクタール(収穫進捗率は96.8%)、収穫量(重量調整前)は79.1百万トンである。

国営ロシア農業センターによれば、12月1日までに収穫された小麦の87%(3等46.1%、4等41%)が食用の等級に格付けられた(1等から4等は食用、5等は主に飼料用)。この比率は前年同日の71%を大きく上回り過去最高の高水準となった。今年度は品質が高いのが特徴である。

一方、ロシア農業省の速報値によれば、2022/23年度の冬小麦の播種面積は、12月10日時点で18.4百万ヘクタール。ロシア気象センターによれば、生育段階は出芽期から分けつ期を迎えているが、ロシア・ヨーロッパ部では11月下旬に南部の一部を除き気温の低下で越冬期に入った。

ロシア連邦水文気象科学センターによれば、11月25日時点の冬穀物の作付面積(18.4百万ヘクタール)のうち、76%が良好から非常に良好、21%が並、不良は3%となった。地域別には、中央連邦管区で良好から非常に良好の割合が前年度の47%から82%に大きく上昇した。また、ロシア全土では、不良の面積の割合は直近5年間の平均(8.4%)を大幅に下回った。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、36.0百万トン。ロシア産は、フランス産のシェアが大きかったアルジェリアで、ウクライナ産とともに輸出量を伸ばす見込み。アルジェリアは、本年6月に数年ぶりにロシア産の輸入を再開したが、ロシア市場関係者は、同国は1.0百万トン以上のロシア産を輸入するとみている。10月の輸出先国は、非公表(34.1%)、エジプト(13.0%)、トルコ(5.5%)の順。減産となったイラン、トルコでロシアからの輸入が増加している。ロシア農業省の速報値によれば、輸出関税の導入により輸出ペースが鈍化し、輸出量は、11月は2.8百万トンで前年同月の4.4百万トンを大きく下回った。市場関係者は輸出量を33.0百万トンと予測している。なお、ロシア経済発展省は12月17日、来年の上半期に導入予定の小麦の輸出枠(800万トン)を公表した。

小麦ーロシア(主産地の欧州部で冬小麦、シベリアで春小麦を栽培)

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	73.6	85.4	75.5 (75.0)	1.0	▲ 11.5
消 費 量	40.0	42.5	41.8 (41.7)	0.8	▲ 1.8
うち飼料用	17.0	19.0	18.5 (17.3)	0.5	▲ 2.6
輸 出 量	34.5	38.5	36.0 (34.1)	-	▲ 6.5
輸 入 量	0.3	0.4	0.5 (0.2)	-	25.0
期末在庫量	7.2	12.0	10.2 (12.2)	0.3	▲ 14.6
期末在庫率	9.7%	14.8%	13.2% (16.1%)	0.2	▲ 1.6
(参考)					
収穫面積(百万ha)	27.31	28.68	27.60 (28.0)	-	▲ 3.8
単収(t/ha)	2.70	2.98	2.74 (2.68)	0.04	▲ 8.1
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「World Agricultural Production」(9 December 2021)、 IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)					

図 ロシア産小麦の可変輸出関税額の推移(6月2日から12月15日)

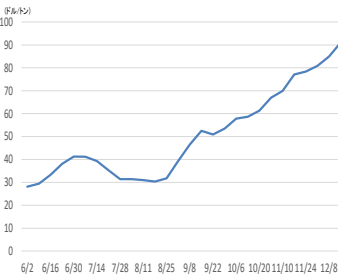
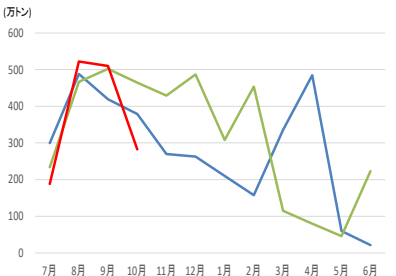


図 ロシアの最近3カ年の月別小麦輸出量の推移



資料: ロシア農業省の公表資料をもとに農林水産省で作成 資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

表 ロシアの小麦輸出先国(2021年10月、2021年7月～2021年10月、2020年7月～2020年10月)

2021年10月			2021年7月～2021年10月			2020年7月～2020年10月		
国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)	国 名	輸出量 (万トン)	輸出シェア (%)
非公表	96.2	34.1	非公表	382.7	25.5	エジプト	331.1	20.0
エジプト	36.6	13.0	トルコ	303.1	20.2	トルコ	305.6	18.4
トルコ	24.1	8.5	エジプト	186.5	12.4	バングラデシュ	108.7	6.6
サウジアラビア	18.0	6.4	ナイジェリア	67.8	4.5	アゼルバイジャン	72.4	4.4
アゼルバイジャン	16.0	5.7	アゼルバイジャン	53.7	3.6	ナイジェリア	66.2	4.0
その他	91.5	32.4	その他	508.7	33.9	その他	774.3	46.7
計	282.3	100.0	計	1,502.5	100.0	計	1,658.4	100.0

資料: ロシア税関統計をもとに農林水産省で作成

2 とうもろこし

(1) 国際的なとうもろこし需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・中国等で下方修正も、EU、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

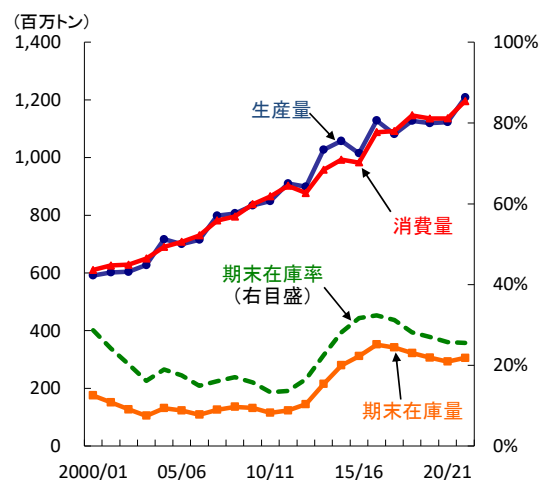
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・EU、イラン等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・ウクライナ、EU等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↑



資料：USDA「PS&D」(2021.12.9)をもとに農林水産省にて作成

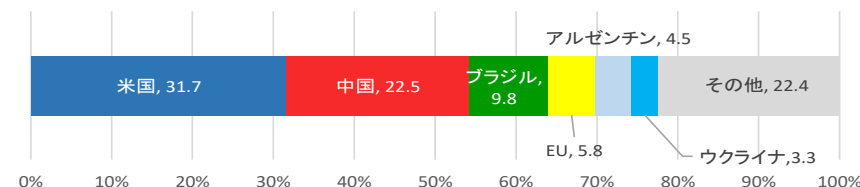
◎世界のとうもろこし需給

(単位：百万トン)

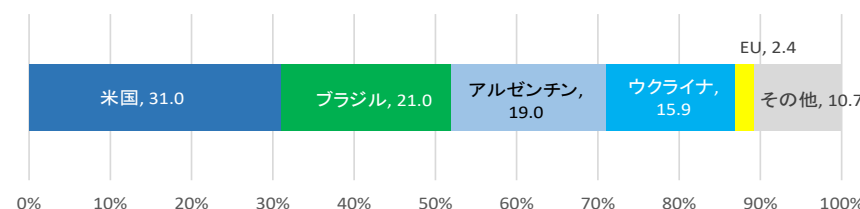
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	1,119.7	1,122.8	1,208.7	4.1	7.7
消 費 量	1,135.8	1,136.4	1,195.9	3.8	5.2
うち飼料用	715.8	724.6	750.8	3.5	3.6
輸 出 量	172.3	177.5	204.9	1.4	15.4
輸 入 量	167.8	186.5	185.5	2.0	▲ 0.6
期末在庫量	306.3	292.7	305.5	1.1	4.4
期末在庫率	27.0%	25.8%	25.5%	0.0	▲ 0.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 December 2021)

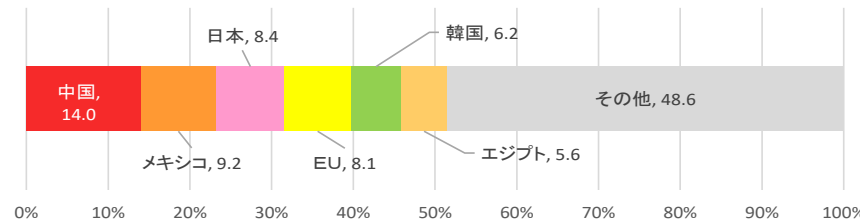
○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの生産量(1,208.7百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸出量(204.9百万トン)



○ 2021/22 年度 世界のとうもろこしの輸入量(185.5百万トン)



(2) 国別のとうもろこしの需給動向

< 米国 > 収穫面積増、単収増で生産量史上第2位、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測から変更はなく、全米平均単収が史上最高の11.11トン/ヘクタールとなったことから、前年度より6.7%増の382.6百万トンと2016/17年度に次ぐ史上第2位の見込み。11月末時点で、収穫は例年より早いペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測から変更はなく、前年度より2.2%増の313.2百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、史上最高の輸出量となった前年度より9.2%減の63.5百万トンの見込み。

USDAによれば、輸出検証高(2021年1月7日～12月2日)は、60.5百万トンであり、内訳は中国(17.5百万トン)、メキシコ(14.5百万トン)、日本(10.4百万トン)、コロンビア(3.6百万トン)、韓国(3.1百万トン)の順である。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、前年度より20.8%増の37.9百万トンの見込み。なお、期末在庫率は10.1%で依然として低水準の見込み。

写真：中西部イリノイ州のとうもろこし風景

(11月10日撮影)

とうもろこしをトラックから生産者の倉庫に移動。



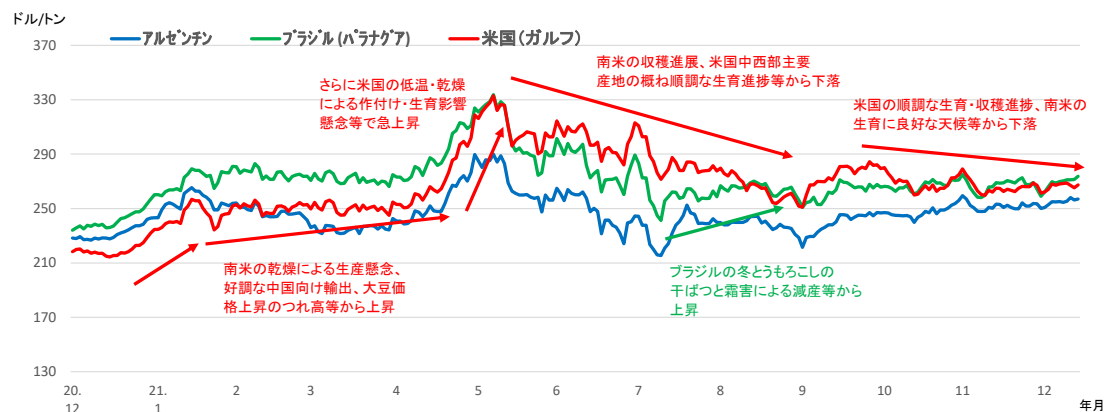
とうもろこしー米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	346.0	358.5	382.6	-	6.7
消 費 量	309.6	306.5	313.2	-	2.2
うち飼料用	149.9	142.3	143.5	-	0.9
エタノール用等	123.4	127.7	133.4	-	4.4
輸 出 量	45.1	69.9	63.5	-	▲ 9.2
輸 入 量	1.1	0.6	0.6	-	3.2
期末在庫量	48.8	31.4	37.9	-	20.8
期末在庫率	13.7%	8.3%	10.1%	-	1.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	32.92	33.31	34.43	-	3.4
単収(t/ha)	10.51	10.76	11.11	-	3.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチンのとうもろこし輸出価格（FOB）の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 収穫面積増、単収増で生産量史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より35.6%増の118.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

ブラジル食料供給公社（CONAB）月例報告（2021.12.9）によれば、生育期を迎えた2021/22年度の夏とうもろこしの生産量は、作付面積及び単収の増加により、前年度比17.6%増の29.1百万トンの見込み。一方、大豆収穫後、2022年に作付けされる冬とうもろこしの生産量は、干ばつ・霜害の影響で大幅減産となった前年度に比べ41.4%増の88.1百万トンが見込まれ、合計では前年度比34.6%増の117.2百万トンで史上最高の見込み。（P.21 大豆ーブラジルのクロップカレンダー参照）。

12月中旬までブラジル中西部から北東部で広く降雨が継続し、生育は順調である。一方、南部では乾燥・降雨不足により作柄への影響が懸念されている。夏とうもろこしは、南部のパラナ州で生殖生長から充実段階が12月6日現在61%、南部のリオ・グランデ・ド・スール州で作付進捗率は12月9日現在90%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より1.4%増の73.0百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、生産量の増加に伴い、大幅減産となった前年度より2.3倍の43.0百万トンで史上最高の見込み。なお、2020/21年度の輸出量は、11月までの貿易実績に基づき前月予測から1.0百万トン上方修正されたものの、18.5百万トンと2015/16年度以降最小の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年11月の輸出量は2.4百万トンで、前年同月（4.7百万トン）に比べ、49.6%減。2021年1～11月の輸出量は17.0百万トンで、前年同期（29.6百万トン）と比べ42.5%減となっている。内訳は、1位がイラン2.7百万トン、2位がエジプト2.3百万トン、3位がスペイン1.8百万トンとなっている。

とうもろこしーブラジル

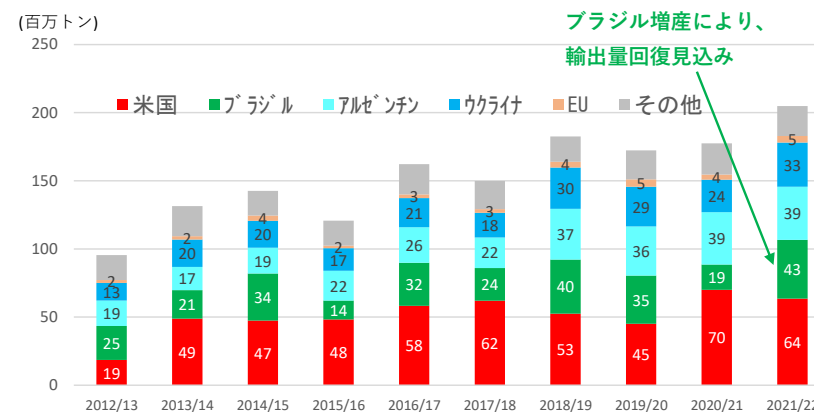
（大豆収穫後に栽培する冬とうもろこしが3/4を占め、夏とうもろこしは1/4）

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	102.0	87.0	118.0	(117.4)	-	35.6
消 費 量	68.5	72.0	73.0	(76.5)	-	1.4
うち飼料用	58.5	61.0	62.0	(56.0)	-	1.6
輸 出 量	35.2	18.5	43.0	(40.0)	-	132.4
輸 入 量	1.7	3.5	1.7	(0.5)	-	▲ 51.4
期末在庫量	5.2	5.2	8.9	(7.6)	-	70.7
期末在庫率	5.0%	5.8%	7.7%	(6.5%)	-	1.9
(参考)						
収穫面積(百万ha)	18.50	19.90	20.80	(20.60)	-	4.5
単収(t/ha)	5.51	4.37	5.67	(5.70)	-	29.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC「Grain Market Report」(18 November 2021)

図：世界のとうもろこし輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.12.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

< アルゼンチン > 収穫面積増、単収増で生産量史上最高、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、前月予測から変更はなく、収穫面積及び単収の増加により、前年度より 7.9%増の 54.5 百万トンと史上最高の見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2021.12.16）によれば、最近の降雨が作付けを遅らせたものの、北部の土壌水分は改善した。作付進捗率は 48%で、過去 5 年平均より 13 ポイント遅れている。なお、ラニーニャ現象の発生に伴う今後の乾燥天候の影響に注意が必要である。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の実消費量は、前月予測からの変更はなく、飼料用消費の増加に伴い、前年度より 3.6%増の 14.5 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の実輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より 1.3%増の 39.0 百万トンと史上最高の見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1～10 月の輸出量は 35.3 百万トンで、前年同期（34.5 百万トン）より 2.2%増。内訳は、1 位がベトナム 5.8 百万トン、2 位が韓国 4.1 百万トン、3 位がエジプト 3.1 百万トン。7 月 26 日に 180 日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に引き続き注視が必要である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2019 年 12 月 14 日、輸出税を約 7%から 12%へ引き上げ、その後継続している。

2021 年 12 月 17 日、アルゼンチン農牧漁業大臣が 2021/22 年度のとうもろこしと小麦の輸出に関し、数量管理（輸出枠）を導入することを表明。同省プレスによると、輸出向けは、とうもろこし 4,160 万トン、小麦 1,250 万トンで国内需給に影響しない数量としている。

写真：北部サンタフェ州のとうもろこしの生育風景
（12 月 1 日撮影）
8 月下旬に作付け。生育は極めて良好。
収穫は 2022 年 3 月中旬の予定。



とうもろこしーアルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	51.0	50.5	54.5 (63.3)	-	7.9
消 費 量	13.5	14.0	14.5 (22.6)	-	3.6
うち飼料用	9.5	10.0	10.5 (17.6)	-	5.0
輸 出 量	36.3	38.5	39.0 (37.0)	-	1.3
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	3.6	1.6	2.6 (9.0)	-	62.3
期末在庫率	7.3%	3.1%	4.9% (15.1%)	-	1.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	6.30	6.40	6.80 (8.30)	-	6.3
単収(t/ha)	8.10	7.89	8.01 (7.63)	-	1.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC「Grain Market Report」(18 November 2021)

< 中国 > 生産量下方修正も史上最高、消費量も史上最高の見通し

【生育・生産状況】中国国家统计局「2021 年糧食生産量データ」(2021.12.6)によれば、2021 年の生産量は前年度より 4.6%増の 272.6 百万トンの見込み。

USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、上記の中国国家统计局データを反映し、大豆から収益性の良いとうもろこしの作付けにシフトしたことで収穫面積が上方修正される一方、単収が下方修正されたことから前月予測から 0.4 百万トン下方修正されたものの、前年度より 4.6%増の 272.6 百万トンと史上最高の見込み。

11 月上旬時点で、東北地区の春とうもろこし、河南省等の夏とうもろこしの収穫はすでに終了。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、旺盛な飼料用消費から前年度より 3.2%増の 294.0 百万トンと史上最高の見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 11.9%減の 26.0 百万トンの見込み。なお、2020/21 年度の輸入量は、29.5 百万トンと史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021 年 1～10 月の輸入量は 26.2 百万トンで、前年同期の 3.4 倍となり、前年の年間輸入量の 2.3 倍。内訳は、米国産 18.9 百万トン (72%)、ウクライナ産 7.3 百万トン (28%) で、前年同期はウクライナ産が 64%を占めたが、米国産の輸入が大幅に増加している。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 10 月号」によると、10 月の国内流通価格は、新穀とうもろこしは豊作見込みで、続々と市場に出回り始め、かつ旧穀とうもろこしの投げ売り、在庫処分等も重なり、国内とうもろこし市場への供給は十分な上、電力制限により一部加工業者の稼働率が低下し、2,740 元/トンと前月 (2,780 元/トン) から下落したものの、依然として、前年より高水準で推移した。一方、10 月の外国産価格は 2,600 元/トンと前月 (2,500 元/トン) から上昇した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

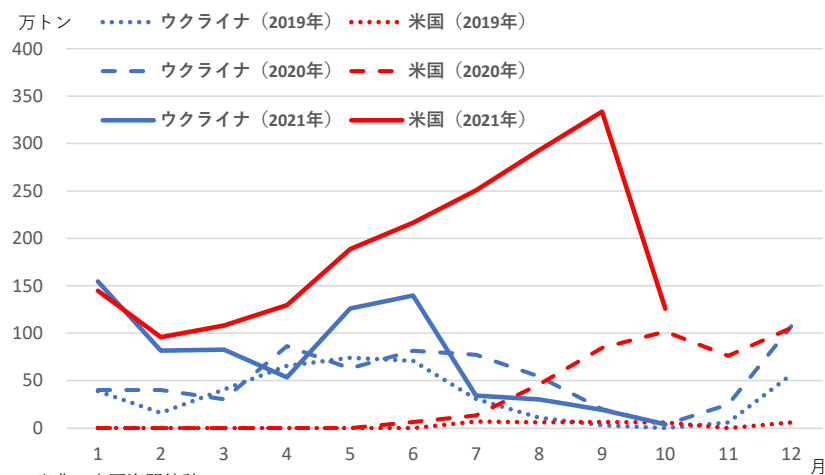
とうもろこし—中国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、() は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率 (%)	
生 産 量	260.8	260.7	272.6 (272.8)	▲ 0.4	4.6	
消 費 量	278.0	285.0	294.0 (295.2)	—	3.2	
うち飼料用	193.0	203.0	214.0 (192.0)	—	5.4	
輸 出 量	0.0	0.0	0.0 (0.1)	—	—	
輸 入 量	7.6	29.5	26.0 (16.5)	—	▲ 11.9	
期末在庫量	200.5	205.7	210.2 (188.4)	▲ 0.4	2.2	
期末在庫率	72.1%	72.2%	71.5% (63.8%)	▲ 0.1	▲ 0.7	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	41.28	41.26	43.32 (42.90)	1.32	5.0	
単収(t/ha)	6.32	6.32	6.29 (6.36)	▲ 0.21	▲ 0.5	

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC 「Grain Market Report」(18 November 2021)

図：中国におけるウクライナ・米国産とうもろこしの輸入状況



出典：中国海関統計

注：2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

3 コメ

(1) 国際的なコメ需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し>

2021/22 年度

生産量 前年度比  前月比 

・タイ等で下方修正されたことから前月から下方修正されたものの史上最高の見込み。

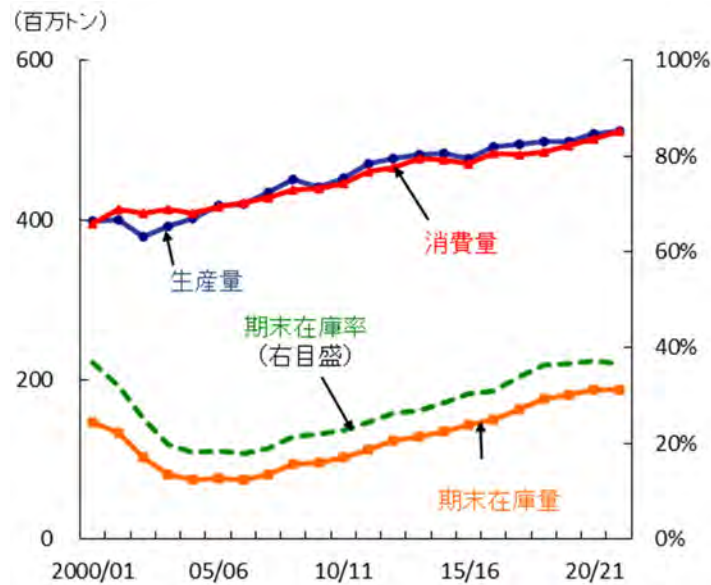
消費量 前年度比  前月比 

・ミャンマー等で下方修正されたことから前月から下方修正されたものの史上最高の見込み。

輸出量 前年度比  前月比 

・ミャンマー等で上方修正されたことから前月から上方修正された。

期末在庫量 前年度比  前月比 



資料：USDA「PS&D」（2021.12.9）をもとに農林水産省にて作成

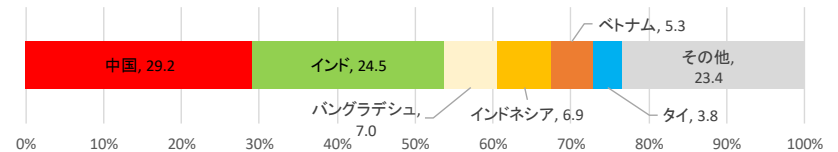
◎世界のコメ需給

(単位：百万精米トン)

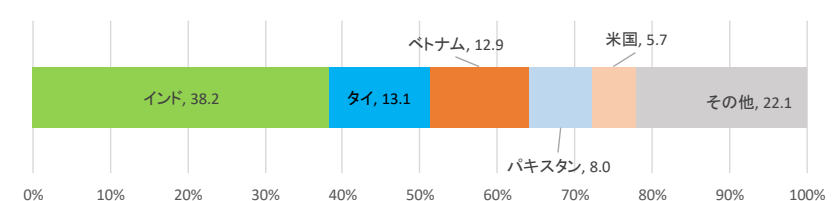
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	498.8	507.2	510.8	▲ 0.9	0.7
消費量	493.7	502.0	510.9	▲ 0.4	1.8
輸出量	43.4	49.8	49.7	0.1	▲ 0.2
輸入量	42.3	46.4	47.8	0.5	3.0
期末在庫量	181.8	186.9	186.8	▲ 1.1	▲ 0.1
期末在庫率	36.8%	37.2%	36.6%	▲ 0.2	▲ 0.7

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(9 December 2021)

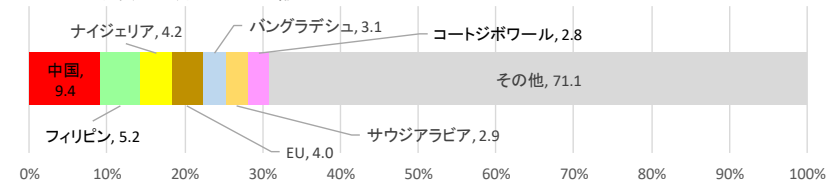
○ 2021/22年度 世界のコメの生産量(510.8百万トン)(単位：%)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸出量(49.7百万トン)



○ 2021/22年度 世界のコメの輸入量(47.8百万トン)



(2) 国別のコメの需給動向

< 米国 > 輸出力・輸入量ともに下方修正されるも価格は高値で推移

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比14.9%減の6.2百万トンの見込み。中・短粒種の生産量はコメ全体の約25%を占める。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.5%減の4.7百万トンの見込み。2021/22年度の輸出量は、11月までの予測と比較して、11月時点の米国輸出成約高が予想より伸びなかったことから、前月予測からわずかに下方修正され、対前年度比5.0%減の2.8百万トンの見込み。2021/22年度の輸入量は、歴史的な高値の海上運賃や世界的なコンテナ不足、その他供給網の混乱により、想定よりも遅いペースで輸入が行われていることにより、前月予測から0.1百万トン下方修正され、対前年度比1.9%減の1.1百万トンの見込み。背景には、米国西海岸の荷役の遅れなど運送の混乱がある。

同「Rice Outlook」(2021.12.13)によれば、12月7日までの週の地中海向けカリフォルニア米(1等、碎米4%混入、国内精米)の価格は、9月上旬から横ばいで、2009年6月以来の高値である1,125ドル/トン。12月7日までの週のイラク向け長粒種(2等、碎米4%混入)の価格については、7月20日までの週以降横ばいの600ドル/トンと高値で推移している(P18の「長粒種のFOB価格の推移」を参照)。

コメー米国

主に長粒種はミシシッピ川沿いで栽培、中・短粒種のシェアは約25%
米国のコメ生産に占めるカリフォルニア州のシェアは約2割

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	5.9	7.2	6.2	-	▲ 14.9
消費量	4.6	4.9	4.7	-	▲ 3.5
輸出量	3.0	3.0	2.8	▲ 0.0	▲ 5.0
輸入量	1.2	1.1	1.1	▲ 0.1	▲ 1.9
期末在庫量	0.9	1.4	1.1	▲ 0.0	▲ 20.9
期末在庫率	12.0%	17.8%	14.6%	▲ 0.1	▲ 3.1

(参考)

収穫面積(百万ha)	1.00	1.21	1.01	-	▲ 16.5
単収(もみt/ha)	8.38	8.54	8.70	-	1.9

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

写真: アーカンソー州でのコメの収穫風景



USDAは、米国最多コメ収穫州のアーカンソー州(主に長粒種を栽培)の2021年平均単収を8.36トン/ヘクタールと予想。この値を維持出来れば同州の史上最高単収となる。
(11月10日撮影)

< インド > 2020/21 年度の輸出量が 20.2 百万トンに上方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 2.2%増の 125.0 百万トンで史上最高の見込み。同 USDA「World Agricultural Production」(2021.12.9)によれば、カリフ作の収穫が例年より遅れたためラビ作の作付開始が遅れた。

インド農業農民福祉省「All India Crop Situation」(2021.12.3)によれば、ラビ作は例年 425 万ヘクタールほど作付されており、12 月 3 日時点のラビ作の作付済み面積は、前年同期比より 3.8%進んで 97.4 万ヘクタールとなっている。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.5%増の 103.5 百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 5.8%減の 19.0 百万トンの見込みで史上 2 番目の高水準。2020/21 年度の輸出量は、2021 年 1 月から 10 月に 17.8 百万トンと想定を超える船積みが行われたことに基づき、0.2 百万トン上方修正され、20.2 百万トンとなり史上最高の見込み。2021/22 年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 6.9%増の 38.5 百万トンで史上最高の見込み。なお、インドの期末在庫量は世界の約 2 割を占める見通し。

インド商務省の輸出量データによれば、2021 年 4 月～10 月の累積輸出量は 1,179.3 万トンであり、輸出量の多い国の上位はバングラデシュ (147.5 万トン)、中国 (74.4 万トン)、ベナン (72.0 万トン) になっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.12.13)によれば、インド産米(碎米 5%混入)の 12 月 7 日までの週の価格は 11 月 7 日までの週より 10 ドル下落して 340 ドル/トンとなり、パキスタンの同時期の同等クラスの輸出価格 350 ドル/トン等と比較しても引き続いてアジアの中で最も競争力のある価格になっている(P18の「長粒種の FOB 価格の推移」を参照)。

コメーインド

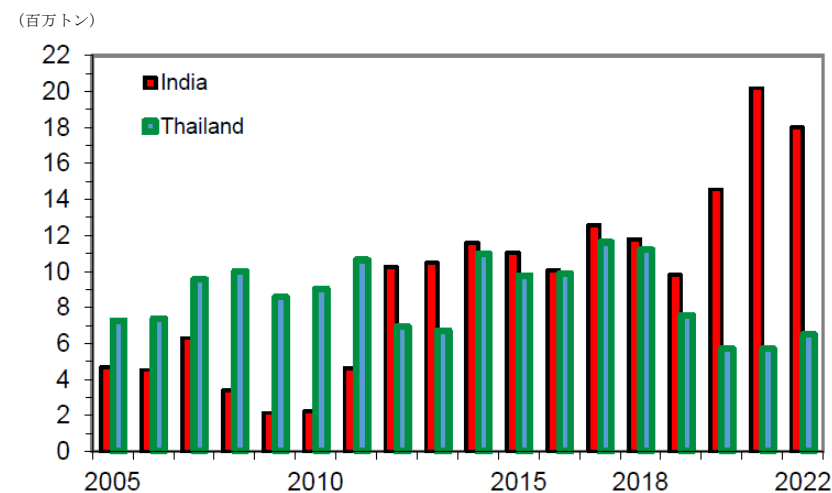
雨季をカリフ、乾季をラビと呼ぶ。北部はカリフ・ラビ(小麦)の二毛作、南部はカリフ・ラビの二期作。主にインディカを栽培

(単位:百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	118.9	122.3	125.0 (124.5)	-	2.2
消 費 量	102.0	100.0	103.5 (104.0)	-	3.5
輸 出 量	12.5	20.2	19.0 (17.4)	-	▲ 5.8
輸 入 量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	33.9	36.0	38.5 (39.2)	-	6.9
期末在庫率	29.6%	30.0%	31.4% (32.2%)	-	1.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	43.66	45.00	45.50 (44.50)	-	1.1
単収(もみt/ha)	4.08	4.08	4.12 (2.80)	-	1.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

図: インドとタイの輸出量の推移(2021年に、インドの輸出量は史上最高、タイの輸出量は1997年以降で最低となる見通し) ※2021年、2022年は予測



資料: USDA「Rice Outlook:December 2021」(2021.12.13)

< 中国 > 中国全土でコメの収穫が終了

【生育・生産動向】中国国家统计局「2021年糧食生産量データ」（2021.12.6）によれば、2021年の生産量はもみベースで212.8百万トンと対前年比0.5%増となっている。

USDAによれば、2021/22年度の生産量は、上記の中国国家统计局データを反映し、単収が上方修正された一方で収穫面積が下方修正されたことから、前月予測からわずかに下方修正されたものの、対前年度比0.5%増の149.0百万トンで史上最高の見込み。

中国中央气象台（2021.12.3）によれば、二期作早稲、二期作晩稲及び一期作稲はそれぞれ収穫済み。国家糧油情報センター（2021.12.6）によれば、2021年度の晩稲の生産状況は比較的に良好で、播種面積、単収及び生産量の面で増加する見通しであり、品質は全体的に前年を上回り、政府買付基準を満たした粳は9割以上に達する見通し。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の消費量はわずかに下方修正されたものの、対前年度比2.9%増の154.9百万トンで史上最高の見込み。2021/22年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、前年度と同じ4.5百万トンの見込み。2021/22年度の期末在庫量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比3.0%減の113.0百万トンの見込み。なお、中国の期末在庫量は世界の約6割を占める見通し。

中国農業農村部「農産品供需形勢分析月報10月号」によれば、農家販売価格は、10月、新穀中晩稲の出荷量が持続的に増加し、政府が備蓄している旧穀も引き続き売却されており、市場への供給量は十分であるが、末端需要や在庫消化がそれほど活発でないことで、市場におけるコメ加工業者の買付意欲が高くなく、粳の買付価格は下落した。一方、卸売価格については、国慶節の消費ピークのコメ価格への影響は限られており、低価格米の輸入量は増加傾向を維持していることから、安定しつつも弱含みで推移している。2021年10月の全国平均品種別米卸売価格は、早稲インディカ米は3,800元/トン（前月同）、晩稲インディカ米4,140元/トン（前月より0.5%下落）、一期作ジャポニカ米3,920元/トン（前月より1.0%下落）になっている。

コメー中国

北部で一期作、南部で二期作。ジャポニカ(粳)米は東北地区、江蘇省等で栽培、生産シェアは3割程度

(単位: 百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	146.7	148.3	149.0 (150.4)	▲ 0.0	0.5
消費量	145.2	150.6	154.9 (151.5)	▲ 0.0	2.9
輸 出 量	2.6	2.2	2.1 (2.6)	-	▲ 5.4
輸 入 量	2.6	4.5	4.5 (3.7)	-	-
期末在庫量	116.5	116.5	113.0 (109.6)	-	▲ 3.0
期末在庫率	78.8%	76.2%	72.0% (71.1%)	0.0	▲ 4.3
(参考)					
収穫面積(百万ha)	29.69	30.08	29.92 (30.11)	▲ 0.08	▲ 0.5
単収(もみt/ha)	7.06	7.04	7.11 (5.00)	0.01	1.0

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC「Grain Market Report」(18 November 2021) (単収は精米t/ha)

写真: 黒龍江省での収穫後の粳の露天保存風景



写真の圃場では、収穫後の粳を露天保存しており、大雪や強風の場合にはビニール等で覆い、湿気と粳の飛び散りを防いでいる。(12月上旬撮影)

< タイ > 洪水の発生により生産量が下方修正

【生育・生産動向】USDAによれば、2021/22年度(2022年1月～同年12月)の生産量は、9月から10月にかけて多数の地域で発生した洪水により、開花から成熟期のコメが被害を受け、収穫面積が減少したことで前月予測から0.2百万トン下方修正され、対前年度比2.3%増の19.3百万トンの見込み。2020/21年度(2021年1月～同年12月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比6.8%増の18.9百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比16.1%増の6.5百万トンとなることでベトナムの輸出量(6.4百万トン)を上回り、インドに次ぐ世界第2位のコメ輸出国となる見通し。2020/21年度の輸出量は、イラクや西アフリカ等への輸出が増えたことで0.1百万トン上方修正され、対前年度比1.8%増の5.7百万トンになる見通し。

タイ商務省は、パーツ安となりタイ産米の価格競争力が高まったことで、2021年10月に年間輸出量で最多となったこと、11月1日～22日までの外国貿易局のコメ輸出許可申請が約62万トンとなっていることなどから、年間輸出目標である6.0百万トンを達成出来ると見込んでいる。

タイ米輸出業協会によれば、2021年1月から10月までの輸出量は、前年同期比12.8%減少の459.1万トン。輸出先国は、南アフリカ(64.1万トン)、米国(43.6万トン)、中国(43.0万トン)の順となっている。また、同協会の見方としては、現時点でオミクロン株の流行による注文や輸出への影響は出ていないものの、世界中に拡大し2022年まで継続するようであれば輸出への影響が考えられるため、輸入国における同株の流行状況を注視しているとしている。

USDA「Rice Outlook」(2021.12.13)によれば、12月6日までの週のタイ産米(長粒、2等丸米)の輸出価格は、ベトナム産米より安い価格による買い手の引き合いが促されたことで、11月1日までの週より4ドル/トン上昇し395ドル/トンとなっている。

コメ・タイ

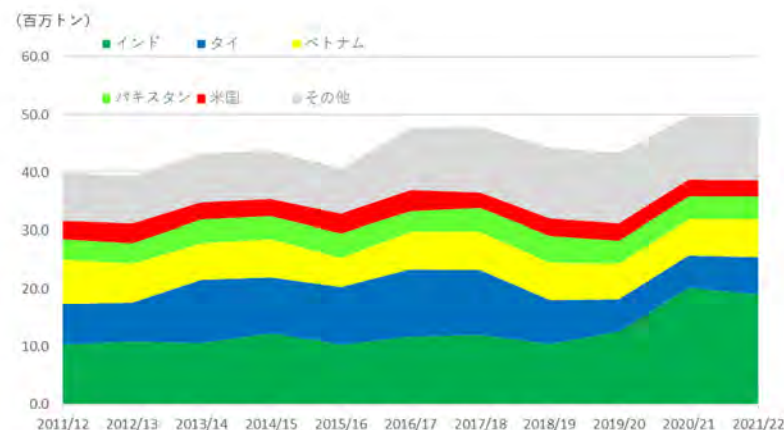
夏期の雨季作と冬期の乾季作で行われる。主にインディカ米を栽培

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	(単位:百万精米トン)			
			2021/22			
			予測値、()はIGC		前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	17.7	18.9	19.3	(19.5)	▲ 0.2	2.3
消費量	12.3	12.7	13.0	(11.9)	-	2.4
輸出量	5.7	5.7	6.5	(7.7)	-	14.0
輸入量	0.3	0.2	0.2	(0.3)	-	-
期末在庫量	4.0	4.6	4.6	(7.2)	▲ 0.3	-
期末在庫率	22.1%	25.2%	23.8%	(36.7%)	▲ 1.5	▲ 1.4
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.89	10.51	10.40	(10.53)	▲ 0.10	▲ 1.0
単収(もみt/ha)	2.70	2.72	2.81	(1.85)	-	3.3

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

IGC「Grain Market Report」(18 November 2021) (単収は精米t/ha)

図: 世界のコメの主要輸出国の輸出量の推移



資料: USDA「PS&D」(2021.12.9)をもとに農林水産省にて作成

< ベトナム > インドからの碎米輸入は食品加工用のほか飼料用やビール用

【生育・生産動向】USDA によれば、2020/21 年度(2021 年 1 月～同年 12 月)の生産量は、農家がコメから野菜や果物、水産物への転換を行ったことで収穫面積が減少したことにより、前月予測から 0.1 百万トン下方修正され、対前年度比 0.8%増の 27.3 百万トンの見込み。2021/22 年度(2022 年 1 月～同年 12 月)の生産量は前月予測からの変更はなく、対前年度比 0.9%減の 27.1 百万トンの見込み。

ベトナム農業・農村開発省によれば、2021 年の生産量のうち冬春作は 20.6 百万トンを、夏秋作は 12.8 百万トンを、ムア作(雨季作)は 7.0 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2020/21 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、0.5%増の 6.2 百万トンの見込み。2021/22 年度の輸出量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 3.2%増の 6.4 百万トンの見込み。例年、ベトナムは国境を接しているカンボジアから籾米を輸入しているが、2020/21 年度は、飼料用、食品加工及びビール用にインドから大量の碎米を輸入したことから、前年度の 4 倍を超える 1.7 百万トンの輸入量となった。なお、この傾向は次年度に継続すると見られておらず、2021/22 年度の輸入量は、前月予測からの変更はなく、対前年度比 69.7%減の 0.5 百万トンの見込み。

ベトナム税関総局によれば、2021 年 1 月から 11 月の間のコメの輸出量は 574.8 万トンとなっている。

USDA「Rice Outlook」(2021.12.13)によれば、ベトナム産米(長粒種、5%碎米混入)の 12 月 7 日までの週の価格は、11 月に最大の輸出先であるフィリピンが検疫許可を停止したことにより 11 月 2 日までの週より 25 ドル/トン下落し 410 ドル/トンとなっている。ベトナム産米の価格は、同じグレードや品質の競合するアジア諸国のコメの中で最も高くなっている。

ベトナム税関総局によれば、ジャポニカ米の 2021 年 1 月～10 月の輸出量は、対前年同期比 39.1%減の 12.8 万トンになっている。

コメベトナム

北部で二期作、南部で二期作・三期作。主に長粒種、一部で短粒種も栽培

(単位：百万精米トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()は IGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	27.1	27.3	27.1 (28.3)	-	▲ 0.9
消費量	21.3	21.5	21.4 (23.1)	-	▲ 0.5
輸出量	6.2	6.2	6.4 (6.4)	-	3.2
輸入量	0.4	1.7	0.5 (1.0)	-	▲ 69.7
期末在庫量	1.2	2.5	2.4 (3.1)	▲ 0.0	▲ 6.0
期末在庫率	4.3%	9.1%	8.5% (10.4%)	▲ 0.2	▲ 0.6

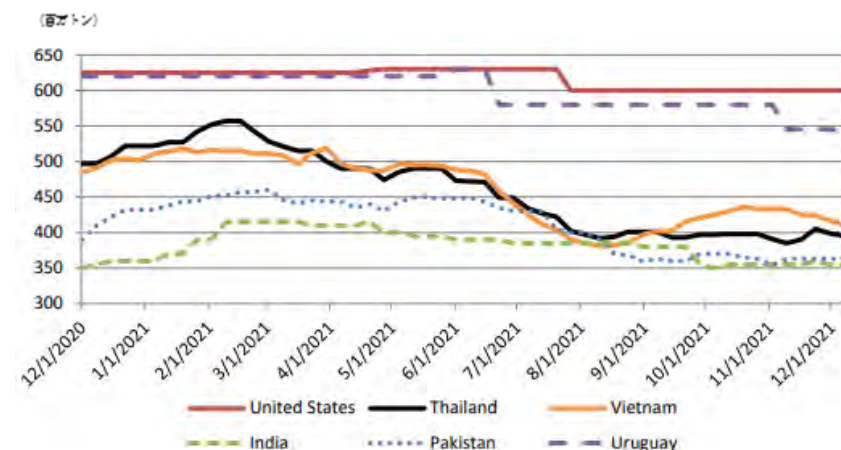
(参考)

収穫面積(百万ha)	7.38	7.33	7.35 (7.45)	-	0.3
単収(もみt/ha)	5.88	5.97	5.90 (3.80)	-	▲ 1.2

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

IGC「Grain Market Report」(18 November 2021) (単収は精米t/ha)

図：長粒種の FOB 価格の推移(ベトナム産の価格競争力が上昇)



資料：USDA「Grain : World Markets and Trade」(2021.12.9)

Ⅱ 油糧種子 大豆

(1) 国際的な大豆需給の概要（詳細は右表を参照）

<米国農務省（USDA）の見通し> 2021/22 年度

生産量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国、パラグアイで下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

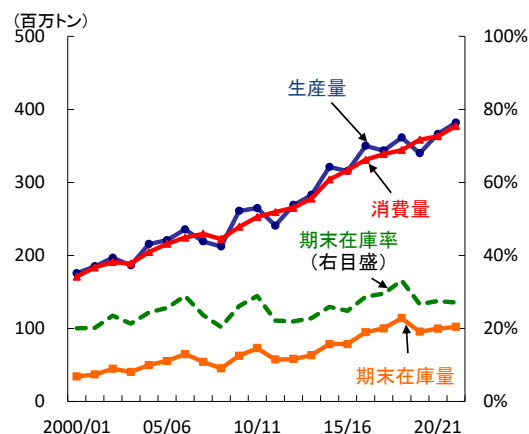
消費量 前年度比 ↑ 前月比 ↓

・中国、パラグアイ等で下方修正され、前月から下方修正された。史上最高の見込み。

輸出量 前年度比 ↑ 前月比 ↑

・パラグアイで下方修正も、カナダ、ウクライナ等で上方修正され、前月から上方修正された。史上最高の見込み。

期末在庫量 前年度比 ↑ 前月比 ↓



資料：USDA「PS&D」（2021.12.9）をもとに農林水産省で作成

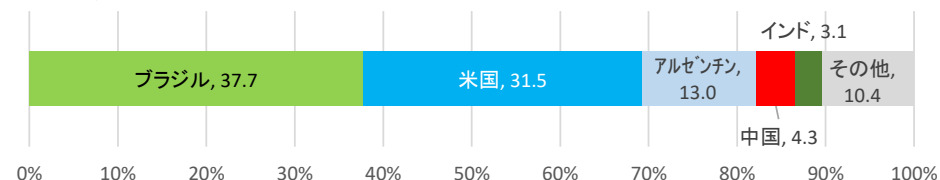
◎ 世界の大豆需給

（単位：百万トン）

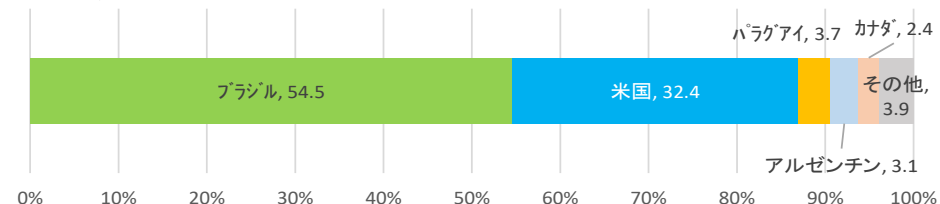
年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測から の変更	対前年度 増減率(%)
生産量	339.9	366.2	381.8	▲ 2.2	4.2
消費量	358.4	363.0	377.0	▲ 1.0	3.9
うち搾油用	312.4	315.8	327.8	▲ 1.1	3.8
輸出量	165.1	164.8	172.3	0.3	4.6
輸入量	165.0	165.8	169.8	-	2.4
期末在庫量	95.5	99.8	102.0	▲ 1.8	2.2
期末在庫率	26.7%	27.5%	27.1%	▲ 0.4	▲ 0.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」（9 December 2021）

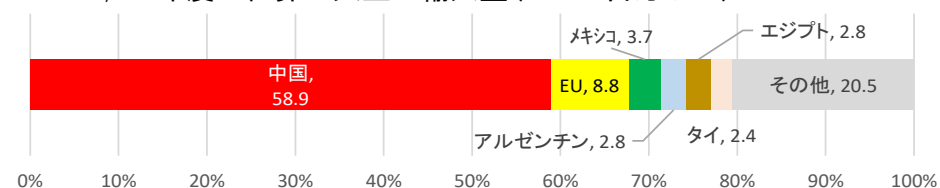
○ 2021/22 年度の世界の大豆の生産量 (381.8 百万トン) (単位：%)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸出量 (172.3 百万トン)



○ 2021/22 年度の世界の大豆の輸入量 (169.8 百万トン)



(2) 国別の大豆の需給動向

< 米国 > 生産量は史上第2位、輸出減の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の実産量は、前月予測から変更はなく、前年度より4.9%増の120.4百万トンと2018/19年度に次ぐ史上第2位の見込み。

11月末時点で、収穫は例年並みのペースでほぼ終了した。

【需要動向】USDAによれば、2021/22年度の実消費量は、前月予測から変更はなく、前年度より3.0%増の62.8百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の実輸出量は、前月予測から変更はなく、史上最高の輸出量となった前年度より9.5%減の55.8百万トンの見込み。

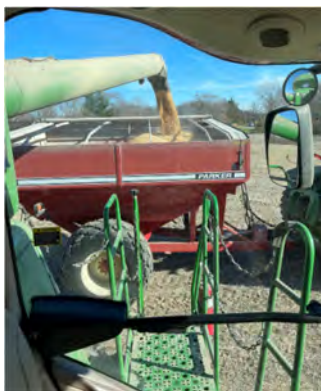
USDAによれば、輸出検証高(2021年1月7日～12月2日)は、43.8百万トンであり、内訳は中国(23.5百万トン)、メキシコ(4.2百万トン)、エジプト(2.3百万トン)、日本(1.8百万トン)、インドネシア(1.7百万トン)の順。

USDAによれば、2021/22年度の期末在庫量は、前月予測から変更はなく、前年度より32.7%増の9.3百万トンの見込み。期末在庫率は7.8%で依然として低水準の見込み。

写真：中西部イリノイ州の大豆の収穫風景

(11月12日撮影)

収穫したばかりの大豆をトレーラーに積み込んでいる。



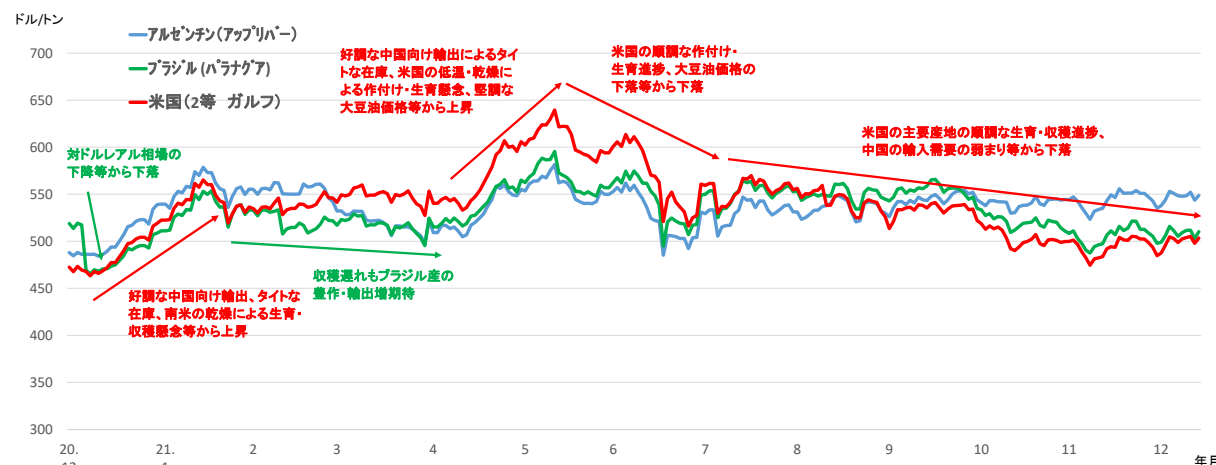
大豆－米国

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値	前月予測からの変更	対前年度増減率(%)
生産量	96.7	114.8	120.4	－	4.9
消費量	61.9	60.9	62.8	－	3.0
うち搾油用	58.9	58.3	59.6	－	2.3
輸 出 量	45.7	61.7	55.8	－	▲ 9.5
輸 入 量	0.4	0.5	0.4	－	▲ 24.1
期末在庫量	14.3	7.0	9.3	－	32.7
期末在庫率	13.3%	5.7%	7.8%	－	2.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	30.33	33.43	34.98	－	4.6
単収(t/ha)	3.19	3.43	3.44	－	0.3

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)

図：米国、ブラジル、アルゼンチン大豆輸出価格(FOB)の推移



資料：IGCのデータをもとに農林水産省にて作成

＜ ブラジル ＞ 収穫面積増で生産量は史上最高の見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、前月予測からの変更はなく、前年度より4.3%増の144.0百万トンとなり、史上最高の見込み。

なお、ブラジル食料供給公社(CONAB)月例報告(2021.12.9)によれば、2021/22年度の実生産量は、前年度より4.0%増の142.8百万トンで史上最高の見込み。

12月中旬までブラジル中西部から北東部で広く降雨が継続し、生育は順調である。一方、南部では乾燥・降雨不足により作柄への影響が懸念されている。最大生産州である中西部マト・グロッソ州の作付は終了し、生育は順調。南部のパラナ州では生殖生長から充実段階が12月6日現在44%となっている。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、搾油用消費量の増加から、前年度より1.9%増の50.4百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より15.1%増の94.0百万トンと史上最高の見込み。

ブラジル貿易統計によれば、2021年11月の輸出量は2.6百万トンで、前年同月(1.4百万トン)に比べ1.8倍。2021年1～11月の輸出量は83.4百万トンで、前年同期(82.7百万トン)に比べ0.8%増となっている。内訳は、1位が中国で58.4百万トン、2位がスペインで3.6百万トン、3位がオランダで2.8百万トンとなっている。

ブラジルのクロップカレンダー(中部から南部)

2022年2月以降大豆の収穫が行われ、その後、一部圃場で冬とうもろこしを栽培予定。

2021/22年度	2021年												2022年								
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9
夏とうもろこし	リオ・グランデ・ド・スール州等												作付 4.5(百万ha)								
冬とうもろこし	作付面積夏冬計 20.9百万ha												作付 16.4(百万ha)								
大豆	マト・グロッソ州、パラナ州等												作付 40.4(百万ha)								
													収穫 29.1(百万t)								
													収穫 88.1(百万t)								
													収穫 142.8(百万t)								

資料：CONAB穀物レポート (2021.12.9)

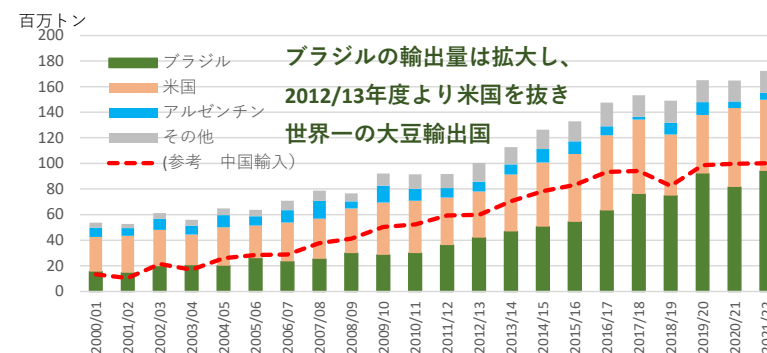
大豆ーブラジル

(単位：百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生 産 量	128.5	138.0	144.0 (143.0)	-	4.3	
消 費 量	49.4	49.4	50.4 (48.6)	-	1.9	
うち搾油用	46.7	46.8	47.7 (46.0)	-	2.0	
輸 出 量	92.1	81.7	94.0 (92.2)	-	15.1	
輸 入 量	0.6	1.0	0.7 (0.3)	-	▲ 36.3	
期末在庫量	20.0	28.0	28.3 (8.4)	-	1.1	
期末在庫率	14.1%	21.3%	19.6% (6.0%)	-	▲ 1.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	36.90	38.90	40.40 (40.50)	-	3.9	
単収(t/ha)	3.48	3.55	3.56 (3.53)	-	0.3	

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「World Agricultural Production」(9 December 2021)
IGC「Grain Market Report」(18 November 2021)

図：世界の大豆輸出国の輸出量の推移



資料：USDA「PS&D」(2021.12.9)のデータをもとに農林水産省にて作成

＜ アルゼンチン ＞ 単収増で増産見通し、輸出税は継続

【生育・生産状況】USDA によれば、2021/22 年度の生産量は、前月予測から変更はなく、単収の増加から前年度より 7.1%増の 49.5 百万トンの見込み。

ブエノスアイレス穀物取引所週報（2021.12.16）によれば、最近の降雨が作付けを遅らせたものの、北部の土壌水分は改善した。作付進捗率は 65%で、過去 5 年平均より 7 ポイント遅れている。なお、ラニーニャ現象の発生に伴う今後の乾燥天候の影響に注意が必要である。

【需給状況】USDA によれば、2021/22 年度の消費量は、前月予測からの変更はなく、前年度より 4.2%増の 49.4 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の輸出量は、前月予測から変更はなく、前年度より 3.1%増の 5.4 百万トンの見込み。

アルゼンチン国家統計局によれば、2021 年 1～10 月の輸出量は 5.3 百万トンで、前年同期（6.8 百万トン）より 21.2%減。内訳は、1 位が中国 344 万トン、2 位がエジプト 60 万トンとなっている。7 月 26 日に 180 日間の渇水の緊急事態宣言が発令されたパラナ川の水位低下に伴うアルゼンチンの穀物等の輸出への影響に引き続き注視が必要である。

アルゼンチンは、大豆輸出量よりも、搾油後に発生する大豆加工品の輸出が多く、大豆粕については、世界第 1 位の輸出国である。

アルゼンチン政府は、財政赤字の補填等のため、2021 年 1 月以降、輸出税を大豆 33%、大豆粕及び大豆油 31%に設定し、現在も継続中。

写真：北部サンタフェ州の大豆の生育風景

（12 月 4 日撮影）

10 月下旬に作付け。生育は極めて良好。

収穫は 2022 年 3 月下旬の予定。

大豆－アルゼンチン

（単位：百万トン）

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	48.8	46.2	49.5 (47.0)	－	7.1
消 費 量	45.9	47.4	49.4 (47.8)	－	4.2
うち搾油用	38.8	40.2	42.0 (41.5)	－	4.6
輸 出 量	10.0	5.2	5.4 (5.7)	－	3.1
輸 入 量	4.9	4.8	4.8 (4.8)	－	▲ 0.4
期末在庫量	26.7	25.1	24.6 (4.2)	－	▲ 1.8
期末在庫率	47.7%	47.6%	44.9% (7.9%)	－	▲ 2.7
(参考)					
収穫面積(百万ha)	16.70	16.47	16.40 (16.40)	－	▲ 0.4
単収(t/ha)	2.92	2.81	3.02 (2.87)	－	7.5

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

「World Agricultural Production」(9 December 2021)

IGC「Grain Market Report」(18 November 2021)



< 中国 > 収穫面積・単収下方修正で減産見通し、輸入量は史上最高の1億トン

【生産・生育状況】中国国家统计局「2021 年糧食生産量データ」(2021.12.6)によれば、2021 年の生産量は前年度より 16.4%減の 16.4 百万トンの見込み。

USDA によれば、2021/22 年度の実産量は、上記の中国国家统计局データを反映し、収益性の高いとうもろこし等に作付けがシフトしたことにより、主に収穫面積が下方修正されたことから前月予測から 2.6 百万トン下方修正され、前年度より 16.3%減の 16.4 百万トンの見込み。

11 月上旬時点で、収穫はすでに終了。

【需給動向】USDA によれば、2021/22 年度の実消費量は、搾油マージンの低下、搾油ペースの減速に伴い、前月予測から 1.0 百万トン下方修正されたものの、依然として旺盛な搾油用需要から前年度より 4.6%増の 116.7 百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDA によれば、2021/22 年度の実輸入量は、前月予測から変更はなく、前年度より 0.2%増の 100.0 百万トンで史上最高の見込み。

中国の貿易統計によれば、2021 年 1～10 月の輸入量は 79.1 百万トンと、前年同期比で 5.0%減。内訳は、ブラジル産 52.3 百万トン (66%)、米国産 22.6 百万トン (29%)。なお、10 月の輸入量は 5.1 百万トンで、前年同月 (8.7 百万トン) より 41.2%減。ブラジル産が 3.3 百万トンと 65%を占めた。今後は、米国の収穫に伴い、11 月以降輸入先が徐々に米国産に切り替わるとみられる。

農業農村部「農産品供需形勢分析月報 10 月号」によると、10 月の国内価格(山東省の国産大豆工場渡し価格)は、新穀大豆の収穫が終盤に入り、10 月初旬から中旬にかけて新穀大豆が集中して出荷されたが、本年度の実産量の減少、作付けコストの上昇、農家の売り惜しみ等の影響で、前月 (6,100 元/トン) から上昇し、6,140 元/トンで高水準である。農家は今後の価格上昇を見込んで販売に消極的で、今後、国内大豆価格は高止まりするとされている。一方、10 月の国際価格(山東省の輸入大豆価格)は 4,540 元/トンと前月 (4,600 元/トン) から下落した。今後の中国の輸入動向に注視が必要である。

大豆—中国

(単位: 百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22		
			予測値、()はIGC	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	18.1	19.6	16.4 (18.7)	▲ 2.6	▲ 16.3
消 費 量	109.2	111.6	116.7 (118.0)	▲ 1.0	4.6
うち搾油用	91.5	93.0	97.0 (99.0)	▲ 1.0	4.3
輸 出 量	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	42.9
輸 入 量	98.5	99.8	100.0 (98.5)	-	0.2
期末在庫量	26.8	34.5	34.1 (30.8)	▲ 1.6	▲ 1.2
期末在庫率	24.5%	30.9%	29.2% (26.1%)	▲ 1.1	▲ 1.7

(参考)

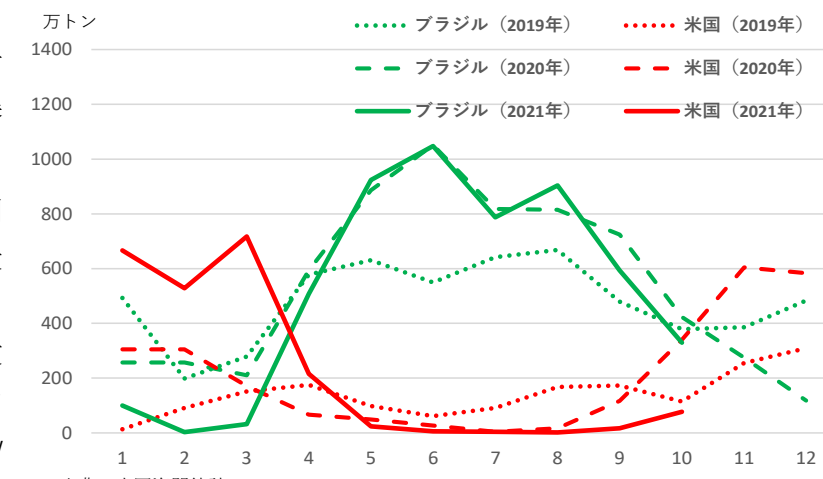
収穫面積(百万ha)	9.33	9.88	8.40 (9.35)	▲ 1.20	▲ 15.0
単収(t/ha)	1.94	1.98	1.95 (1.99)	▲ 0.03	▲ 1.5

資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、

「World Agricultural Production」(9 December 2021)

IGC「Grain Market Report」(18 November 2021)

図：中国におけるブラジル、米国産大豆の輸入状況



出典: 中国海関統計

注: 2020年1月分と2月分は合計で公表されたため、便宜上1/2で按分

< カナダ > 収穫面積・単収上方修正も、西部での高温乾燥の影響で減産見通し

【生育・生産状況】USDAによれば、2021/22年度の生産量は、以下のカナダ統計局データを反映し、収穫面積及び単収が上方修正され、前月予測から0.4百万トン上方修正されたものの、生育期間の西部カナダでの乾燥の影響による単収の減少に伴い、前年度より1.4%減の6.3百万トンの見込み。11月末時点で、収穫は終了している。

なお、カナダ統計局「Production of principal field crops, November 2021」(2021.12.3)、カナダ農務農産食品省(AAFC)「Outlook for Principal Field Crops」(2021.12.17)によれば、収穫面積は前年度より4.8%増の一方、単収は東部カナダの主産州オンタリオ州では前年度を上回るものの、西部カナダの生育期間中の乾燥の影響からマニトバ州等で大幅に減少することから、生産量は前年度より1.4%減の6.3百万トンの見込み。

【需給状況】USDAによれば、2021/22年度の消費量は、生産量の上方修正に伴い、前月予測から0.2百万トン上方修正されたものの、前年度より4.2%減の2.5百万トンの見込み。

【貿易情報・その他】USDAによれば、2021/22年度の輸出力は、生産量の上方修正に伴い、前月予測から0.2百万トン上方修正されたものの、前年度より7.6%減の4.2百万トンの見込み。

カナダ穀物委員会(Canadian Grain Commission)によれば、2021/22年度(2021年8月～2022年7月)のうち、2021年8月～10月の輸出力は87.5万トンで、国別では、オランダ(16.1万トン)、イタリア(12.7万トン)、バングラデシュ(9.0万トン)、アルジェリア(8.0万トン)の順。

大豆ーカナダ

(単位:百万トン)

年 度	2019/20	2020/21 (見込み)	2021/22			
			予測値、()はAAFC		前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生 産 量	6.1	6.4	6.3	(6.3)	0.4	▲ 1.4
消 費 量	2.6	2.7	2.5	(2.3)	0.2	▲ 4.2
うち搾油用	1.8	1.6	1.8	(1.8)	0.1	6.6
輸 出 量	3.9	4.5	4.2	(4.2)	0.2	▲ 7.6
輸 入 量	0.3	0.5	0.5	(0.4)	-	▲ 3.1
期末在庫量	0.6	0.3	0.3	(0.5)	▲ 0.2	8.2
期末在庫率	9.6%	4.1%	4.7%	(6.9%)	▲ 2.8	0.6
(参考)						
収穫面積(百万ha)	2.27	2.04	2.13	(2.14)	0.03	4.4
単収(t/ha)	2.71	3.12	2.94	(2.93)	0.13	▲ 5.8

資料:USDA「PS&D」

「World Agricultural Production」(9 December 2021)

AAFC「Outlook for Principal Field Crops」(17 December 2021)

(参考)本レポートに使用されている各国の穀物年度について (2021/22年度)

	小麦	とうもろこし	コメ	大豆
米国	21年6月～22年5月	21年9月～22年8月	21年8月～22年7月	21年9月～22年8月
カナダ	21年8月～22年7月			21年8月～22年7月
豪州	21年10月～22年9月		22年3月～23年2月	
EU	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		
中国	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月
ロシア	21年7月～22年6月	21年10月～22年9月		21年9月～22年8月
ブラジル		22年3月～23年2月	22年4月～23年3月	21年10月～22年9月
アルゼンチン	21年12月～22年11月	22年3月～23年2月		21年10月～22年9月
タイ			22年1月～12月	
インド	21年4月～22年3月		21年10月～22年9月	
ベトナム			22年1月～12月	

注 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。

例えば、2021/22年度は、米国の小麦では2021年6月～2022年5月、ブラジルのとうもろこしでは2022年3月～2023年2月です。

なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads> (「Reference Data」タブを参照)

第6号特別分析トピック：ブラジルの農業とコロナ感染拡大の影響

ブラジルの農林水産業概況①

- 人口は、2億1256万人。広大な国土、温暖な気候、多くの水資源を有する世界有数の農業生産国。また耕地面積拡大の余地が大きく、海外から投資対象としても注目。
- 農産物の輸出大国であり、農産物輸出額は、アメリカ、オランダ、ドイツ、中国に次ぐ世界第5位(2019年)。主要農産物はさとうきび、大豆、とうもろこし、オレンジ、コーヒー(生豆)、生乳(牛)、鶏肉、牛肉等がある。



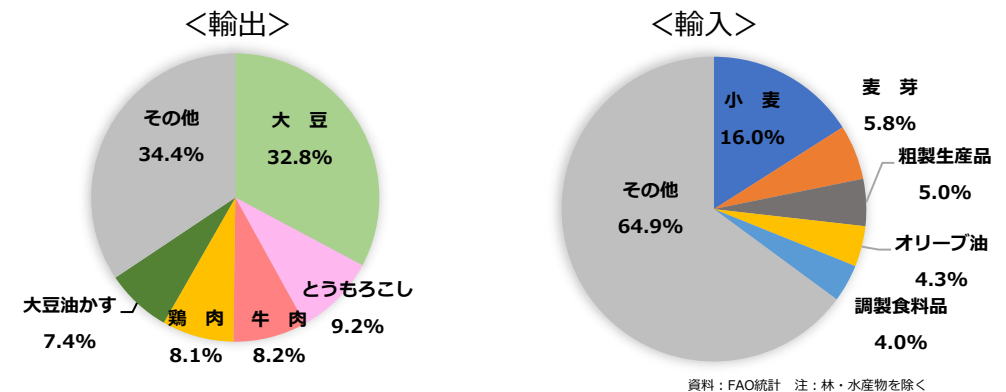
・主要農産物の生産状況

(単位：万トン)

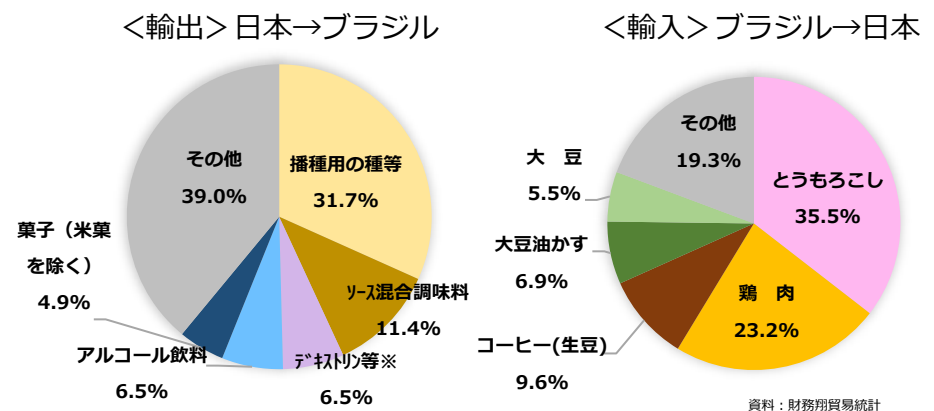
	2015	2016	2017	2018	2019
さとうきび	75,029	76,859	75,865	74,706	75,290
大豆	9,746	9,639	11,473	11,791	11,427
とうもろこし	8,528	6,419	9,791	8,237	10,114
キャッサバ	2,306	2,104	1,850	1,788	1,750
オレンジ	1,695	1,698	1,749	1,684	1,707
コメ(粳)	1,230	1,062	1,246	1,181	1,037
コーヒー(生豆)	265	302	268	355	301
生乳(牛)	3,461	3,368	3,431	3,493	3,589
鶏肉	1,315	1,323	1,361	1,351	1,352
牛肉	943	928	955	990	1,020
豚肉	343	371	382	395	413
鶏卵	226	226	288	303	316

資料：FAO統計

・農林水産物貿易の概況



・我が国との農林水産物貿易



※デキストリン等：コーンスターチ、タピオカでん粉及びばいしょでん粉等のでん粉分子を比較的大きな分子に分解したもの。一般的に食品用(粉末スープ、つや出し用等)、医薬品(成形向上等)として使用される。

ブラジルの農林水産業概況②

ブラジルの地域区分と農業

アマゾン熱帯雨林が広がり新規開発を抑制。アグロフォレストリーが注目（例：パラ州トメアス）

セラードが広く分布し、農業生産の中心地

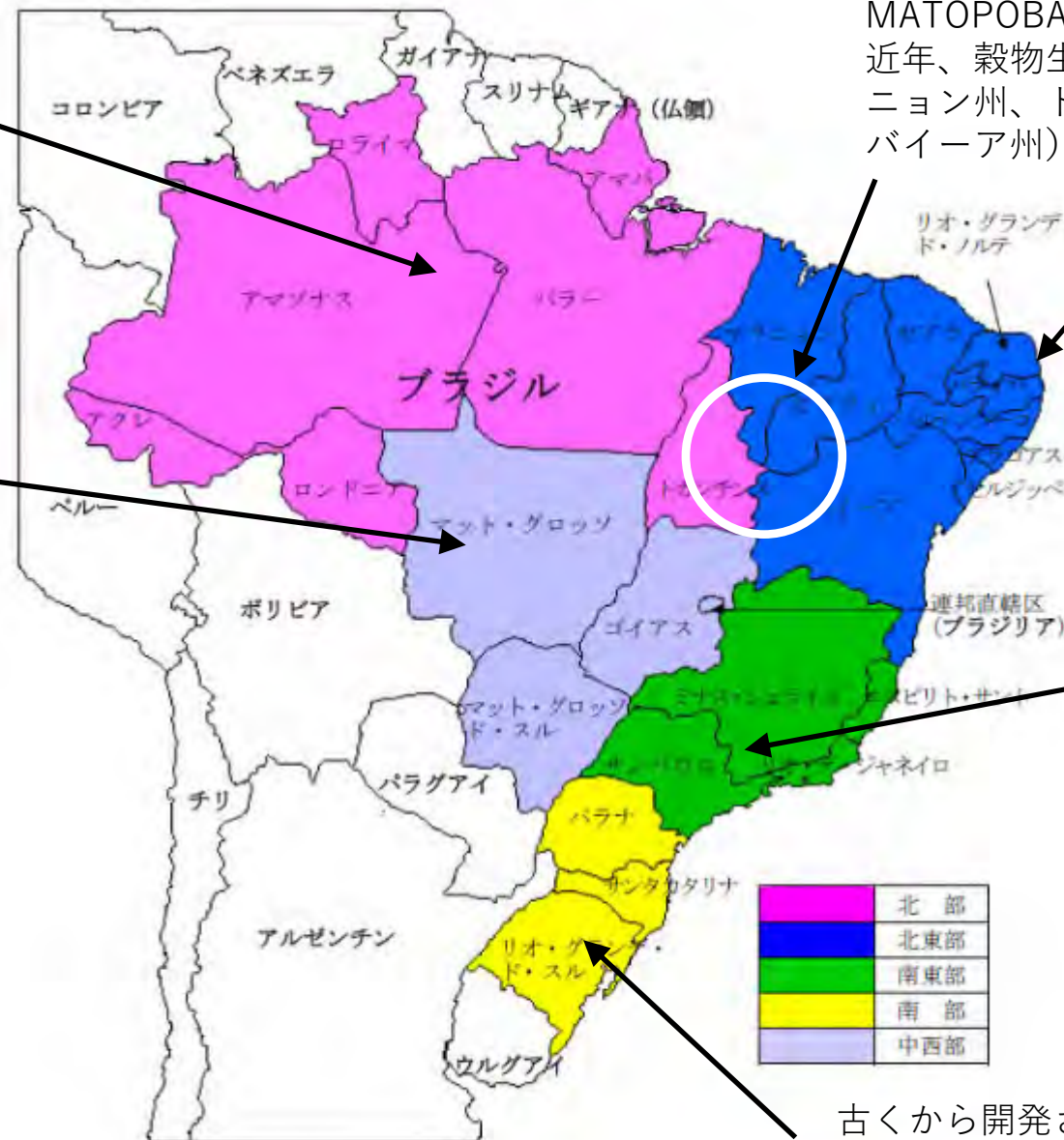
MATOPABA（マトピバ）地域

近年、穀物生産の拡大が著しい4州（マラニョン州、トカンチンス州、ピアウイ州、バイーア州）を指す言葉。

半乾燥地帯が広がり、農業に不適。近年、灌漑による果樹栽培が発達。西部のセラードで大規模農業

古くからコーヒー、サトウキビを栽培。ミナスジェライス州は酪農の中心地。

古くから開発された農業地帯。穀物以外に食肉生産の中心地。

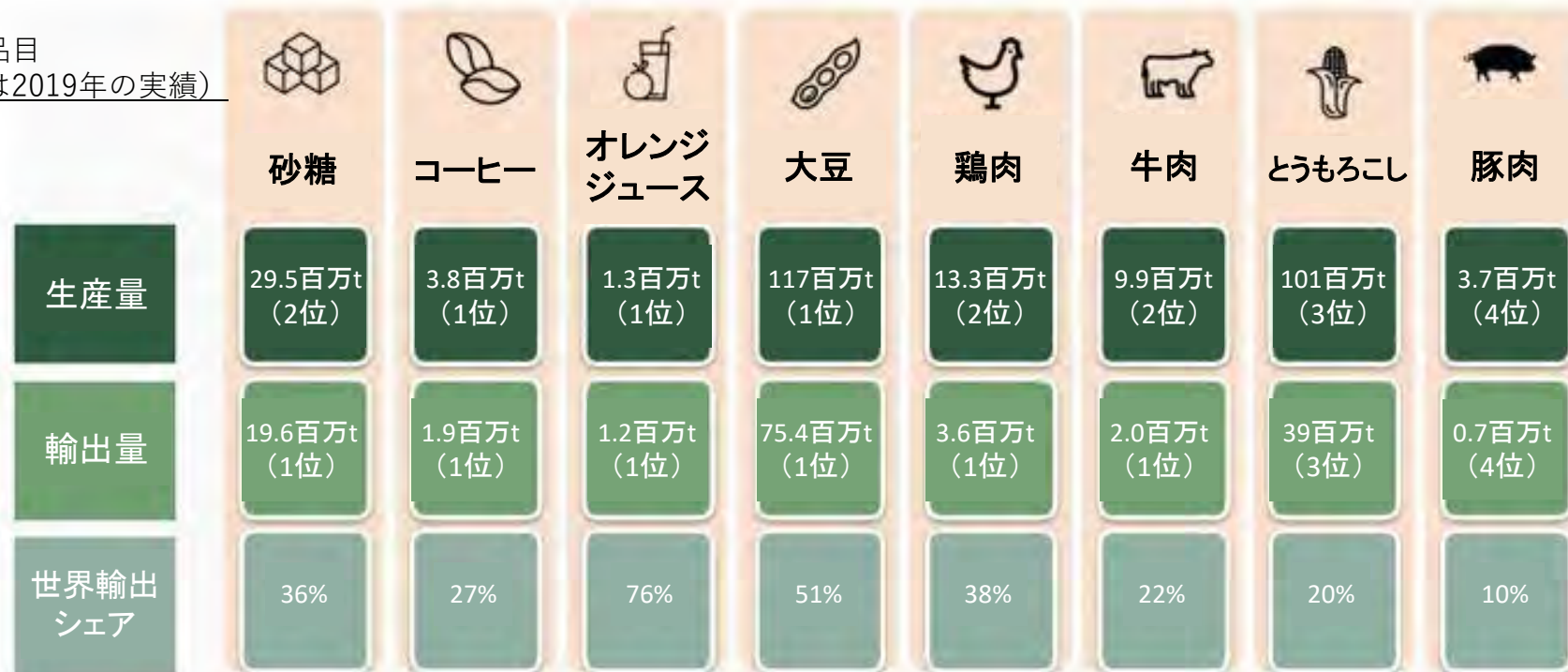


ブラジルの農林水産業概況③

主な農林水産物の生産・貿易動向

- 主要な農林水産物【生産量世界順位／輸出量世界順位】（2020年）（出典：ブラジル農務省、米国農務省）
 砂糖【1位／1位】、コーヒー【1位／1位】、オレンジジュース【1位／1位】
 大豆【1位／1位】、鶏肉【3位／1位】、牛肉【2位／1位】、とうもろこし【3位／2位】
- アグリビジネス輸出額は968億USドル（2019年）であり、ブラジルの総輸出額のおよそ43.2%。
 ※農林水産物輸出額は818億USドル
- アグリビジネス輸入額は137億USドル（2019年）であり、主な輸入品目は小麦、水産物、麦芽等。
 ※農林水産物輸入額は111億USドル

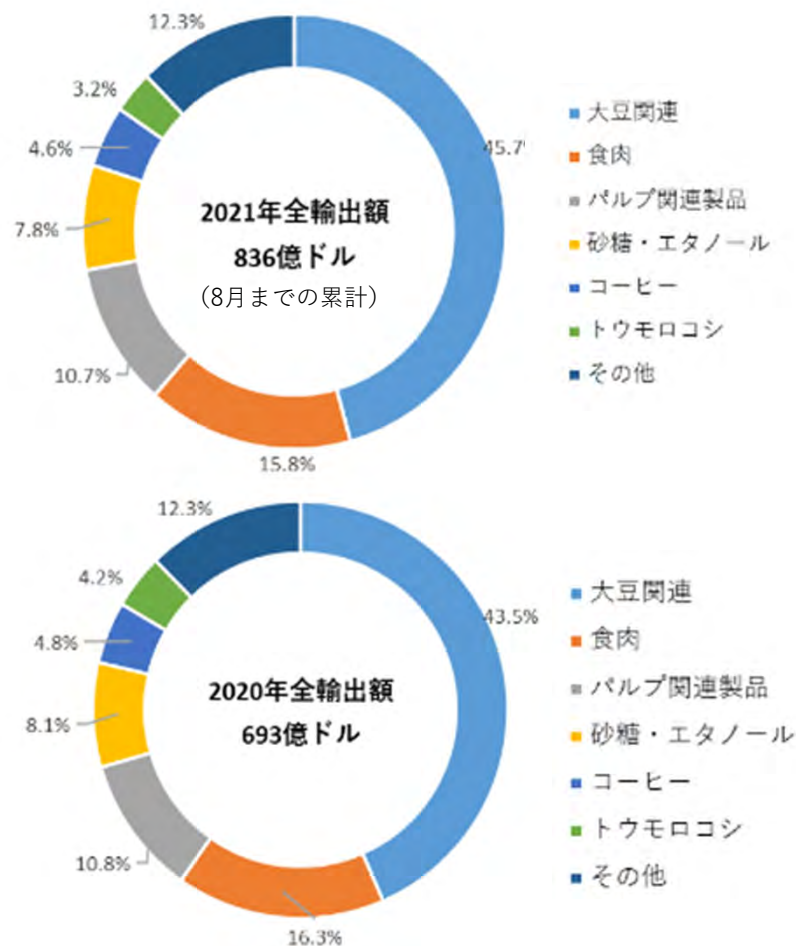
主な輸出品目
 （※図内は2019年の実績）



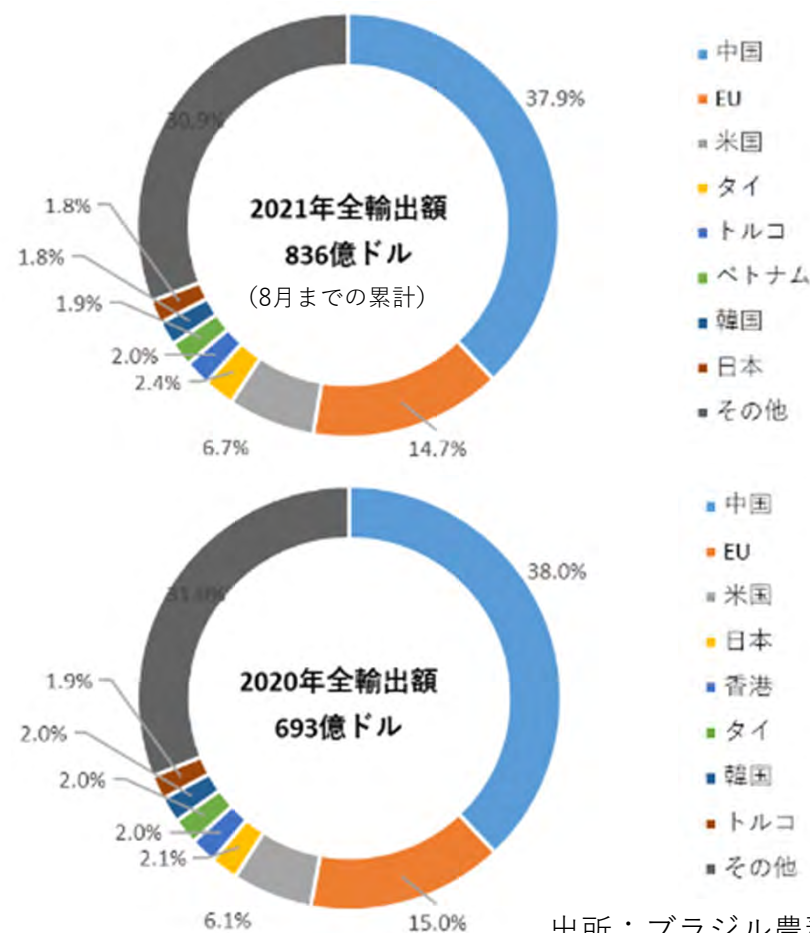
2021年（8月まで）と2020年のブラジル農産物輸出構成（品目・相手国）

- コロナ禍における中国経済の回復が早く、2021年8月までの累計輸出金額でも、既に前年の20%増にあたる836億ドルに達している。
- 主要な輸出相手国は中国・EU・米国で、日本に対する輸出額は大きく変化はないものの、近年は相対的にランキングを落としている状況。

農産物輸出品目構成



農産物輸出相手国構成

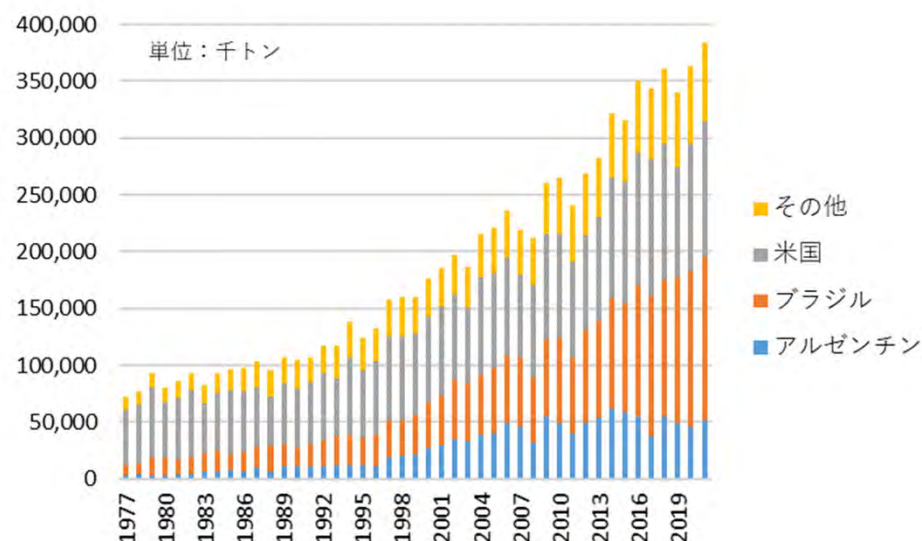


出所：ブラジル農務省（MAPA）

世界の大豆の生産量・輸出量のシェア

- 1990年代まで世界の大豆の約50%を米国が生産していたが、2000年代以降、ブラジルおよびアルゼンチンの2か国で、米国の大豆生産量を凌駕。
- 輸出についても、1990年代まで米国が世界の大豆輸出の過半以上のシェアを有していたが、2000年代以降、ブラジルが世界に対する供給を急拡大。

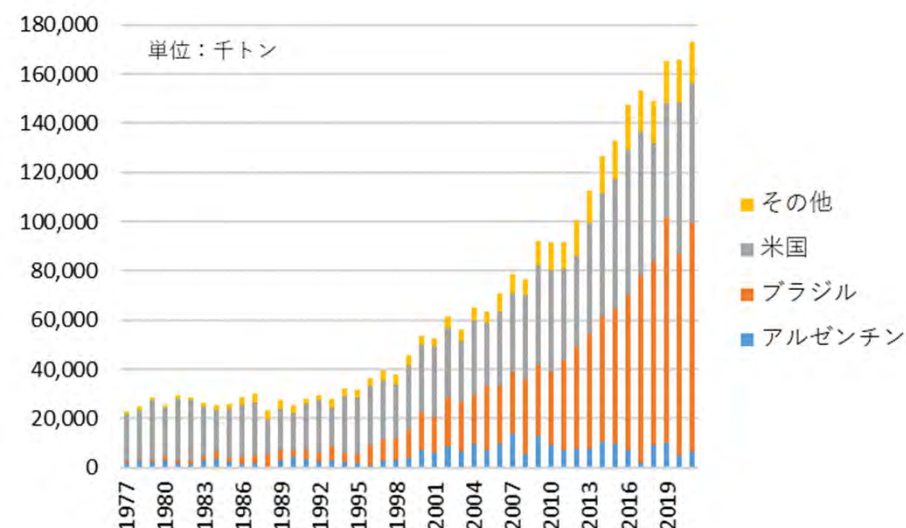
世界の大豆生産量



(生産シェアの推移)

	アルゼンチン	ブラジル	米国	その他
1970年代	4.1%	14.4%	66.1%	15.4%
1980年代	7.2%	18.1%	54.9%	19.8%
1990年代	10.9%	19.6%	47.7%	21.8%
2000年代	18.4%	25.7%	37.8%	18.1%
2010年代	16.5%	32.0%	32.9%	18.6%
2020年代	13.1%	37.6%	31.0%	18.3%

世界の大豆輸出量



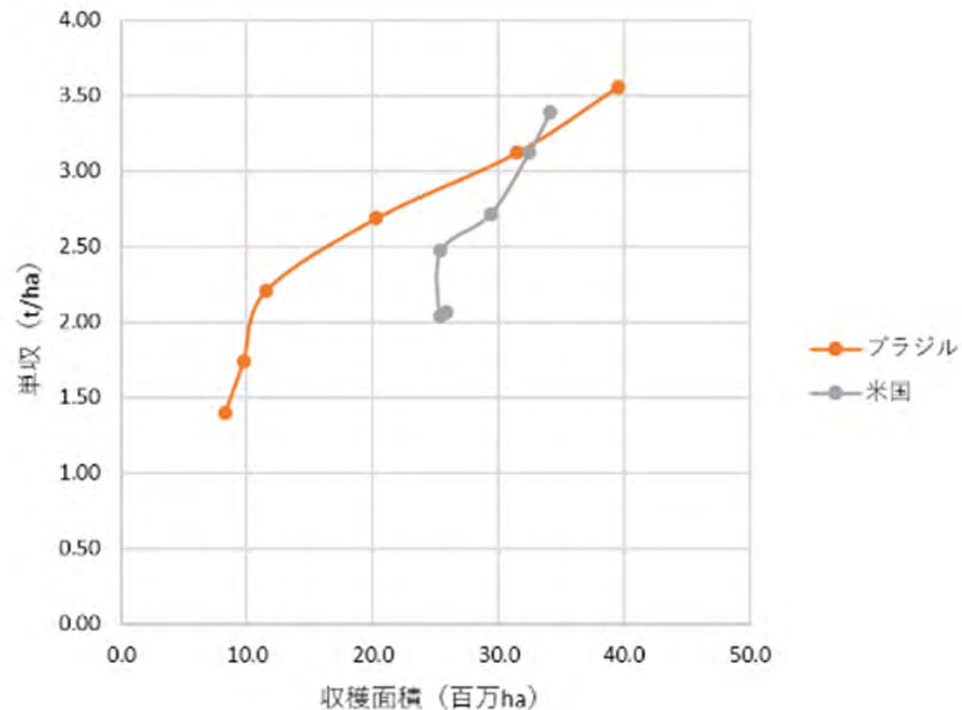
(輸出シェアの推移)

	アルゼンチン	ブラジル	米国	その他
1970年代	9.4%	3.5%	83.5%	3.7%
1980年代	8.0%	9.2%	74.0%	8.7%
1990年代	8.5%	18.0%	63.9%	9.6%
2000年代	13.1%	33.3%	45.0%	8.6%
2010年代	6.4%	44.6%	37.2%	11.9%
2020年代	3.4%	51.6%	34.9%	10.0%

ブラジル・米国の収穫面積および単収推移（大豆・とうもろこし）

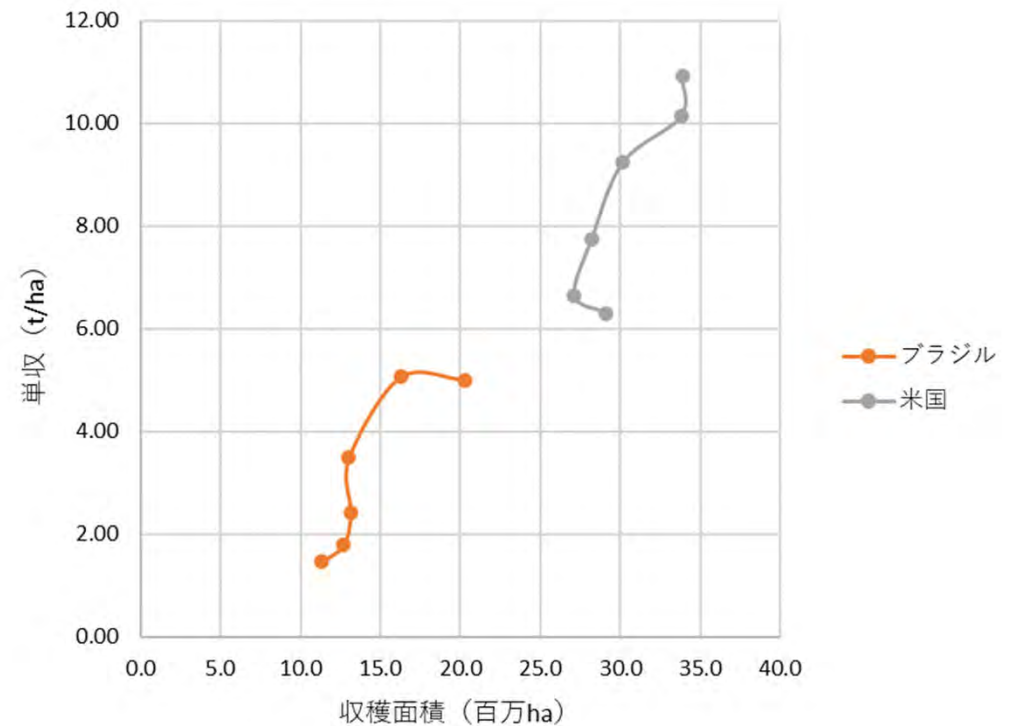
- 大豆について、2000年代に収穫面積および単収が急拡大。現在では、収穫面積および単収のいずれも米国を凌駕する水準を達成。
- とうもろこしについて、米国同様、単収の改善により生産量を拡大。米国との乖離はいまだ大きいが、収穫面積は2010年代以降に拡大。

大豆の単収・収穫量



（注）一番左に位置するプロットから、1970年代、80年代、90年代、00年代、10年代、20年代を示す。

とうもろこしの単収・収穫量

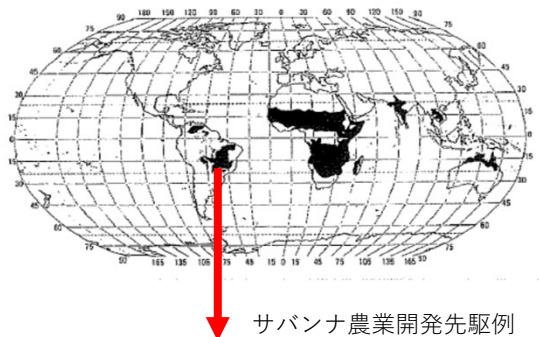


（注）一番左に位置するプロットから、1970年代、80年代、90年代、00年代、10年代、20年代を示す。

(参考) 日・ブラジルセラード農業開発関連事業①：事業概要

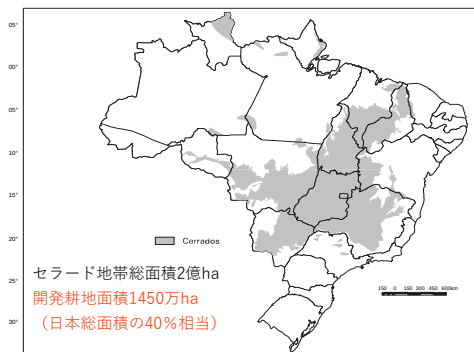
- 日ブラジル協力事業の最優良事例として、ODA事業による「日伯セラード農業開発協力事業(PRODECER)」がある。(※セラード：ブラジル中央部のサバンナ気候地域にみられる植生)
- 同事業は第1期から第3期((1979～2001年)まで行われ、技術協力と資金協力の両側面からの支援により、ブラジル農業の発展に大きく貢献。

世界の熱帯サバンナ分布図 (20億ha)



サバンナ農業開発先駆例

ブラジル・セラード地帯農業開発

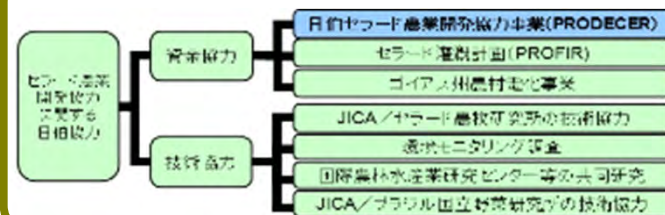


ブラジル・セラード (サバンナ) 地帯の原景観

経緯・目的

- 米国の大豆輸出停止を契機に、昭和49年の田中総理とガイゼル大統領との共同声明及び昭和51年の閣議了解に基づき、日伯両国官民連携の国家プロジェクトとして実施。
- ブラジルにおける食料増産、地域開発の推進、世界の食料供給の増大と両国の経済協力関係の促進等が目的。

セラード農業開発に関する日伯協力



PRODECER事業概要

セラード地域の農業開発(入植者717戸が、農地造成、灌漑整備等を実施し34.5万ha(東京都面積の1.6倍)を開拓)に対して、融資を実施。

- (JICA開発投融資、OECF(現JICA) 海外投融資、民間銀行)
- ①総事業費：約684億円(うちODA279億円)
 - ②事業期間：1979年～2001年
(第1期事業～第3期事業)

【出典：日伯セラード農業開発協力事業合同評価調査総合報告書他】

事業成果

- 作物栽培に不適とされていたセラード地域で①土壌改良、②適正作物の選定と育種③組合育成、④入植地造成、⑤環境保全技術、⑥民間との連携推進等を行い、熱帯サバンナ地域における農業開発の草分け的役割を果たした。

- セラード地帯の穀物増産
生産量が大幅に増大
米国に並ぶ大豆輸出国へ成長
世界の食料需給の安定化に貢献

- セラード地帯の農業生産拡大・多様化により、アグリビジネス(穀物以外にも青果物、畜産、燃料作物など)が進展。

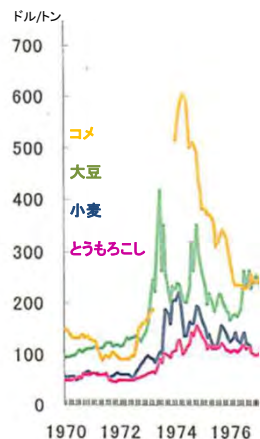
- ブラジルの地域開発及び環境保全にも大きな貢献。



広大な大豆畑



(参考) 日・ブラジルセラード農業開発関連事業②：開発の経緯



1972年：世界同時不作
→穀物価格高騰

1973年：オイルショック
米国の大豆禁輸措置
→穀物調達に対する不安



セラード地帯の潜在性

- ・不毛な乾燥地帯
- ・一方、
 - ①雨期があり雨量が比較的豊富
 - ②土壌の物理性が良好かつ改良可能
 - ③平坦で伐開が容易

1974年 田中総理のブラジル訪問時、日伯セラード農業開発事業の開始に合意
日ブラジル首脳会談共同宣言（田中総理-ガイゼル大統領）
「…これらの事業は…ブラジル国内市場の需要に優先度を与え、かつ生産の一部は輸出向けに計画される。
両国政府はこれらの農業事業に対する適切な支援について検討」

- 22年間の開発により34.5万ha（鳥取県とほぼ同面積）のセラードの農地が開発。
- ブラジルの農地は65%増、生産量は500%、生産性は300%増加し、現在では世界の穀物の40%を生産する世界有数の食料供給国へと変貌。



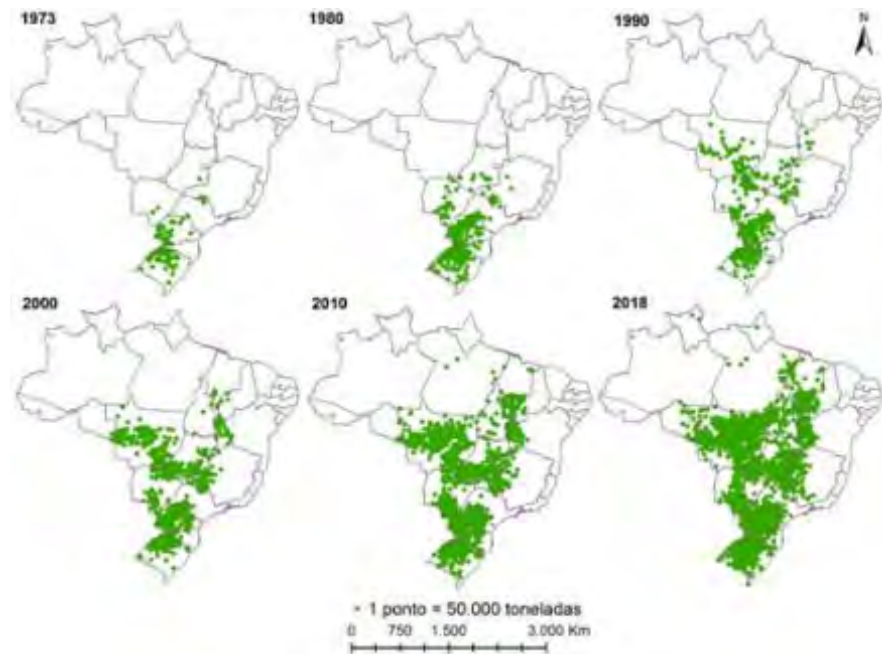
ノーマン・ボローグ（農業学者、ノーベル平和賞受賞）
“20世紀農業科学の最大の偉業の一つ”

英エコノミスト誌 “セラードの軌跡”（2010年8月）

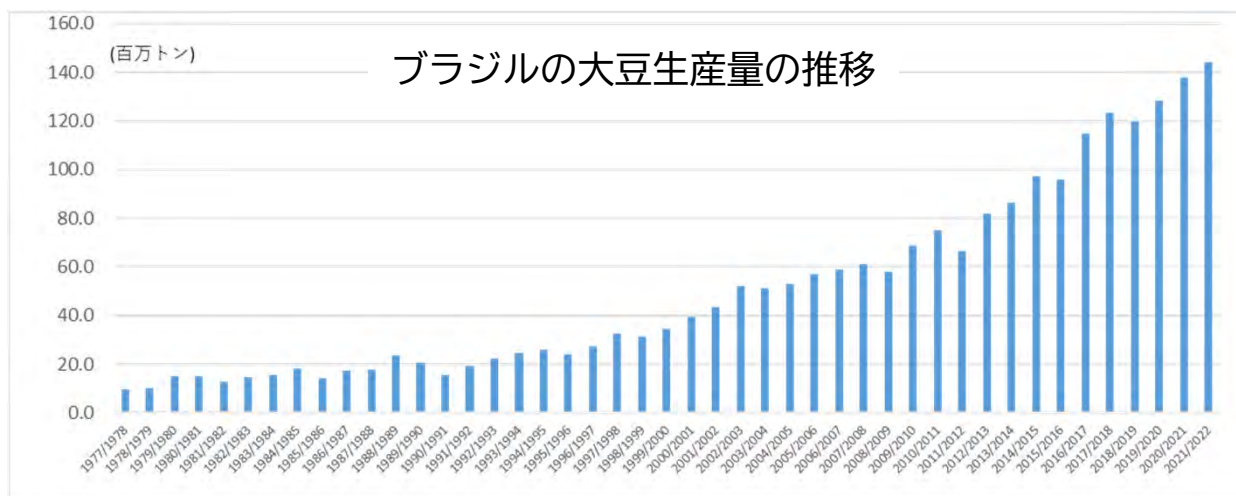
資料：農林水産省、外務省、JICA、The Economist HP、本郷豊「日伯セラード農業開発協力事業の特徴とその評価」

(参考) 日・ブラジルセラード農業開発関連事業③：開発効果

ブラジル大豆生産地の拡大



出所: https://revistaesa.com/ojs/index.php/esa/article/download/esa28-1_10_ruralidades/esa28-1_10_html?inline=1



資料: USDA "PS&D"

セラードの円形耕地（半径400～500m）

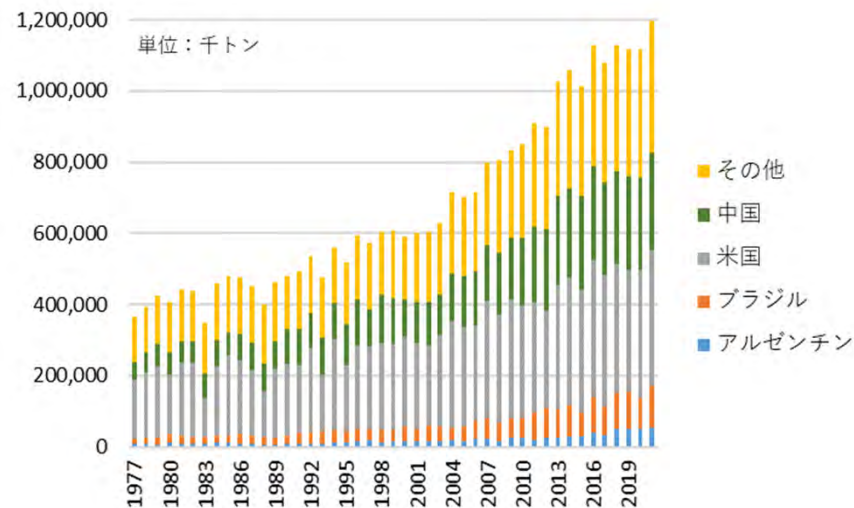


資料: JICA資料、JICAホームページ

世界のとうもろこし生産量・輸出量と各国シェア

- 世界のとうもろこしの50%以上を、米国および中国が生産。そのような中、ブラジルおよびアルゼンチンも生産量を拡大させており2か国で12%程度の占有率。
- 輸出についても、2000年代まで米国が世界におけるとうもろこし輸出の過半以上を占有していたが、2010年代に入り、ブラジルおよびアルゼンチンのシェアが急拡大。

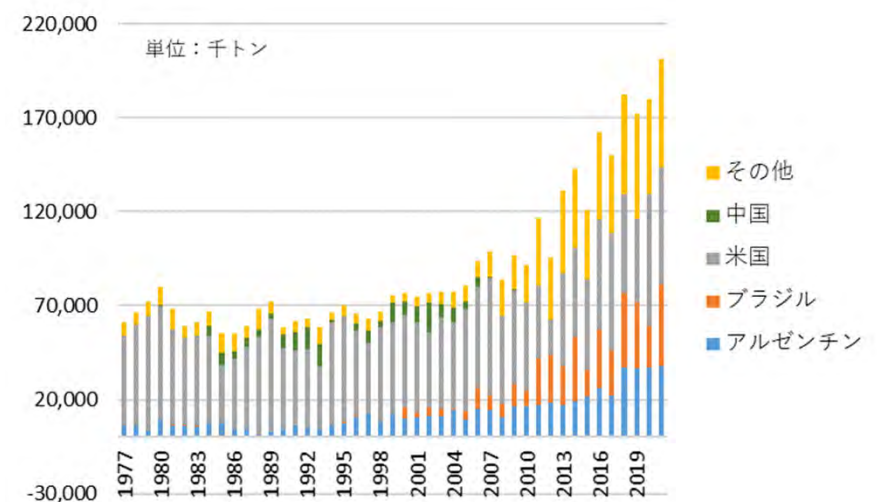
世界のとうもろこし生産量



(生産シェアの推移)

	アルゼンチン	ブラジル	米国	中国	その他
1970年代	2.1%	4.2%	46.6%	14.0%	33.1%
1980年代	2.2%	5.2%	41.6%	15.9%	35.1%
1990年代	2.3%	5.8%	40.3%	20.2%	31.4%
2000年代	2.6%	6.5%	40.0%	19.7%	31.2%
2010年代	3.3%	8.1%	33.5%	23.8%	31.2%
2020年代	4.4%	8.8%	32.0%	23.1%	31.7%

世界のとうもろこし輸出量



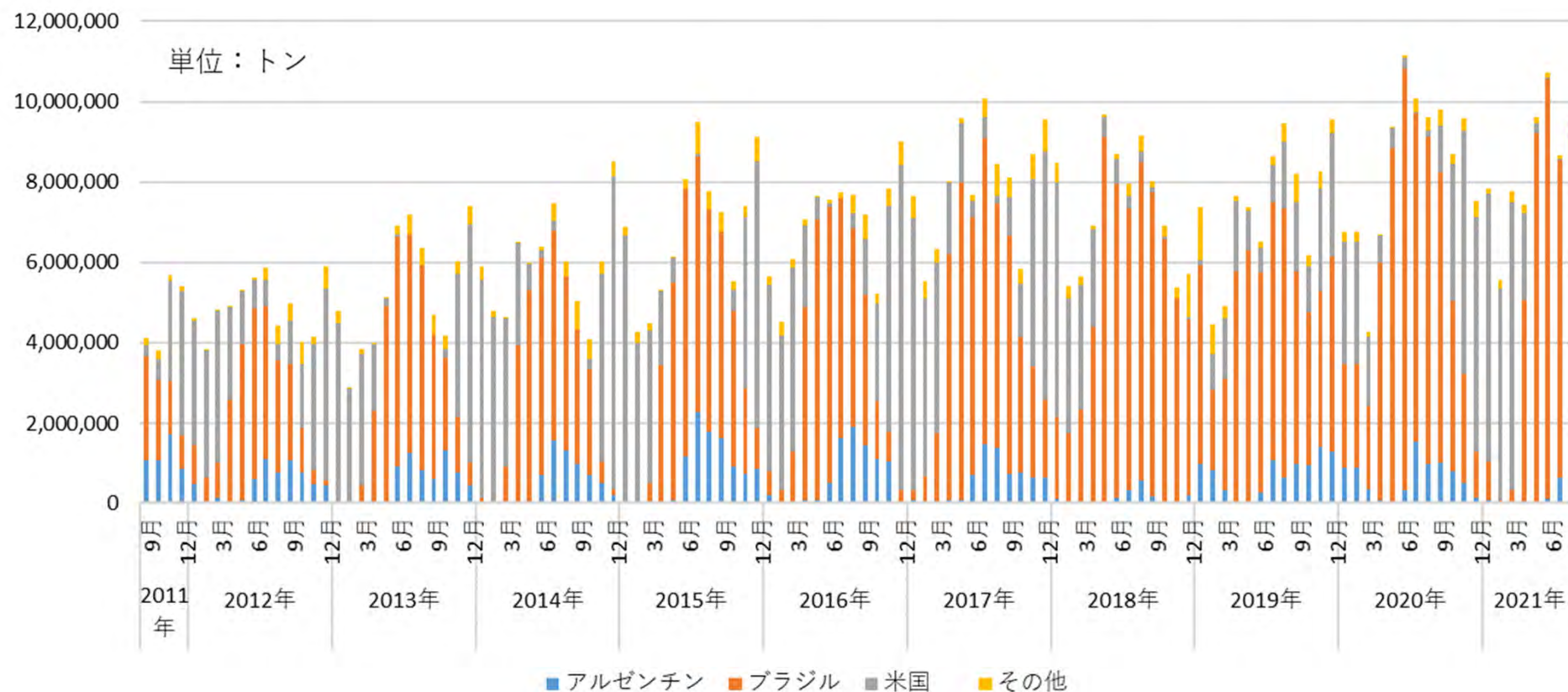
(輸出シェアの推移)

	アルゼンチン	ブラジル	米国	中国	その他
1970年代	7.7%	0.0%	81.6%	0.1%	10.6%
1980年代	8.3%	0.2%	73.8%	4.3%	13.3%
1990年代	11.5%	0.1%	70.0%	10.0%	8.4%
2000年代	14.8%	7.2%	59.7%	6.7%	11.6%
2010年代	17.0%	18.9%	34.2%	0.0%	30.0%
2020年代	19.8%	17.1%	34.8%	0.0%	28.3%

出所：米国農務省（USDA）PSD Onlineおよび「世界の食料統計（<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/>）」

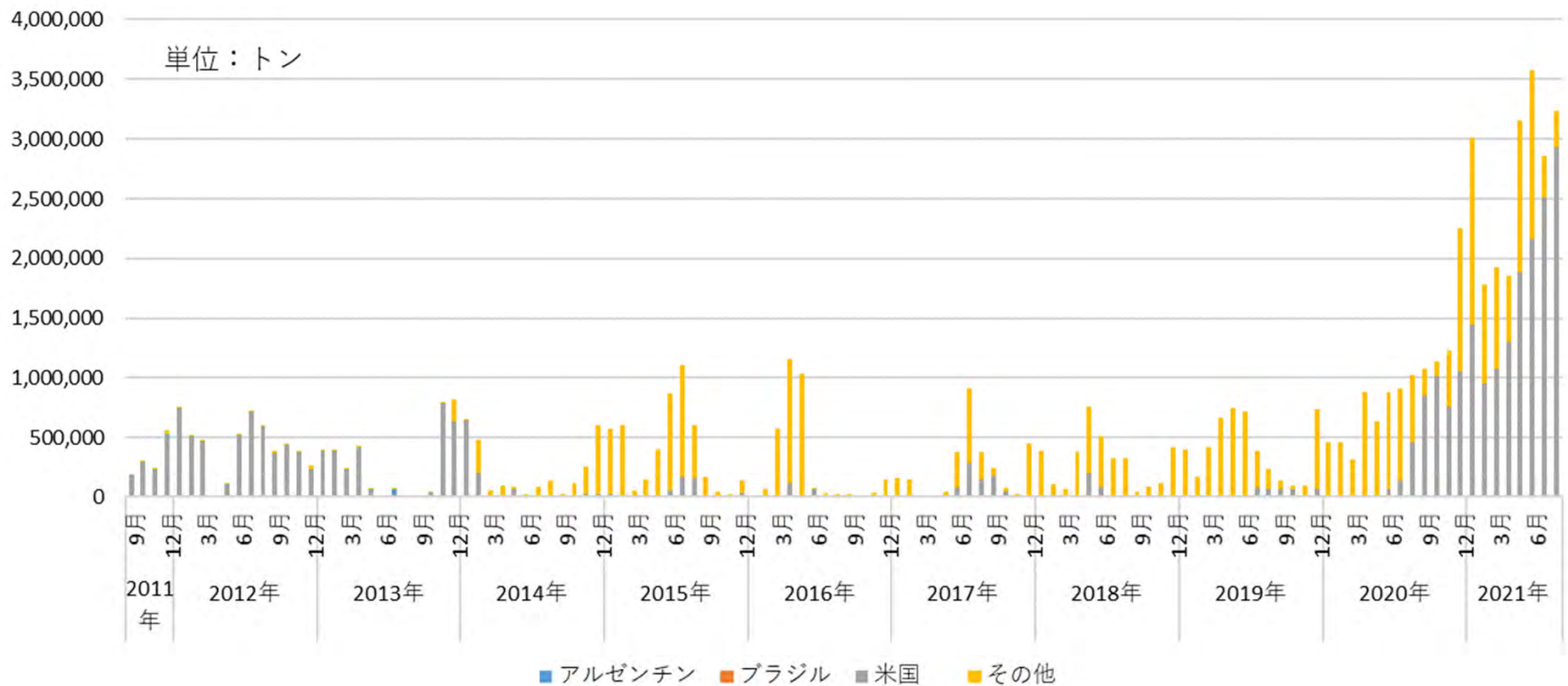
中国の飼料穀物の輸入先①：大豆

- 2018年5月以降に本格化した米中貿易摩擦により、ブラジルからの大豆調達量が急増。
- 中国の大豆に占めるブラジルの割合は、2019年65.1%、2020年64.1%、2021年(8月迄)64.1%。貿易摩擦以前から、2014年44.8%、2015年49.1%、2016年45.7%でブラジルは米国を上回るシェアを有していた。
- ブラジル・米国の不足分をアルゼンチンから調達。



中国の飼料穀物の輸入先②：とうもろこし

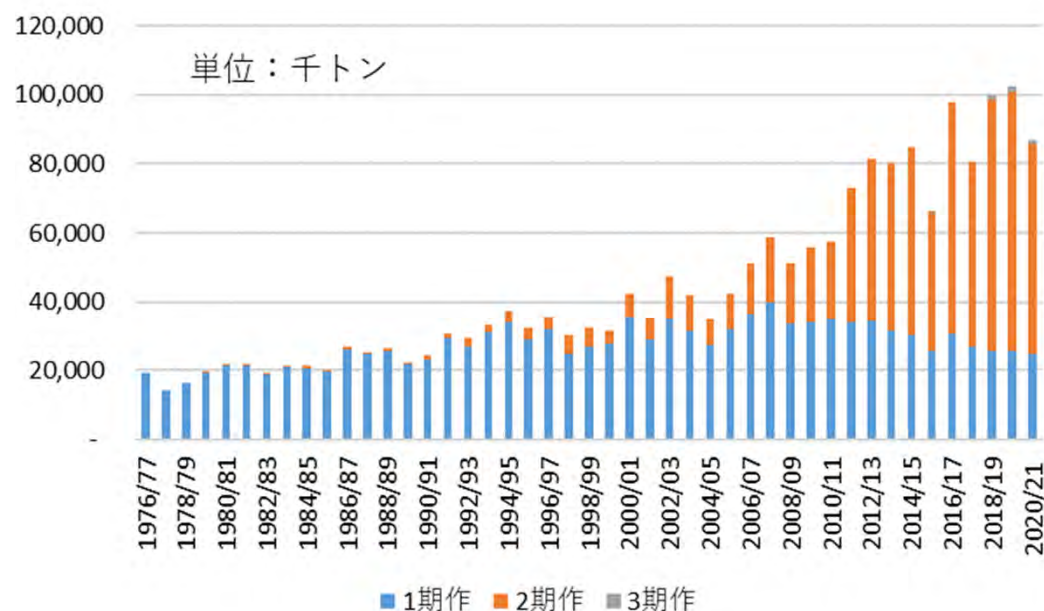
- アルゼンチン・ブラジルからのとうもろこし調達は極々僅少。
- ウクライナからの調達が主流であったが、2020年後半における米中貿易合意を背景に、米国輸入が急増。



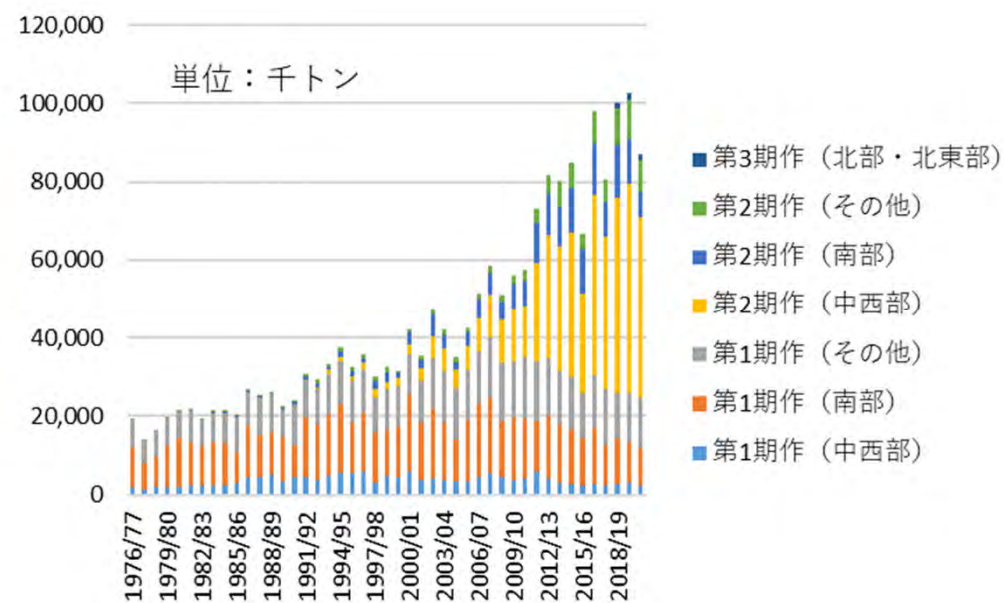
ブラジルのとうもろこし生産①：生産量の推移

- 2010年代に入り、ブラジルにおけるとうもろこし生産は急拡大し、1億トンを前後する水準。
- 特に、中西部における大豆の裏作にあたる二期作による増産が著しく、全生産量の過半を占める。

期別とうもろこし生産量の推移



地域別生産量の推移



ブラジルのとうもろこし生産②：最近の生産・輸出入

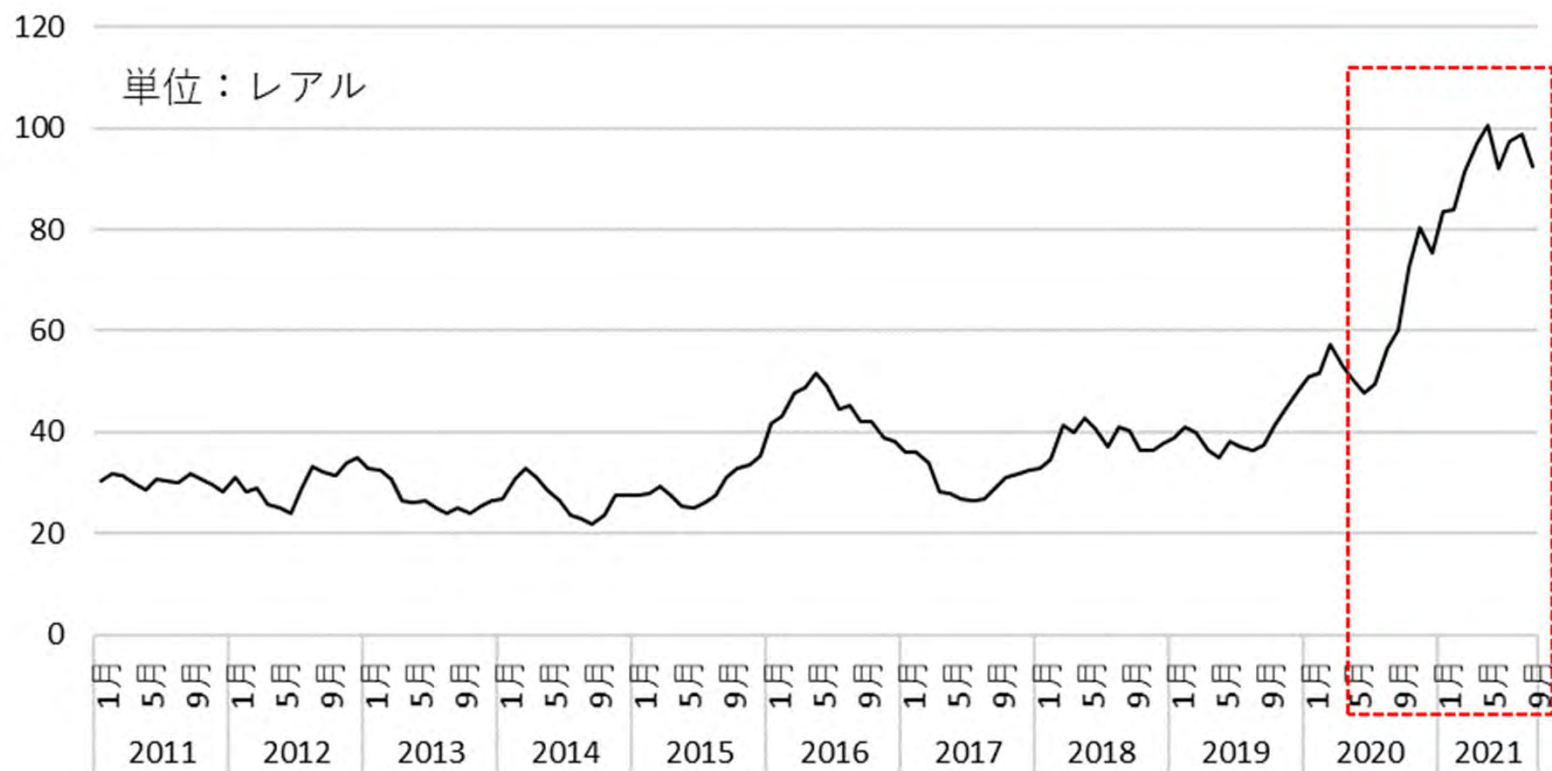
- CONABの2020/21年度予測では、2021年3月時点でブラジル史上最高の収穫量を見込む。
- しかし、天候不順により収穫量の予測を大きく引き下げた。

単位：千トン	期初在庫	生産量	輸入量	全供給量	国内消費量	輸出量	期末在庫
2015/16	10,531.3	66,530.6	3,336.2	80,397.1	56,319.1	18,847.3	5,231.4
2016/17	5,231.4	97,842.8	952.5	104,027.0	57,337.3	30,813.1	15,876.2
2017/18	15,876.2	80,709.5	900.7	99,203.1	59,162.0	23,742.2	14,582.1
2018/19	14,582.1	100,042.7	1,596.4	116,221.2	64,957.8	41,074.0	10,189.4
2019/20	10,189.4	102,515.0	1,453.4	114,157.8	68,662.5	34,892.9	10,602.4
2020/21(21年3月予測)	10,602.4	108,068.7	1,000.0	119,671.1	72,149.9	35,000.0	11,757.1
2020/21(21年10月予測)	10,602.4	86,996.0	2,300.0	99,898.4	70,933.5	22,000.0	6,964.9
2021/22(21年10月予測)	6,964.9	116,313.0	900.0	124,177.9	73,676.9	39,000.0	11,501.0

(注) ブラジルの大豆年度は、2020/21年度は20年10月から21年9月であるのに対して、とうもろこしは21年3月から22年2月を示す。
 (参考：農林水産省食料安全保障月報 https://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/monthly/attach/pdf/r3index-21.pdf)

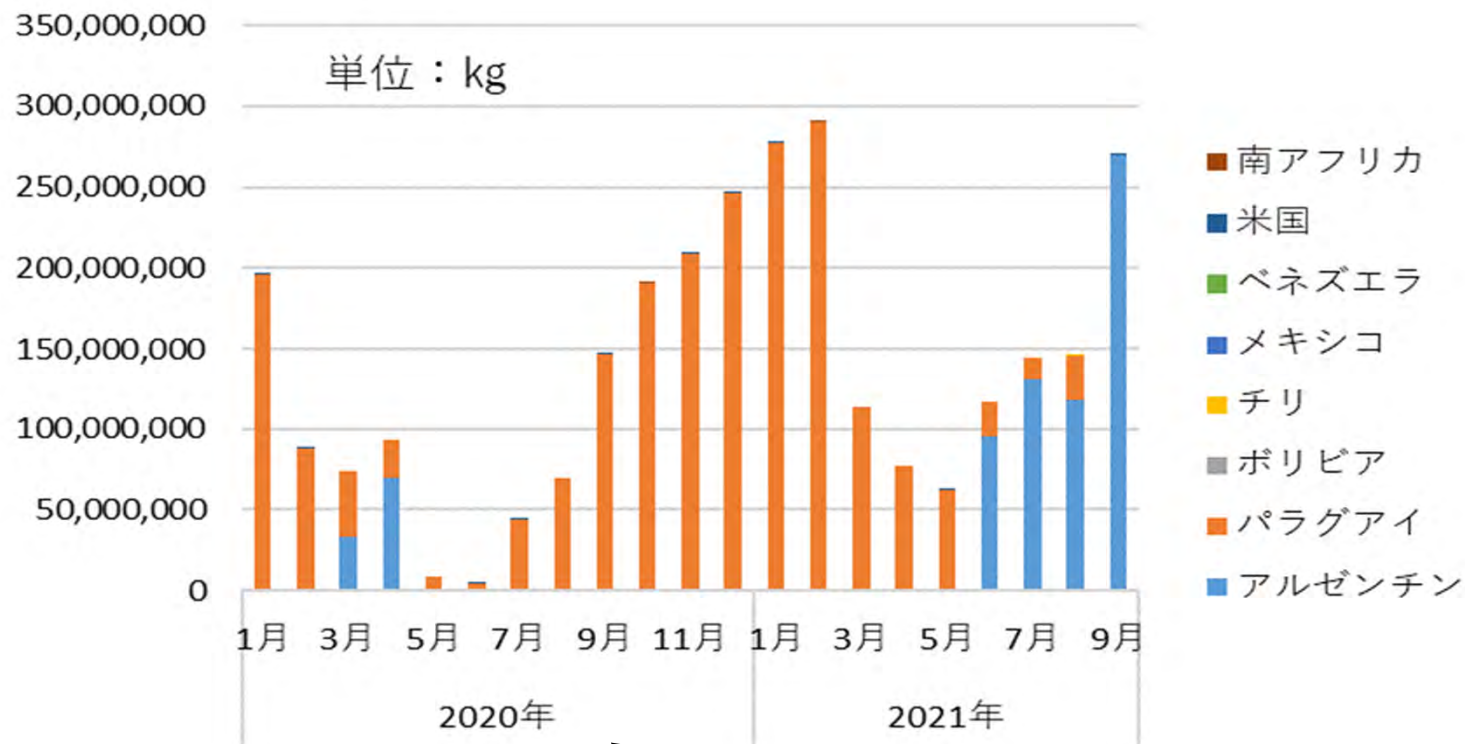
ブラジルのとうもろこし生産③：国内価格動向

- シカゴ相場の上昇のほかに、レアル安であったことから、ブラジルのとうもろこし輸出が旺盛であった。
- 一方、ラニーニャの影響による天候不順により収穫量の見込みが弱くなったこともあり、更に国内価格が上昇。



ブラジルのとうもろこし生産④：国内確保対応策

- 畜産業が盛んなブラジル南部に近いパラグアイ・アルゼンチンからの調達が大部分を占める。
- 2020年からの国内価格高騰に対応し、関税減免などの対策を取りとうもろこしを積極的に輸入。



2020年10月
ブラジル貿易審議会は、南米南部共同市場（メルコスール）域外からのとうもろこしに対する輸入関税（8%）を暫定的にゼロとすることを決定（2021年末まで継続）。

2021年6月
国家バイオ安全技術委員会は、米国産遺伝子組換えとうもろこしの輸入を承認。

2021年9月
連邦政府は、とうもろこし輸入に係る法人の売上高に応じた社会保険負担金の減免措置を決定（2021年末まで）

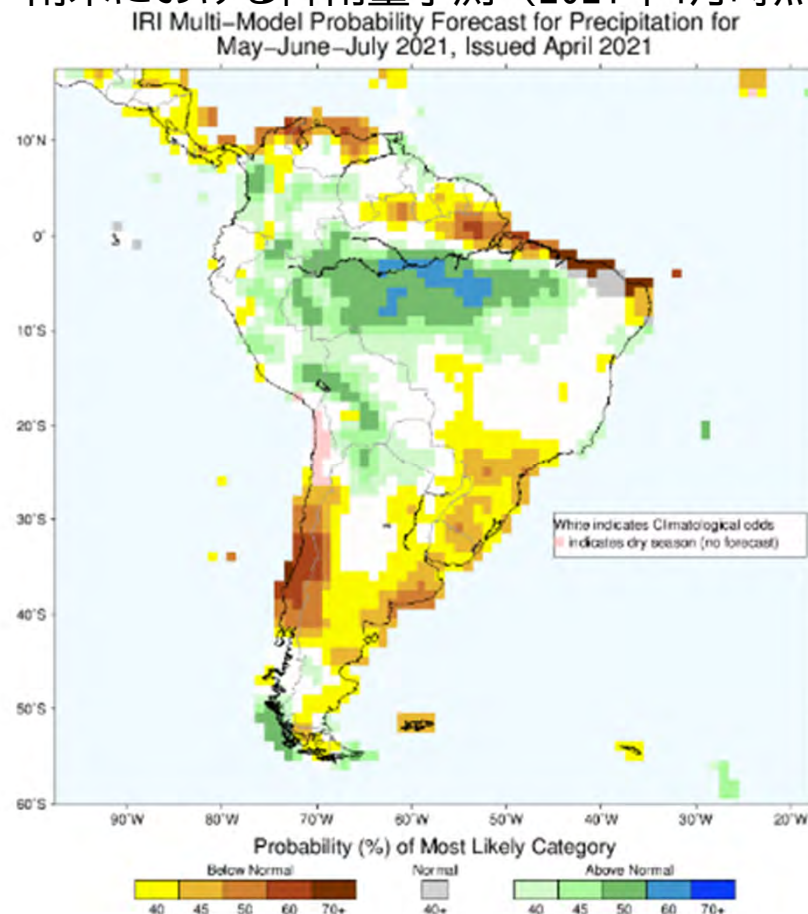
参考：<https://www.gov.br/pt-br/noticias/financas-impostos-e-gestao-publica/2021/09/governo-suspende-pis-cofins-na-importacao-de-milho-para-desonerar-custo-do-grao-no-mercado-interno>

出所：ブラジル農務省（MAPA）

ブラジル・アルゼンチン農業への気候変動の影響

- 近年、ラ・ニーニャ現象により、降雨量不足という問題に直面しており、ブラジル南部およびアルゼンチン北部における穀物生産に影響。
- また、アルゼンチンにおけるパラナ川水位の低下により、産地から港までの穀物輸送に影響。
(水位が低下すると船への穀物積載量を減らす必要があり、減量した一部をトラック輸送に振り替え、大西洋岸の港(ブエノスアイレス州南部)へ直接移送するため物流コストが増加。)
- 水力発電に依拠するブラジルでは、降雨量不足が農業のみならず国全体に影響をもたらしている。

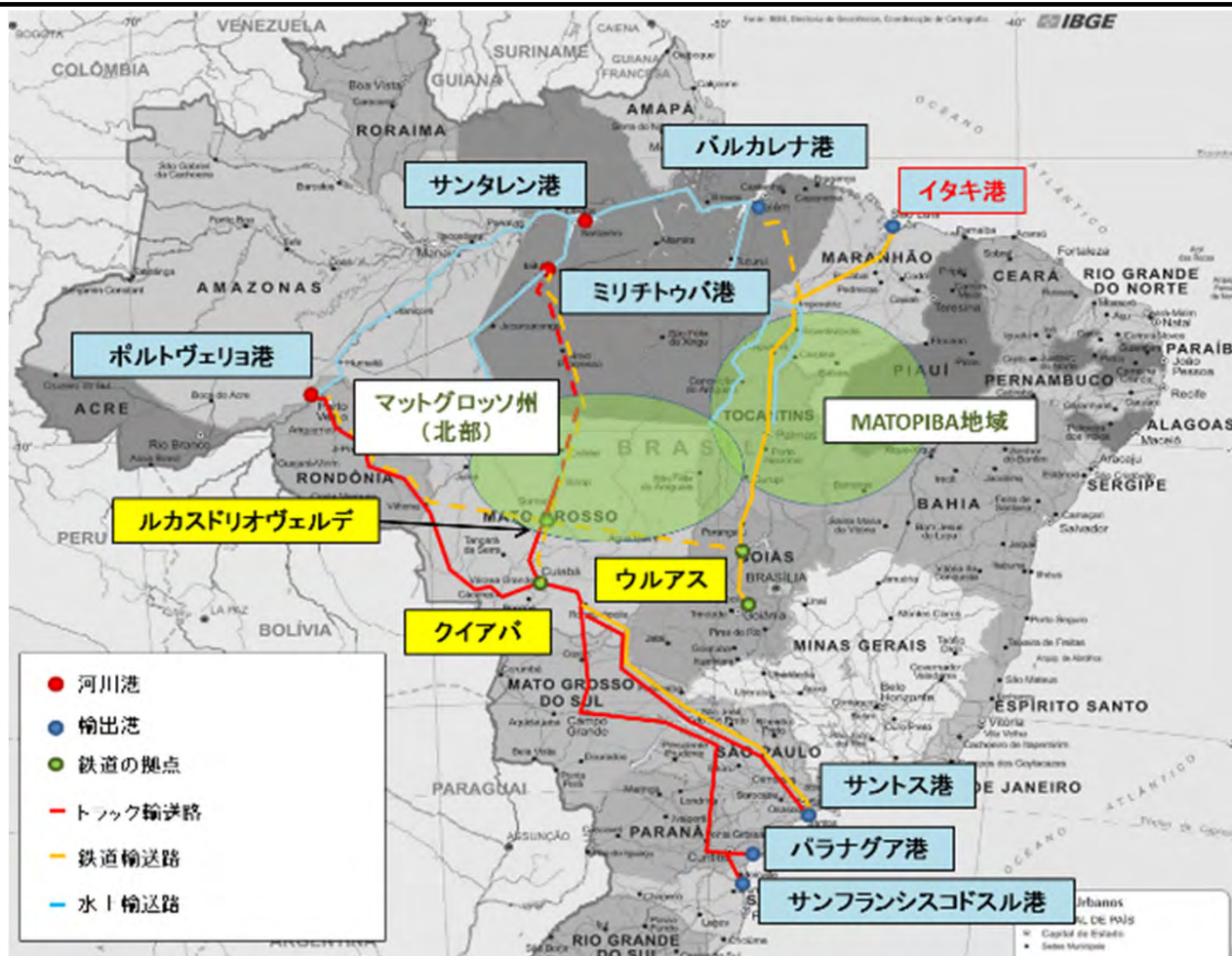
南米における降雨量予測 (2021年4月時点)



出所：コロンビア大学気候と社会の国際研究所 (IRI) <https://iri.columbia.edu/our-expertise/climate/forecasts/seasonal-climate-forecasts/>

ブラジル農業の課題：国内輸送インフラ整備①

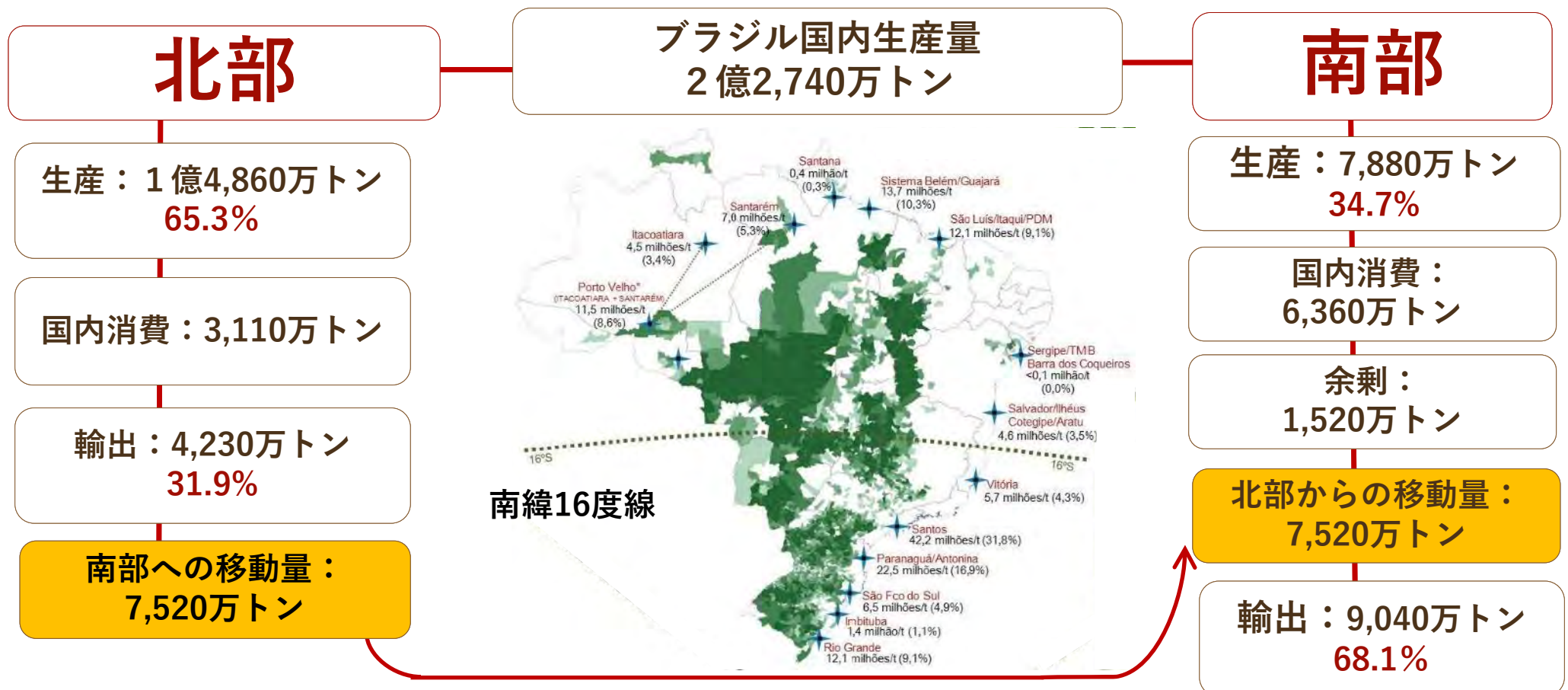
- ブラジルの農業開発は南部から内陸へ進み、今後開発が進むマツ・グロッソ州北部やマトピバ地域は南部の主要輸出港から遠い。
- 物流インフラの整備が追いついておらず、物流の停滞や輸送費の高騰を招き、優良農地となり得る土地はあるにも関わらず農業開発が進まない一因となっている。
- そのような中、2020年に国道163号線の舗装が完工し、2021年には南北鉄道の一部路線の運行が開始するなど、インフラ状況も徐々に改善している。



ブラジル農業の課題：国内輸送インフラ整備②

- ブラジルを南緯16度線で南北に分けると、大豆及びとうもろこしの生産量は北部が南部の約2倍となっている。
- 一方、流通拠点・消費地域・輸出港が南部に集中しているため、北部で生産された農産物の約半分が、高い輸送料を払って南部に輸送された上で消費、輸出されている。

北部・南部での大豆・とうもろこしの需給状況（2020年）



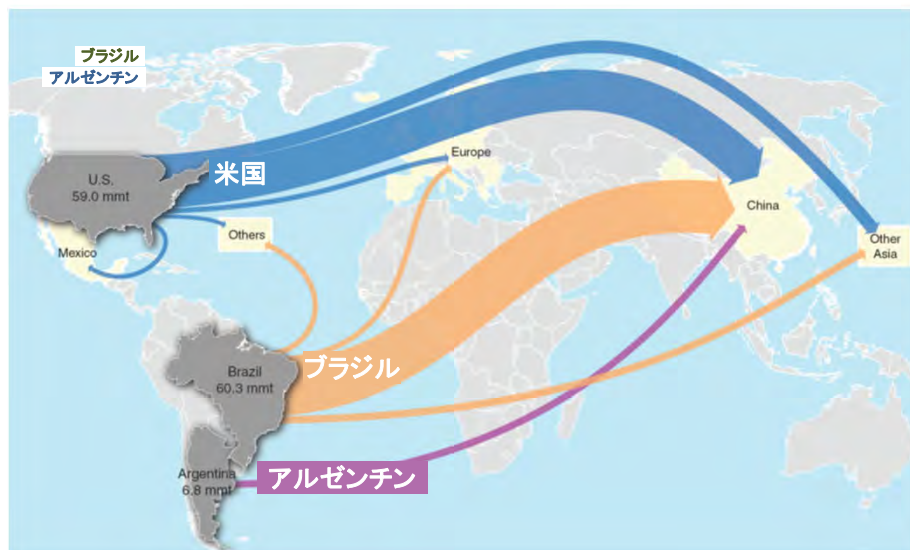
ブラジル農業の課題：国内輸送インフラ整備③

- ブラジルの穀物輸出においては輸送費の増大が国際競争力を落とす要因となっている。
- 特にブラジルは、穀物の大規模輸送でコスト抑制が可能な鉄道・船の輸送インフラが不十分であり、殆どの輸送を非効率なトラックに依存しており、米国とのコスト競争力で劣後している。

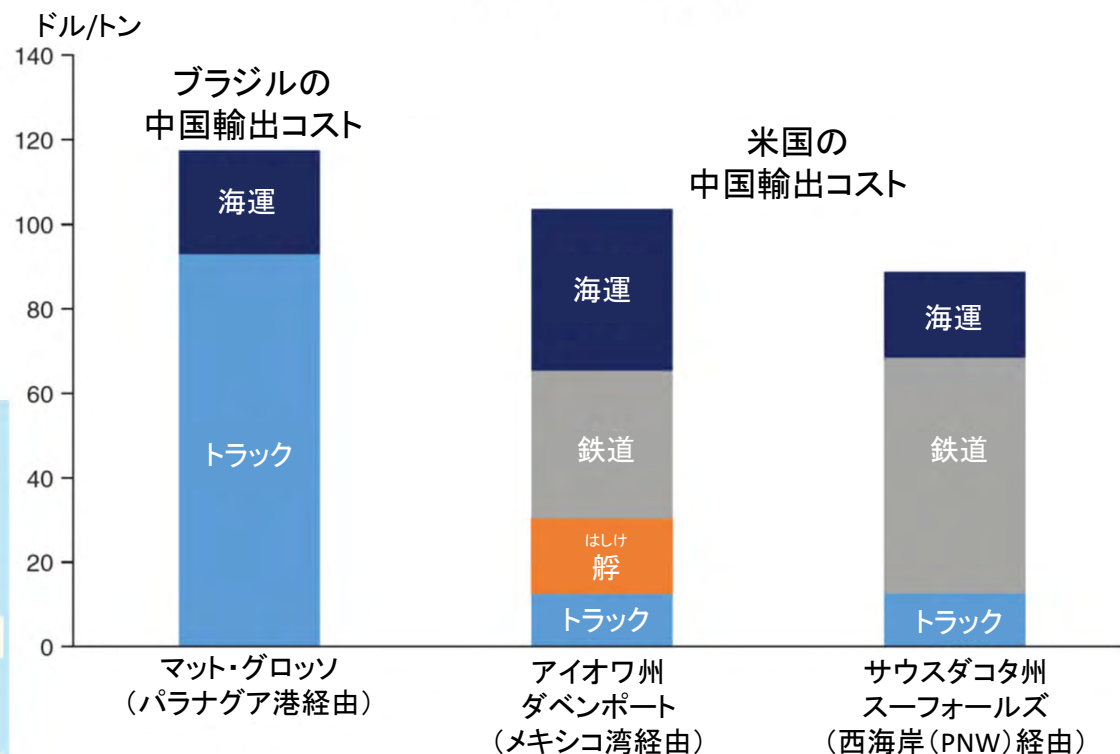
米国・ブラジル・アルゼンチンの
穀物輸出海路



米国・ブラジル・アルゼンチンの
大豆輸出先比較(2016)



中国へ大豆輸出コスト
(ブラジル・米国)

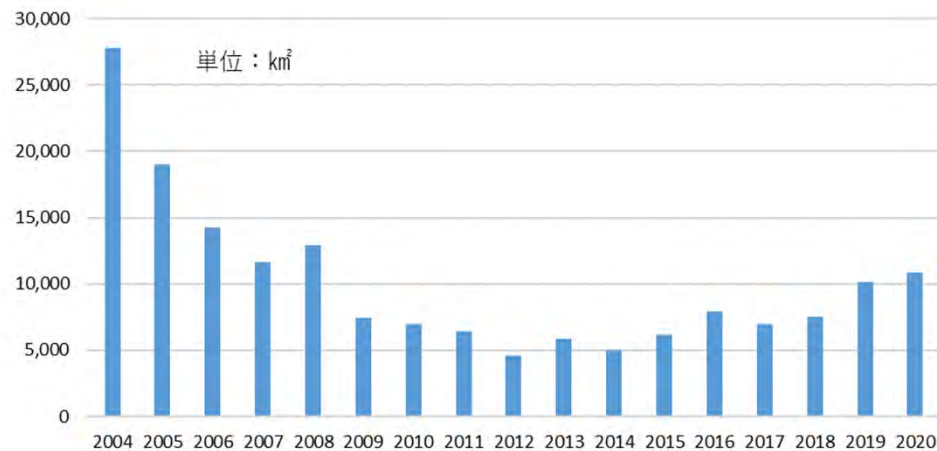


資料：USDA "Interdependence of China, United States, and Brazil in Soybean Trade"
 "The Impact of Brazil's Infrastructure and Transportation Costs on U.S. Soybean Market Share: An Updated Analysis from 1992-2019"

ブラジル農業の課題：環境問題①

- 2019年以降、法定アマゾンにおける森林伐採の面積が拡大していることに、国際社会からも批判が急増。
- ブラジル植物油加工業会（Abiove）およびブラジル穀物輸出協会（ANEC）が事務局となり、2006年からアマゾン生態系における森林伐採を伴った大豆畑で生産された大豆を取り扱わないとする「大豆モラトリアム」を 推進。

法定アマゾンにおける森林伐採面積推移



アマゾン生態系における大豆生産面積（2019年）

状況	面積 (百万ヘクタール)	比率
原生林	304.4	72.8%
伐採地	69.2	16.5%
牧草地・植林地	63.8	15.3%
大豆畑（大豆モラトリアム遵守）	5.3	1.3%
大豆畑（大豆モラトリアム非遵守）	0.1	0.0%
その他	44.7	10.7%
全体	418.3	100.0%

出所：ブラジル国立宇宙研究所（INPE）およびブラジル植物油工業会（Abiove）

ブラジル農業の課題：環境問題②

- 2012年5月25日に法令第12,651号“Novo Código Florestal(新森林法)”制定。原生林・森林資源の保護および経済発展の両立を目指す。また、農地環境登録(CAR: Cadastro Ambiental Rural)の義務化。
- 環境正常化プログラム(Programa de Regularização Ambiental)により、2008年7月以前に永久保護区域(APP)などで開発された地域における森林の復元に取り組む。
- 環境保全に貢献している農家に対して、税制優遇等の経済的インセンティブあり。

法定アマゾンとアマゾン生態系

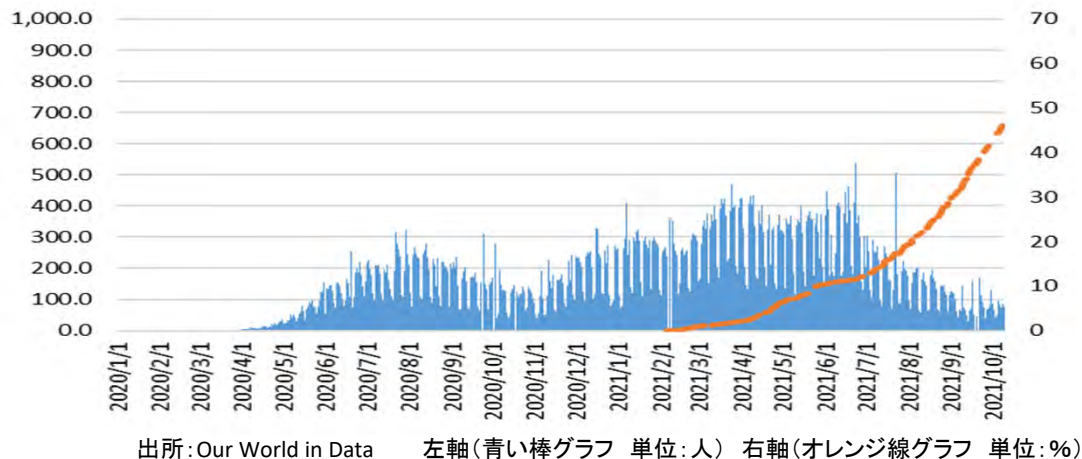


出所：世界自然保護基金（WWF）およびブラジル農牧研究公社（EMBRAPA）

ブラジルのコロナ感染拡大と農業への影響

- Covid-19感染防止のための行動制限により、ブラジルのマクロ経済は大きく冷え込むが、農業生産・流通部門全体における影響は軽微。
- 一方、コメの国内価格高騰や物流の停滞などの影響はあり。

〔ブラジルの100万人あたりの新規感染者数・ワクチン完全接種率〕



＜アグリビジネスへの影響＞

- ✓ 現金給付を背景として、主食であるコメの購入が集中し、国内価格が高騰。物価安定化のために、コメの輸入を強化。
- ✓ 中国の旺盛な大豆需要のほか、インドやタイの砂糖生産量低下による輸出量の増加などもあり、主要輸出港であるサントス港の作業が停滞するという事態もあり。
一方、国内のガソリン利用の低下により、混合されているエタノール需要が弱まる。
- ✓ 2020年6月に、中国政府が、ブラジルの複数の食肉処理工場を指定して、輸入認可の一時停止を実施。

2020年2月	初めての感染者が確認→感染者数が急増。
2020年3月	ロックダウンの方針を決定。
2020年4月	Covid-19対策として融資枠設定や非正規雇用者や零細企業に対する緊急支援策として、月額600レアルの現金給付等の約2,000億レアルの経済的対策を講じ、5月に戦時予算 (Orçamento de guerra) として議会承認。
2020年3月	・ エッセンシャルワーカーとして、医療従事者や警察組織のほか、農業に係る生産や物流に従事する人々を認定し、ロックダウンの対象外とした。 ・ 南米各国の農務大臣が、南米大陸の農産物に対する輸送網の維持を確認。

参考：林瑞穂（2021）「ブラジル」

『主要国農業政策・貿易政策プロ研資料』農林水産政策研究所

ブラジル農業の今後の注目点

- Covid-19感染拡大に伴う行動規制により、マクロ経済は大きく冷え込むものの、農業部門に対する影響は軽微。しかし、ラ・ニーニャによる天候不順は、大豆・とうもろこしの生産に大きく影響を与える。
- 食料の国内供給に対する懸念から生じる価格高騰という問題に対して、輸入を拡大することで調整を行う。
- 今後、コスト抑制を可能にする国内輸送インフラの整備や、森林資源の保全と経済発展の両立を目指す、環境問題への対応が着目すべきポイント。
- そのほか、来年予定されている大統領選の行方は要注視。

アルゼンチンの農林水産業概況

- 人口は4,538万人。パンパと呼ばれる草原地域では、穀物及び油糧種子の不耕起栽培が行われている。
- 主要農産物は、大豆、とうもろこし、小麦、大麦、こうりゃん(グレインソルガム)、マテ茶、牛肉等。我が国への輸出ではエビ等水産物が多い。



・主要農産物の生産状況

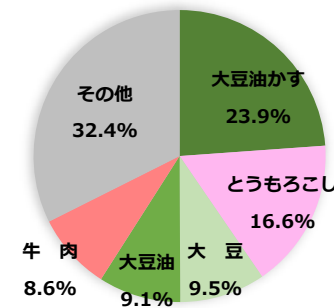
(単位：万トン)

	2015	2016	2017	2018	2019
とうもろこし	3,382	3,979	4,948	4,346	5,686
大豆	6,145	5,880	5,497	3,779	5,526
小麦	1,393	1,131	1,840	1,852	1,946
さとうきび	1,787	1,844	1,870	1,846	1,765
大麦	290	494	374	506	512
こうりゃん	310	303	253	156	160
ひまわりの種	316	300	355	354	383
ぶどう	242	176	197	257	252
じゃがいも	233	243	245	219	221
レモン・ライム	156	168	168	199	190
マテ茶	29	28	29	30	30
生乳(牛)	1,206	1,029	1,010	1,053	1,034
牛肉	273	264	284	307	314
鶏肉	209	206	212	207	220
鶏卵	77	80	81	83	83
豚肉	48	52	57	62	63

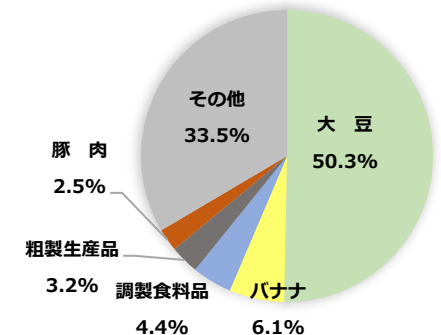
資料：FAO統計

・農林水産物貿易の概況

<輸出>



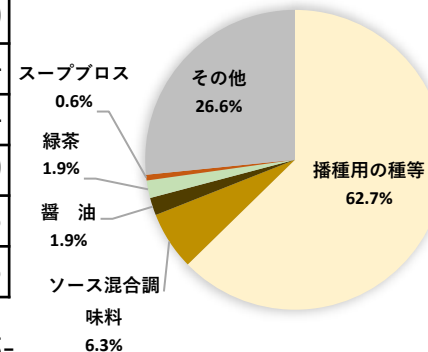
<輸入>



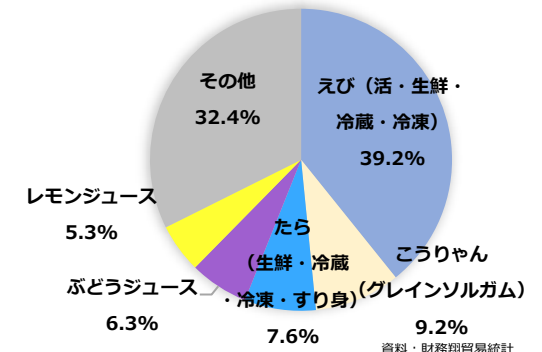
資料：FAO統計 注：林・水産物を除く

・我が国との農林水産物貿易

<輸出> 日本→アルゼンチン



<輸入> アルゼンチン→日本

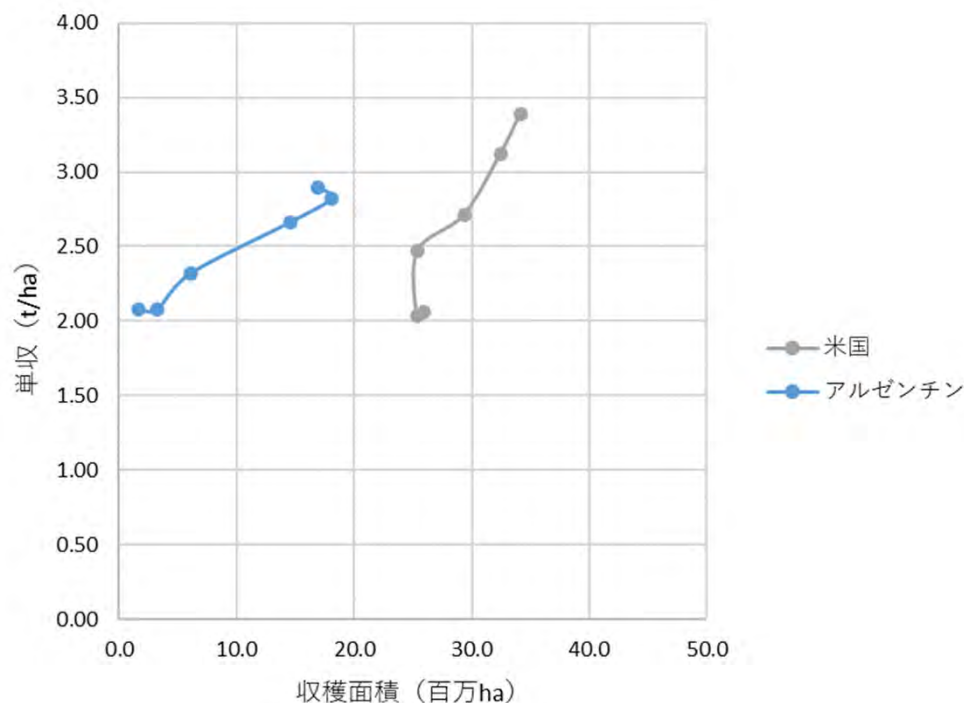


資料：財務省貿易統計

アルゼンチン・米国の収穫面積および単収推移（大豆・とうもろこし）

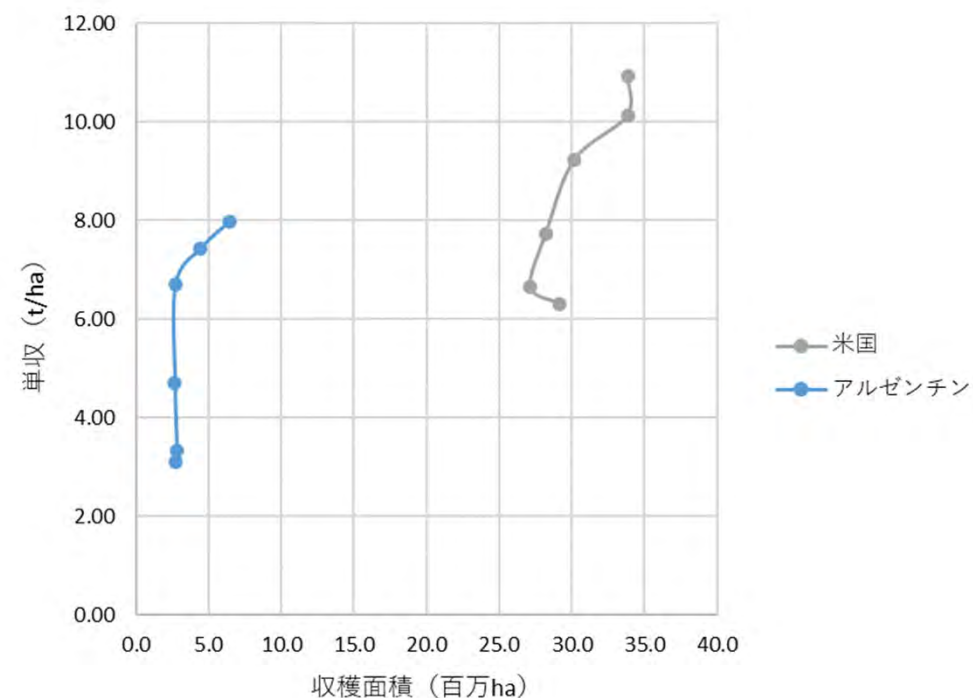
- 大豆については、1980年代以降、収穫面積および単収が急拡大。
- とうもろこしについては、米国同様、単収の改善により生産量が拡大。
米国との乖離はいまだ大きい、アルゼンチンにおける収穫面積は2000年代以降に拡大。

大豆の単収・収穫量



（注）一番左に位置するプロットから、1970年代、80年代、90年代、00年代、10年代、20年代を示す。

とうもろこしの単収・収穫量

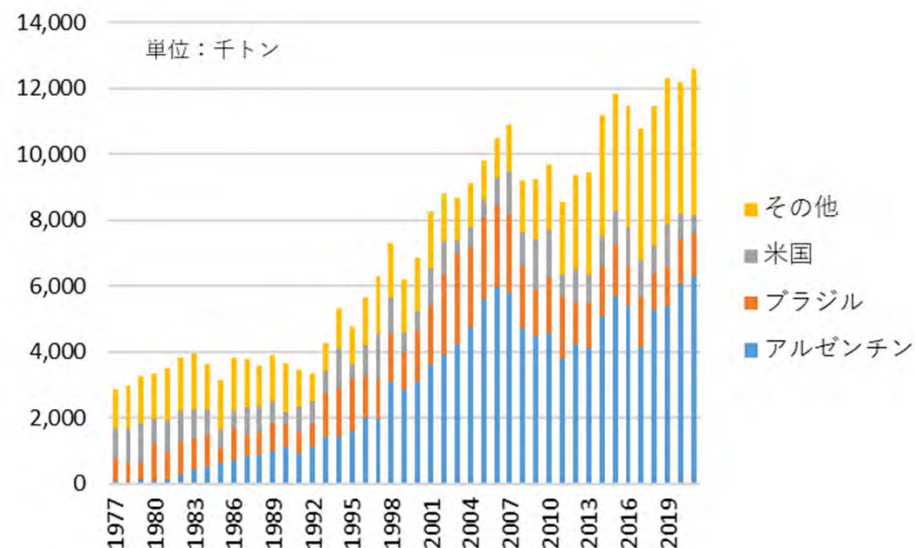


（注）一番左に位置するプロットから、1970年代、80年代、90年代、00年代、10年代、20年代を示す。

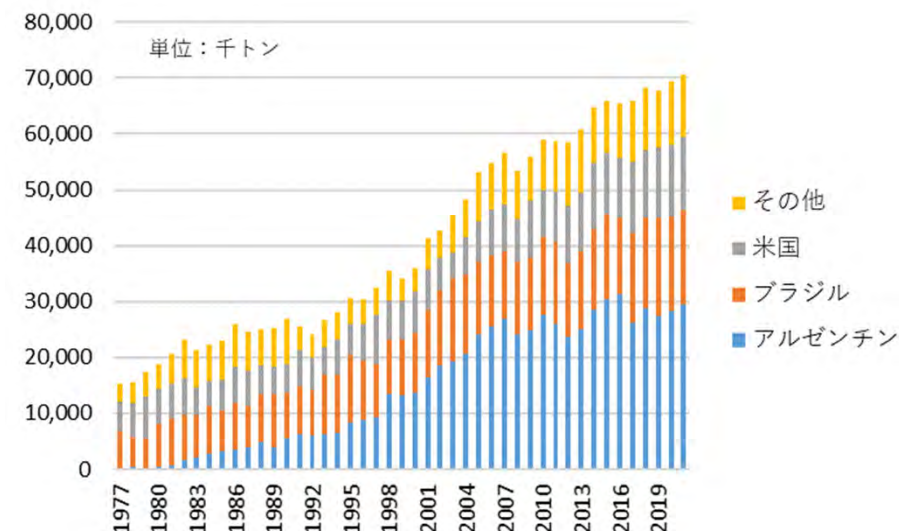
アルゼンチン大豆加工品の輸出シェア

- 世界有数の大豆生産国であるアルゼンチン・ブラジル・米国が、大豆加工品輸出の約7割を占有。
- アルゼンチンは、大豆(粒)ではなく加工品の輸出を奨励しており、これらの輸出シェアのトップ。

世界の大豆油輸出量



世界の大豆粕輸出量



(輸出シェアの推移)

	アルゼンチン	ブラジル	米国	その他
1970年代	2.8%	19.3%	35.3%	42.6%
1980年代	15.0%	23.5%	20.6%	40.9%
1990年代	34.8%	22.8%	16.2%	26.2%
2000年代	50.5%	23.6%	9.9%	16.0%
2010年代	45.0%	13.4%	9.7%	31.8%
2020年代	49.9%	10.7%	5.4%	34.0%

(輸出シェアの推移)

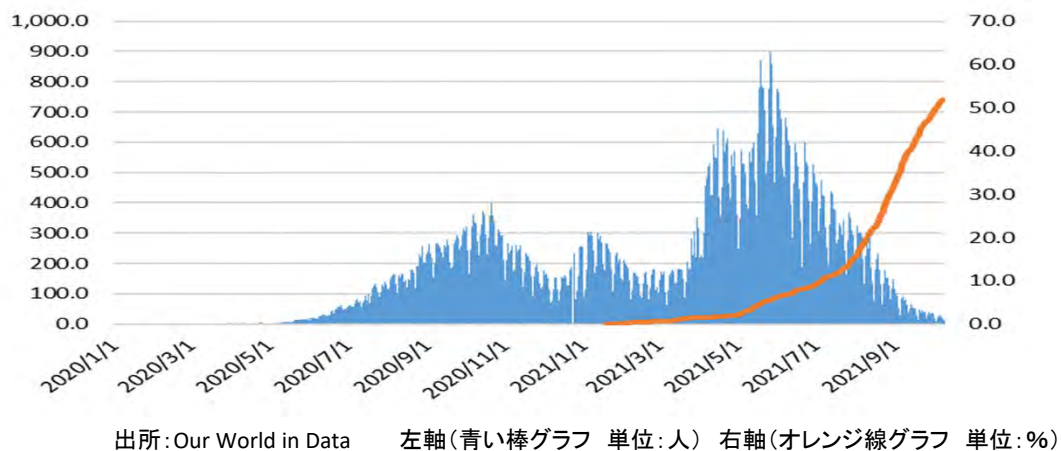
	アルゼンチン	ブラジル	米国	その他
1970年代	2.0%	35.7%	38.8%	23.5%
1980年代	11.8%	35.5%	24.5%	28.2%
1990年代	28.5%	33.4%	21.5%	16.7%
2000年代	44.0%	26.5%	15.0%	14.6%
2010年代	43.4%	23.5%	17.1%	16.1%
2020年代	41.2%	24.4%	18.3%	16.1%

出所：米国農務省（USDA）PSD Onlineおよび「世界の食料統計（<http://worldfood.apionet.or.jp/graph/>）」

アルゼンチンのコロナ感染拡大と農業への影響

- 感染確認後、外出禁止令が発出されたが、農牧業等に対しては例外的に制約は課せられず。
- 一方、通貨下落による資材調達コスト増加や中国による牛肉輸入停止などの混乱がみられた。

〔アルゼンチンの100万人あたりの新規感染者数・ワクチン完全接種率〕



＜アグリビジネスへの影響＞

- ✓ 経済への影響を懸念し、行動規制の緩和を行ったところ、感染者数が急増し、厳しい行動規制を実施。
- ✓ 2021年10月時点では、感染者数も大幅に減少したため、行動規制も大きく緩和。
- ✓ 2020年、ペソの大幅下落もあり、輸入に頼る農薬などの農業資材の調達コストが急増。
- ✓ 2020年11月に、中国によるアルゼンチンの一部の食肉加工施設からの輸入を停止。
- ✓ 大豆輸出の加速化のため、2020年10月から12月まで輸出税の減免を実施。

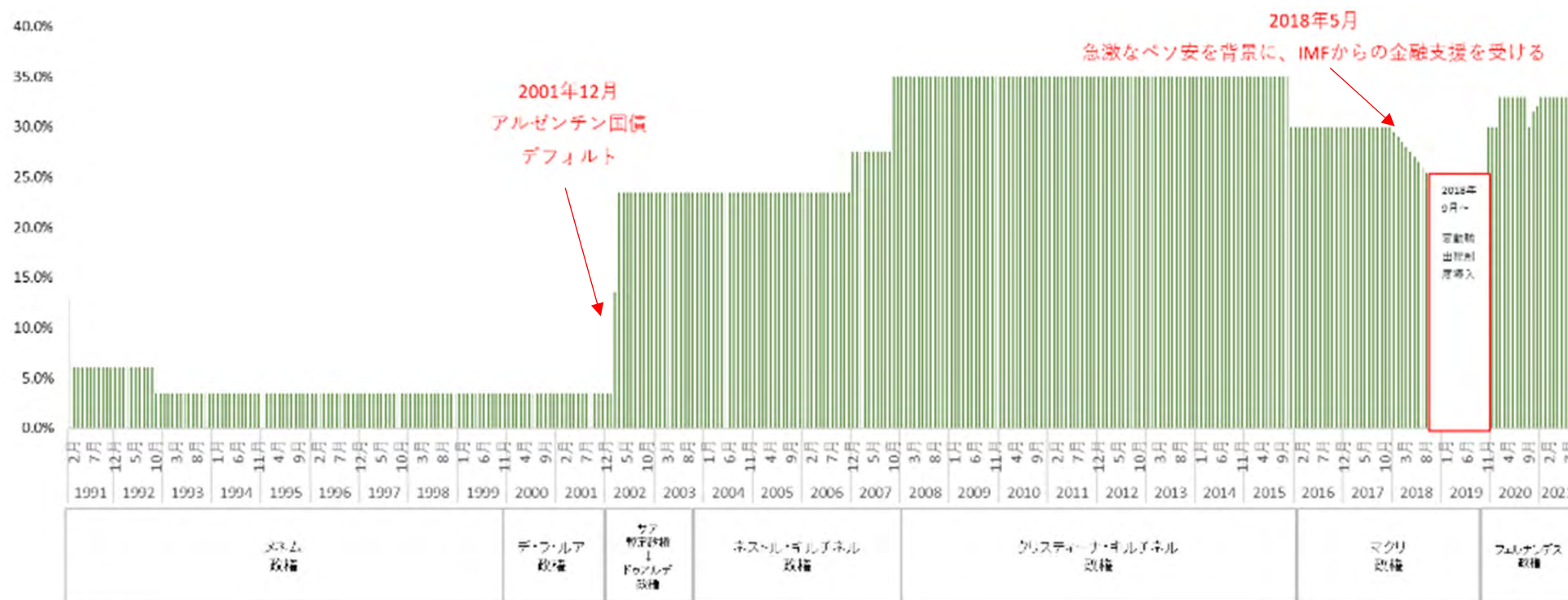
2020年3月	最初の感染者が確認→外出禁止令を発出
(同月)	Covid-19に係る経済対策を発表し、食料品価格の上限を設定するなどの対策を実施。

出所：中村出（2021）「アルゼンチン」『主要国農業政策・貿易政策プロ研資料』農林水産政策研究所、アルゼンチン農牧漁業省

アルゼンチン農業の課題：財源として大豆輸出税

- アルゼンチン政府は、政府財政源確保のために、農産物に対する輸出税賦課を実施。
大豆も長期的に30%程度の輸出税が課されている
- なお、国内雇用創出および付加価値の高いものを輸出するために、大豆加工品に対する輸出インセンティブもあり。

アルゼンチンにおける大豆（粒）輸出税推移



出所：アルゼンチン油産業会（CIARA）およびアルゼンチン各種法令

アルゼンチン農業の今後の注目点

- Covid-19感染確認後、外出禁止令が発出されたものの、農牧業等に対しては例外的に制約は課せられず。一方、通貨下落による資材調達コスト増加や中国による牛肉輸入停止などの混乱がみられた。
- 食料の国内供給に対する懸念から生じる価格高騰という問題に対して、アルゼンチンは輸出規制を実施。
- 今後、アルゼンチンの財政と輸出税に対する取り組みが着目すべきポイント。
- 11月15日に実施された中間選挙における与党の敗北もあり、今後の政情の行方は要注視。

【利用上の注意】

食料安全保障月報は、国際穀物需給に関し、在外公館からの情報、農林水産省が独自に各国の現地コンサルタント等を通じて入手した情報、公的機関（各国政府機関、FAO、IGC 等）の公表資料、Oil World 等民間の調査会社から購入した資料、その他、商社情報や新聞情報等から入手した情報を農林水産省の担当者において検証、整理、分析したものです。

○ 本月報に記載のない情報は以下を参照願います。

（１） 農林水産省の情報

ア 我が国の食料需給表や食品価格、国内生産等に関する情報

- ・ 食料需給表：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/fbs/>
- ・ 食品の価格動向：<http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/anpo/kouri/index.html>
- ・ 米に関するマンスリーレポート：<http://www.maff.go.jp/j/seisan/keikaku/soukatu/mr.html>

イ 中・長期見通しに関する情報

- ・ 食料需給見通し（農林水産政策研究所）：<http://www.maff.go.jp/primaff/seika/jyukyu.html>

（２） 農林水産関係機関の情報（ALIC の情報サイト）：<https://www.alic.go.jp/>

- ・ 砂糖、でんぷん：<https://www.alic.go.jp/sugar/index.html>
- ・ 野菜：<https://www.alic.go.jp/vegetable/index.html>
- ・ 畜産物：<https://www.alic.go.jp/livestock/index.html>

（３） その他海外の機関（英語及び各国語となります）

ア 国際機関

- ・ 国連食糧農業機関（FAO）：<https://www.fao.org/home/en>
- ・ 国際穀物理事会（IGC）：<https://www.igc.int/en/default.aspx>
- ・ 経済協力開発機構（OECD）（農業分野）：<https://www.oecd.org/agriculture/>
- ・ 農業市場情報システム（AMIS）：<http://www.amis-outlook.org/>

イ 各国の農業関係機関（代表的なものです）

- ・ 米国農務省（USDA）：<https://www.usda.gov/>
- ・ ブラジル食料供給公社（CONAB）：<https://www.conab.gov.br/>
- ・ カナダ農務農産食品省（AAFC）：<https://agriculture.canada.ca/en/sector/crops/reports-statistics>
- ・ 豪州農業資源経済科学局（ABARES）：<http://www.agriculture.gov.au/abares>

○ 食料安全保障月報で使用している統計数値は、主に米国農務省が 2021 年 12 月中旬までに発表した情報を引用しています。

さらに詳細なデータ等が必要な場合は、米国農務省のホームページを参照願います。

http://www.usda.gov/wps/portal/usda/usdahome?navid=AGENCY_REPORTS

主な参考資料

「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

<http://www.usda.gov/oce/commodity/wasde/>

「Grain : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/grain-world-markets-and-trade>

「Oilseeds : World Markets and Trade」

<https://www.fas.usda.gov/data/oilseeds-world-markets-and-trade>

「World Agricultural Production」

<https://www.fas.usda.gov/data/world-agricultural-production>

「PS&D」

<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/advQuery>

など

- **データは予測値であり、毎月各種データの更新を受けて改訂されます**ので留意してください。
- 資料原典で表示されるブッシェル及びエーカー等の単位は、それぞれトン及びヘクタールに換算して記載しています。
- 資料原典において現地通貨で表示される金額を円換算するにあたっては、日本銀行国際局・財務大臣公示の基準外国為替相場及び裁定外国為替相場等の換算レートを用いています。
- 市場年度は、おおむね各国で作物が収穫される時期を期首として各国ごとに設定されているため、国、作物によって年度の開始月は異なります。
なお、各国別、作物別の市場年度は、米国農務省によります。
<https://apps.fas.usda.gov/psdonline/app/index.html#/app/downloads>
(注：同サイトの「Reference Data」を参照)
- 期末在庫率の対前年度増減率の欄は、前年度とのポイント差になります。なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合があります。
- 本資料の引用等につきましては、出所（農林水産省発行「食料安全保障月報」）を併記願います。

なお、生産見通し等の予測は、各国国際機関及び各国の農業機関によりそれぞれの分析手法に基づき行われるため、機関によってデータの相違がある場合があります。また、各国の農業機関の公表を受けて、国際機関の見通しが改訂される場合があります。

英国については、2020 年 1 月 31 日付けで EU を離脱しました。英国の小麦に関する情報については小麦の EU27+英国のコーナーで取り扱います。

- 本月報の電子版は下記アドレスでご覧になれます。

農林水産省 食料安全保障月報

http://www.maff.go.jp/j/zyukyu/jki/j_rep/index.html

- 本資料に関するご質問、ご意見等は、下記までお願いします。

連絡先	農林水産省大臣官房政策課食料安全保障室 TEL : 03-6744-2368 (直通)
------------	--